

教員名	室城 隆之(T-0203)		履修開始年次	3年	単位※1	2単位
年度	2022年度	科目名	司法・犯罪心理学/犯罪心理学			
学期※2	2022年度後期		学校区分	大学		
科目群	心2群		区分(授業形態)	週間授業		
副題	司法・犯罪分野の心理学理論と心理学的支援について学ぶ					
授業の概要	<p>この授業では、司法・犯罪分野の心理に関する支援について、基本的な理論と実践に関する知識を修得する。最初に、犯罪の原因に関する生物学的、社会的、心理学的諸理論について学習する。次に、犯罪者の捜査、司法手続き、処遇、立ち直りという一連のプロセスにおいて心理学が果たす役割と心理的支援、また、犯罪被害者への支援や犯罪の予防について学ぶ。さらに、家庭裁判所で扱われる家事事件とそれに対する心理的支援についても学ぶ。最後に、各種犯罪の特徴についても考察する。</p> <p>この授業は、基本的には講義形式で実施するが、視聴覚教材も使用する。また、リアクションペーパーを用いた双方向的な学習ができるようにする。</p> <p>なお、資料の配付、課題の提出等では、Google Classroomを使用する。</p>					
到達目標	<p>この科目は、社会学部の「教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている」というディプロマ・ポリシーに関連するとともに、人間心理学の「心理学、臨床心理学、カウンセリング等に関する教育・研究を深め、専門知識と実践力を有し、真の人間を理解することができる」というディプロマ・ポリシーに関連する。</p> <p>具体的な到達目標は、以下のとおりである。</p> <p>(1) 犯罪・非行、犯罪被害及び家事事件についての基本的知識を身につける。</p> <p>(2) 司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援について学ぶ。</p>					

授業内容及び準備学習(予習・復習)の内容

第1回	<p>司法・犯罪心理学とは何か～対象と方法、研究と倫理</p> <p>予習:テキストを読み、犯罪心理学の対象と方法および倫理について調べておく(100分)。</p> <p>復習:犯罪心理学の研究対象、方法、研究における倫理をについて説明できる(100分)。</p>
第2回	<p>犯罪の原因(1)</p> <p>生物学的要因</p> <p>予習:テキストを読み、犯罪心理学の生物学的要因について調べておく(100分)。</p> <p>復習:生物学的要因についての研究史、新しい生物学的理論について説明できる(100分)。</p>
第3回	<p>犯罪の原因(2)</p> <p>社会的要因</p> <p>予習:テキストを読み、犯罪心理学の社会的要因について調べておく(100分)。</p> <p>復習:社会的要因について、3つの理論とその代表的な研究者およびその理論について説明できる(100分)。</p>
第4回	<p>犯罪の原因(3)</p> <p>心理学的要因、環境との相互作用、犯罪原因の統合的理解</p> <p>予習:テキストを読み、犯罪心理学の心理学的要因について調べておく(100分)。</p> <p>復習:心理学的要因について、代表的な研究者およびその理論について説明できる。犯罪原因の統合的理解モデルについて説明できる(100分)。</p>
第5回	<p>犯罪捜査と心理学</p> <p>予習:テキストを読み、犯罪者プロファイリング、虚偽検出、目撃証言について調べておく(100分)。</p> <p>復習:犯罪者プロファイリングの歴史と方法、虚偽検出の方法、目撃証言に関する様々な実験について説明できる(100分)。</p>
第6回	<p>非行・犯罪に対する司法手続き～アセスメントを中心に</p> <p>予習:テキストを読み、非行・犯罪者に対するアセスメントについて調べておく(100分)。</p> <p>復習:非行・犯罪者に対するアセスメントについて、司法プロセスの流れとともに説明できる(100分)。</p>
第7回	<p>非行・犯罪者の処遇・矯正</p> <p>予習:非行・犯罪者の処遇について調べておく(100分)。</p> <p>復習:非行・犯罪者の処遇について、司法プロセスの流れとともに説明できる(100分)。</p>
第8回	<p>家事事件と心理的支援</p> <p>予習:家庭裁判所における家事事件について調べておく(100分)。</p> <p>復習:家庭裁判所の家事事件における家庭裁判所調査官による心理的支援について説明できる(100分)。</p>
第9回	<p>犯罪者の立ち直り</p> <p>予習:テキストを読み、犯罪からの立ち直りについて調べておく(100分)。</p> <p>復習:犯罪者に対する新しい処遇、犯罪者の立ち直りに関する諸理論について説明できる(100分)。</p>
第10回	<p>犯罪各論(1)</p> <p>暴力犯罪、殺人</p> <p>予習:参考書などで、暴力犯罪、殺人について調べておく(100分)。</p> <p>復習:暴力犯罪の種類、暴力犯罪や殺人を起こす加害者の心理的特徴について説明できる(100分)。</p>
第11回	<p>犯罪各論(2)</p>

	性犯罪、放火 予習:参考書などで、性犯罪、放火について調べておく(100分)。 復習:性犯罪、放火の種類と加害者の心理的特徴について説明できる(100分)。
第12回	犯罪各論(3) 窃盗等の財産犯、その他の犯罪 予習:参考書などで、窃盗等の財産犯について調べておく(100分)。 復習:財産犯の種類と加害者の心理的特徴について説明できる(100分)。
第13回	犯罪各論(4) 少年非行 予習:少年非行について調べておく(100分)。 復習:代表的な少年非行と加害者の心理的特徴について説明できる(100分)。
第14回	被害者支援と犯罪予防 まとめ～司法・犯罪心理学の課題 予習:被害者支援の内容および司法・犯罪心理学の課題について調べ、自分の考えをまとめておく(100分)。 復習:被害者支援の内容について説明できる。これまでの講義内容を振り返る(100分)。

成績評価方法・基準	到達目標(1)「犯罪・非行、犯罪被害及び家事事件についての基本的知識を身につける」及び「(2)司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援について学ぶ」について、毎回の講義終了時に提出するリアクション・ペーパー(45%)と定期試験(55%)を合計して評価する。
-----------	--

書名	著者	出版社	ISBN	備考
『Progress & Application司法・犯罪心理学』	越智啓太	サイエンス社	978-4-7819-1481-7	
参考書	『犯罪心理学-犯罪の原因をどこに求めるのか』 大淵憲一 培風館			
その他	授業内容に関する質問は、毎回提出するリアクション・ペーパーに記載すること。それ以外の連絡は、tmuroki@edogawa-u.ac.jpにメールをすること。			
参考URL				

実務経験	あり(実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用)
実務経験詳細	家庭裁判所調査官として勤務。28年間、非行臨床(アセスメント、心理教育、カウンセリング)及び夫婦・家族臨床に従事。
学生を主体とする教育方法の実践	該当なし
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(2)/人間心理学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	室城 隆之(T-0203)		履修開始年次	カリキュラムにより異なります。	単位※1	2単位
年度	2022年度	科目名	カウンセリング概論			
学期※2	2022年度後期		学校区分	大学		
科目群	心2群		区分(授業形態)	週間授業		
副題	カウンセラーとクライアントの交流の場としてのカウンセリングを学ぶ					
授業の概要	この科目は、臨床心理学の実践としてのカウンセリングについて、その基礎となる諸理論を体系的に学ぶことを目的とする。また、カウンセリング理論の1つである交流分析理論について詳細に学ぶことによって、理論を実際に活用することができるようになることを目標とする。パワーポイントを用いた講義が中心となるが、演習を用いた体験的な学習や、リアクションペーパーを用いた双方向的な学習ができるようにする。なお、毎回の講義開始時に資料を配布する。 この科目では、資料の配付、課題の提出等では Google Classroom を使用する。					
到達目標	この科目は、社会学部の「教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている」というディプロマ・ポリシーに関連するとともに、人間心理学科のディプロマポリシーである「個人の多様性を理解し、それを受け入れ可能な社会の構築・維持について考えることができる。」に関連しており、以下を到達目標とする。 1. カウンセリングの構造、理論を概説できる。 2. カウンセリングの理論の1つである交流分析の理論および技法について概説し、活用できる。					

授業内容及び準備学習(予習・復習)の内容

第1回	カウンセリングとは何か 予習:カウンセリングとは何かについて調べ、自分の見解を持つ。(100分) 復習:配布資料を復習し、カウンセリングの定義、目標、特徴、カウンセリングのものの見方を説明できる。(100分)
第2回	カウンセリングの構造と基本的な技法 予習:カウンセリングの構造と基本的な技法について調べておく。(100分) 復習:配布資料を復習し、カウンセリングの構造、基本的な技法を説明できるようにする。(100分)
第3回	カウンセリングのプロセスと技法(1) カウンセリングのプロセスと面接初期の技法 予習:カウンセリングの流れ(プロセス)と技法について調べてくる。(100分) 復習:配布資料を復習し、カウンセリングのプロセス、技法を説明できるようにする。(100分)
第4回	カウンセリングのプロセスと技法(2) カウンセリングのプロセスと面接中期・後期の技法 予習:カウンセリングの中期・後期の技法について調べてくる。(100分) 復習:配布資料を復習し、カウンセリングの中期・後期の技法を説明できるようにする。(100分)
第5回	精神分析療法のカウンセリング 予習:精神分析療法について調べてくる。(100分) 復習:配布資料を復習し、精神分析療法と精神分析療法のカウンセリングの違いを説明できるようにする。(100分)
第6回	認知・行動療法のカウンセリング 予習:認知・行動療法について調べてくる。(100分) 復習:配布資料を復習し、認知・行動療法のカウンセリングの特徴、技法について説明できるようにする。(100分)
第7回	人間性心理学のカウンセリング 予習:人間性心理学(ヒューマニスティック・アプローチ)について調べてくる。(100分) 復習:配布資料を復習し、人間性心理学のカウンセリングの特徴、種類を説明できるようにする。(100分)
第8回	集団療法・家族療法のカウンセリング 予習:集団療法・家族療法について調べてくる。(100分) 復習:配布資料を復習し、集団療法・家族療法のカウンセリングの特徴、技法を説明できるようにする。(100分)
第9回	交流分析(1) 自我状態 予習:テキストを読み、交流分析と自我状態について調べてくる。(100分) 復習:配布資料を復習し、交流分析、自我状態について説明できるようにする。(100分)
第10回	交流分析(2) やりとり分析 予習:テキストを読み、やりとり分析について調べてくる。(100分) 復習:配布資料を復習し、様々なやり取りについて説明できるようにする。(100分)
第11回	交流分析(3) 脚本分析

	予習:テキストを読み、脚本分析について調べてくる。(100分) 復習:配布資料を復習し、脚本とは何か、どのように形成されるかについて説明できるようにする。(100分)
第12回	交流分析(4) 脚本化された行動(ラケットとゲーム) 予習:テキストを読み、脚本化された行動について調べてくる。(100分) 復習:配布資料を復習し、ラケットとゲームについて説明できるようにする。(100分)
第13回	ゲシュタルト療法 予習:テキストを読み、ゲシュタルト療法について調べてくる。(100分) 復習:配布資料を復習し、ゲシュタルト療法の特徴、技法について説明できるようにする。(100分)
第14回	再決断療法 予習:テキストを読み、再決断療法について調べてくる。(100分) 復習:配布資料を復習し、再決断療法の特徴、技法について説明できるようにする。(100分)

成績評価方法・基準	カウンセリングの構造、理論および交流分析の理論および技法の理解度を問うための、毎回の講義終了時に提出するリアクションペーパー(45%)およびカウンセリングの構造、理論の理解度および交流分析の理論および技法を活用できるかを問う最終レポート(55%)によって評価する。リアクションペーパーについては、毎回、次の講義の際に評価する。
-----------	---

書名	著者	出版社	ISBN	備考
「生きづらさを手放す」-自分らしさを取り戻す再決断	室城隆之	春秋社	978-4-393-36551-9	
参考書	「はじめてのカウンセリング入門(上)」-カウンセリングとは何か 諸富祥彦著 誠信書房 978-4-414-40368-8 「はじめてのカウンセリング入門(下)」-ほんものの傾聴を学ぶ 諸富祥彦著 誠信書房 978-4-414-40369-5			
その他	・本科目は公認心理師の受験資格にはなっていないが、公認心理師を目指す学生は受講することを推奨する。 ・授業内容に関する質問は、毎回提出するリアクション・ペーパーに記載すること。それ以外の連絡は、tmuroki@edogawa-u.ac.jpにメールをすること。			
参考URL				

実務経験	あり(実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用)
実務経験詳細	家庭裁判所調査官として勤務。28年間、非行臨床(アセスメント、心理教育、カウンセリング)及び夫婦・家族臨床に従事。
学生を主体とする教育方法の実践	グループワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(2)/人間心理学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	堀内 美穂子(D-0104)		履修開始年次	1年	単位※1	2単位
年度	2022年度	科目名	精神保健			
学期※2	2022年度前期		学校区分	大学		
科目群	心2群		区分(授業形態)	通開授業		
副題	身体・心理・社会的支援とwell-being					
授業の概要	<p>精神保健の基本的視点や基礎知識を学び、精神保健の意義・課題を考える。また、ライフサイクルの各段階で生じる精神保健の課題を知り、その対処に必要な各種専門機関や支援機関の役割と多職種による連携支援についても概説する。この科目の学びは、社会学部(2)「教養としての基礎知識及び先行する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている」、人間心理学科(1)「学術的な知見とエビデンスに基づいて、こころの基礎的メカニズムを理解し、ヒトの行動について科学的に考えることが出来る」(2)「個人の多様性を理解し、それを受入可能な社会の構築・維持について考える事ができる」とのディプロマ・ポリシーに基づく。</p> <p>授業資料はGoogleClassroomで配布し、第5/14回のテスト及びその他授業でも適宜パソコンを活用するため、パソコンは毎回持参すること。</p> <p>なお、コロナ感染拡大等により対面授業が困難となった場合、GoogleClassroom上に授業動画をアップロード又はGoogle Meet利用した授業実施とする。この場合も、周知されるイベントは必ず入力することを求める。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神の健康についての基本的考え方と歴史の変換を理解する 2. 現代社会におけるライフサイクルに応じた精神保健の諸課題と、地域の支援体制のしくみを理解する 3. 精神保健の維持・増進のために機能している専門機関と関係職種の活動と多職種の連携について理解し、その知識を活用することで、自らの健康を守り、必要に応じ周囲の人々を支援することができる 					

授業内容及び準備学習(予習・復習)の内容

第1回	<p>オリエンテーション：精神保健とは何か。精神保健の歴史と課題</p> <p>予習：「精神保健」とは何か、各自下調べを行う(100分)</p> <p>復習：精神の健康について基本的考え方を説明できる(100分)</p>
第2回	<p>ライフサイクルからみた精神保健(1)エリクソンの発達課題(出生前、乳幼児期、学童期)</p> <p>予習：エリクソンのライフサイクルと各段階の課題について調べ、ノートにまとめておく(100分)</p> <p>復習：出生前から学童期に生じる精神保健の課題とその支援の現状を説明できる(100分)</p>
第3回	<p>ライフサイクルからみた精神保健(2)エリクソンの発達課題(思春期、青年期、成人期、老年期)</p> <p>予習：思春期や青年期に生じる精神保健的課題について考え、ノートにまとめておく(100分)</p> <p>復習：思春期や青年期に生じる精神保健の課題と成人期、老年期の課題の概要とその特徴をできる(100分)</p>
第4回	<p>各種健康障害と精神保健</p> <p>予習：人々が生涯において罹患し、心の健康に影響をあたえる疾患について調べてノートにまとめておく(100分)</p> <p>復習：各種疾患により生じる精神保健の課題と支援の現状について説明できる(100分)</p>
第5回	<p>精神の健康と支援 および 中間テスト(30点)</p> <p>予習：精神の健康とは何か、定義について調べてノートにまとめておく(100分)</p> <p>復習：精神の健康について、国際的な視点による定義とその実践について説明できる(100分)</p>
第6回	<p>精神保健における家族アプローチ</p> <p>予習：精神の健康の保持・増進における家族の役割について考え、ノートにまとめておく(100分)</p> <p>復習：精神保健活動において、家族支援や家族教育がなぜ重要視されるのか、説明できる(100分)</p>
第7回	<p>学校精神保健</p> <p>予習：就学期において生じる精神保健の課題を3個考え、その概略を調べノートにまとめておく(100分)</p> <p>復習：就学期において生じる精神保健の課題とその支援体制について説明できる(100分)</p>
第8回	<p>青年期精神保健</p> <p>予習：青年期において生じる精神保健の課題を3個考え、その概略を調べ、ノートにまとめておく(100分)</p> <p>復習：青年期において生じる精神保健の課題とその支援体制について説明できる(100分)</p>
第9回	<p>成人期・老年期精神保健</p> <p>予習：成人期から老年期において生じる精神保健の課題を3個考え、その概略を調べ、ノートにまとめておく(100分)</p> <p>復習：成人期から老年期において生じる精神保健の課題とその支援体制について説明できる(100分)</p>
第10回	<p>認知症疾患とターミナルケア</p> <p>予習：認知症疾患の内容とその疾患の特徴を調べておく(100分)</p> <p>復習：認知症疾患の特徴を概説し、治療や生活支援の課題について自らの考え方を述べる事が出来る(100分)</p>
第11回	<p>障害者の社会参加と精神保健</p> <p>予習：障害者福祉の視点から、3つの障害種別とは何か調べ、ノートにまとめておく(100分)</p> <p>復習：障害者の社会参加や障害者就労の現状と課題について説明できる(100分)</p>
第12回	アルコールを含む薬物依存をめぐる精神保健の課題

	<p>予習：アディクションとは何か調べておく(100分) 復習：アディクション問題に関連した社会的課題について説明できる(100分)</p>
第13回	<p>地域精神保健における災害精神保健と自殺予防対策 予習：サイコロジカルファーストエイドとは何か、ノートにまとめておく 日本における自殺者の数と動向と特徴をノートにまとめておく(100分) 復習：災害時に生じる精神保健的課題とケアについて、自らの考えを説明できる 日本の自殺者の現状とその特徴について説明できる(100分)</p>
第14回	<p>総括・評価 総括および授業内テスト(70点) 予習：授業の総括を行う(100分) 復習：ノートを整理する(100分)</p>
成績評価方法・基準	<p>えどへんは必ず入力すること。授業回によっては、理解度確認のため、授業時間内で回答できるようにアクションペーパーの提出を指示する。 えどへん入力が3分の2を満たさない場合は、成績評価対象とはみなさない。 第5回の授業内中間テスト(30%)・第14回の授業内総括テスト(70%)の合計点で評価する。 授業資料は、原則、Google classroomにより、前々日までに配信する。 教員への質問(評価対象外)は、各授業配布Google classroomのコメント欄に 翌週(月)17:00までに入力すること。 第5回・14回のテストはGoogleformを利用し授業時間内に実施、回答締め切りを行う。公欠の場合は、個別に教員に申し出ること。</p>
参考書	<p>新・精神保健福祉士養成講座第3版 2精神保健の課題と支援, 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編,</p>
その他	<p>教員への個別連絡の必要性がある場合は、horluchi@edogawa-u.ac.jpへメールをすること。 他学科履修希望者は、<件名:「精神保健」他学科履修希望について>とし、 ①学科名 ②学籍番号 ③名前 ④履修を希望する理由 ⑤教員に伝えておきたいこと(自由回答)を記載のうえ、 担当教員 horluchi@edogawa-u.ac.jp まで連絡のこと。</p>
参考URL	
実務経験	<p>あり(実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用)</p>
実務経験詳細	<p>産能大学 メンタルマネジメント相談室においてインターカー業務に従事したのち、千葉県に精神保健福祉相談員として入庁。 県内保健所、精神保健福祉センター等に勤務し、精神保健福祉業務に従事。</p>
学生を主体とする教育方法の実践	<p>該当なし</p>
ディプロマポリシーとの関連性	<p>社会学部(2) / 人間心理学科(1) / 人間心理学科(2)</p>

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	堀内 美穂子(D-0104)		履修開始年次	カリキュラムにより異なります。	単位※1	2単位
年度	2022年度	科目名	関係行政論			
学期※2	2022年度後期		学校区分	大学		
科目群	心3群		区分(授業形態)	週間授業		
副題	心理的支援に必要な法律と制度					
授業の概要	<p>本科目は公認心理師受験資格取得のための指定科目である。公認心理師を目指す人は必ず履修すること。</p> <p>公認心理師が活動することが期待される主要5分野（保健・医療、教育、福祉、司法・犯罪、産業・労働）に関連する法制度を理解する。これにより、要支援者の守秘義務と各法律における通告義務などの中で優先すべき法律を踏まえつつ、各分野における支援法も含めて支援活動を展開する力を修得する。</p> <p>資料の配付や課題（確認テストやアクションペーパー）提示にはGoogle Classroomを使用し、オンライン授業となった場合には、授業動画をClassroom内にアップロード若しくはアクセスのためのURLを明示する。場合によっては、Meetを活用する。</p>					
到達目標	<p>(1) 各事例の支援にあたり、どのような法制度が関係しているか説明することができる</p> <p>(2) 複雑な法律を活用した多角的な支援方略を検討し、自らの意見を他関係職種に伝達し連携するための基礎的コミュニケーション力を修得する</p> <p>この科目は、社会学部(5)「現代の社会における諸課題の解決をはかりながら、持続可能な社会の構築に貢献できる」、(6)「優しさと温かみに満ち、総合的な判断能力をもつことが出来る」及び人間心理学科(2)「心理学、臨床心理学、カウンセリング等に関する教育・研究を深め、専門知識と実践力を有し、真の人間を理解することが出来る」とのディプロマポリシーに関連し、公認心理師として法制度を遵守・活用しつつ、要支援者を支援する方略を想定事例のグループセッション等を通じて身につけるものである。</p>					

授業内容及び準備学習(予習・復習)の内容

第1回	<p>公認心理師法と日本における関連法規</p> <p>予習：修得済み科目である公認心理師の職責・福祉心理学における学びを振り返っておく(100分)</p> <p>復習：公認心理師が法律を学ぶ意義を説明できる(100分)</p>
第2回	<p>保健・医療分野に関する法制度(1)ー保健分野ー</p> <p>予習：保健分野で展開されている心理的支援についてノートに書き出しておく(100分)</p> <p>復習：保健分野における各事例について、どのような法制度との関係性を考えるべきか説明できる(100分)</p>
第3回	<p>医療・医療分野に関する法制度(2)ー医療分野ー</p> <p>予習：医療分野で展開されている心理的支援についてノートに書き出しておく(100分)</p> <p>復習：医療分野における各事例について、どのような法制度との関係性を考えるべきか説明できる(100分)</p>
第4回	<p>福祉分野に関する法制度(1)児童福祉</p> <p>予習：児童福祉法の設立時期と設立目的をノートに書き出しておく(100分)</p> <p>復習：児童福祉法における公認心理師の役割と心理的支援について説明できる(100分)</p>
第5回	<p>福祉分野に関する法制度(2)障害福祉・高齢者福祉</p> <p>予習：障害者基本法・高齢者福祉法の設立時期と設立目的をノートに書き出しておく(100分)</p> <p>復習：障害者や高齢者福祉領域における心理的支援と今日的な課題について説明できる(100分)</p>
第6回	<p>教育分野に関する法制度(1)</p> <p>予習：日本国憲法に定められる教育に関する法律とその内容をノートに書き出しておく(100分)</p> <p>復習：教育基本法・学校教育法・学校保健安全法についてその概要を説明できる(100分)</p>
第7回	<p>教育分野に関する法制度(2)</p> <p>予習：スクールカウンセラーの配置開始時期とその目的をノートに書き出しておく(100分)</p> <p>復習：チーム学校の機能と構成、各構成員の役割について説明できる(100分)</p>
第8回	<p>司法・犯罪分野に関する法制度(1)ー刑事事件ー</p> <p>予習：家庭裁判所の機能について調べノートに書き出しておく(100分)</p> <p>復習：家事・少年事件における心理アセスメントとその支援の概要について説明できる(100分)</p>
第9回	<p>司法・犯罪分野に関する法制度(2)ー家事と少年法ー</p> <p>予習：家庭裁判所の機能について調べノートに書き出しておく(100分)</p> <p>復習：家事・少年事件における心理アセスメントとその支援の概要について説明できる(100分)</p>
第10回	<p>産業・労働分野に関する法制度(1)制度編</p> <p>予習：労働三法及び、労働安全衛生法とは何か、ノートに概要をまとめておく(100分)</p> <p>復習：労働分野におけるメンタルヘルス対策と心理的支援について説明できる(100分)</p>
第11回	<p>産業・労働分野に関する法制度(2)支援編</p> <p>予習：産業・労働分野の支援者が扱うメンタルヘルスの支援課題を5つ挙げ、ノートにまとめておく(100分)</p> <p>復習：労働分野における公認心理師の役割と、他職種との連携の必要性について説明できる(100分)</p>

第12回	横断的な心理的支援の展開 予習：地域で発生する支援事例を1つ考え、その事例と関連する法律が何かを挙げてみる（100分） 復習：予習で作成した支援計画について、加筆・修正を加える（100分）
第13回	法制度の限界と今後 予習：尊厳死に関する法整備の現状を調べておく（100分） 復習：法制度の限界と課題について説明することができる（100分）
第14回	総括・評価 総括（30分）及び授業内テスト（60分） 本講義を通じて、自分がどのような学びを今後深めていくべきかを振り返る 予習：各分野ごとに、印象に残ったテーマと、印象に残った理由をノートにまとめておく（100分） 復習：各分野において心理学的支援に関連する法律について説明できる（100分）

成績評価方法・基準	授業時間内で提示される課題（確認テストやリアクションペーパー）やディスカッションへの取り組み姿勢（30%）、授業内総括テスト（70%）により評価する。 課題はGoogle Classroom内でGoogle Form等により提示し、評価はシステムを通じてフィードバックされる。 定期試験期間中のテストは行わない。
-----------	--

参考書	公認心理師の基礎と実践23 関係行政論 元永拓郎編 遠見書房
その他	えどへんは、各授業で必ず入力すること。入力が評価の所定日数に達しない場合は、成績評価を行わない。 授業においては、想定課題の提示等により、ディスカッションや意見表明が発言が求められ、この内容も評価の対象と含まれる。 質問等については、Google Classroom内の課題シート、又は授業当日のClassroomへのコメント欄にて翌週（月）17:00迄受け付ける。 授業内総括テストは、授業実施時間内で行われる。 個別の相談・必要事項の連絡は、 horuchi@edogawa-u.ac.jp を利用すること。
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	産能大学 メンタルマネジメント相談室においてインテーカー業務に従事したのち、千葉県に精神保健福祉相談員として入庁。県内保健所、精神保健センター等に勤務、精神保健福祉業務に従事。
学生を主体とする教育方法の実践	ディスカッション、ディベート/グループワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(5)/社会学部(6)/人間心理学科(3)/人間心理学科(4)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	堀内 美穂子(D-0104)		履修開始年次	3年	単位数1	4単位
年度	2022年度	科目名	専門ゼミナールI			
学期※2	2022年度前期、2022年度後期		学校区分	大学		
科目群	心3群	区分(授業形態)	通関授業			
副題	地域保健・医療臨床					
授業の概要	<p>資料の配付や課題提示にはGoogle Classroomを使用し、オンライン授業となった場合には、Meetを利用したリアルタイム授業を行う。必ずカメラ・オンで参加すること。</p> <p>前期は、地域で発生する人々の心理的課題の事例を通じて、背景にある社会・文化的課題を踏まえて事例をアセスメントし、複数の視点から支援方略や課題を検討する力を身につける。</p> <p>本ゼミでは意見交換を重視するため、カメラ・オンに加え、適宜求めに応じてマイク・オンで発言することを求める。</p> <p>これらの作業を通じて、自己の思考プロセスを言語化し、自己洞察を深め、支援に寄与する結び付けた研究テーマを設定出来ることを目標とする。</p> <p>そのため、前期後半部では、事例検討を踏まえて、心理的支援に有効となる研究テーマを考える作業を行う。</p> <p>後期は、卒業論文の作成に向け、具体的な論文の読み方・書き方についてレクチャーを行う。</p> <p>加えて、自分の研究テーマの先行研究の知見をまとめ、発表しつつ、卒業研究に向けた研究計画を立案する。</p>					
到達目標	<p>1. 支援対象者の心理的課題について、社会文化的背景について調べた上で、事例をアセスメントし、支援方略やその課題を明らかに出来る</p> <p>2. 地域で発生する支援事例の背景要因について、研究テーマを探索し、先行研究の知見について学び、その内容を概説できる</p> <p>3. 自らが定める研究テーマの社会的意義について説明し、倫理的配慮を含めた適切な方法で調査・研究を行うことができる</p> <p>本科目は、社会学部の(3)「自分の意見を適切に表現し、他者に配慮しながら積極的にコミュニケーションできる」(5)「現代の社会における諸課題の解決を図りながら、持続可能な社会の構築に貢献できる」、及び、人間心理学の(2)「心理学、臨床心理学、カウンセリング等に関しての教育・研究を深め、専門知識と実践力を有し、真の人間を理解する事ができる」というディプロマ・ポリシーに基づく。</p>					

授業内容及び準備学習(予習・復習)の内容

第1回	<p>オリエンテーション：自分の心理学的関心を見つけよう</p> <p>予習：ゼミで学んでみたいことを各自ノートにまとめておく(100分)</p> <p>復習：自分の興味はどこにあるのか、その理由は何か、他者に伝わるようノートにまとめる(100分)</p>
第2回	<p>地域臨床における事例と心理支援者が果たすべき役割</p> <p>予習：地域で発生する支援のテーマを3つ考え、書き出してみる(100分)</p> <p>復習：地域における臨床支援活動で求められる心理支援者の役割について説明できる(100分)</p>
第3回	<p>事例検討とその方法</p> <p>予習：対人の際に必要な情報は何か、ノートに書きだしておく(100分)</p> <p>復習：提示事例に対して、対人支援に必要な情報と社会・文化的な背景と支援課題をまとめる(100分)</p>
第4回	<p>事例検討1 医療現場における心理支援の事例から</p> <p>予習：医療現場における事例について、自分なりの見立てをノートにまとめておく(100分)</p> <p>復習：医療現場における事例の支援に必要な知識と支援の在り方について概説できる(100分)</p>
第5回	<p>事例検討2 保健領域における心理支援の事例から</p> <p>予習：保健領域における事例について、自分なりの見立てをノートにまとめておく(100分)</p> <p>復習：保健領域における事例の支援に必要な知識と支援の在り方について概説できる(100分)</p>
第6回	<p>事例検討3 教育領域における心理支援の事例から</p> <p>予習：教育領域における事例について、自分なりの見立てをノートにまとめておく(100分)</p> <p>復習：教育領域における事例の支援に必要な知識と支援の在り方について概説できる(100分)</p>
第7回	<p>事例検討4 青年期における心理支援の事例から</p> <p>予習：青年期における事例について、自分なりの見立てをノートにまとめておく(100分)</p> <p>復習：青年期における事例の支援に必要な知識と支援の在り方について概説できる(100分)</p>
第8回	<p>事例検討5 成人期における心理支援の事例から</p> <p>予習：成人期における事例について、自分なりの見立てをノートにまとめておく(100分)</p> <p>復習：成人期における事例の支援に必要な知識と支援の在り方について概説できる(100分)</p>
第9回	<p>事例検討6 老年期における心理支援の事例から</p> <p>予習：老年期における事例について、自分なりの見立てをノートにまとめておく(100分)</p> <p>復習：老年期における事例の支援に必要な知識と支援の在り方について概説できる(100分)</p>
第10回	<p>対人支援に必要な知見と研究 -対人支援に必要な研究とは何か-</p> <p>予習：対人支援に必要な研究テーマを考え、ノートに書き留めておく(100分)</p> <p>復習：どのような研究が可能か考えてみる(100分)</p>
第11回	

	研究に向けたイメージづくり① 自分の思いを言語化し・発表する 予習：漠然とした思いを文字化する課題シートを完成させる (100分) 復習：他の人の意見を聞いて、自分のアイデアを絞り込む (100分)
第12回	研究に向けたイメージづくり② ー研究の社会的意義を考え、関連する文献を探索するー 予習：論文検索に利用するキーワードを書き出してみる(100分) 復習：自分の研究テーマに合致する先行研究をさがし、そのうち引用できると判断した研究を3つ選ぶ (100分)
第13回	研究に向けたイメージづくり③ ー論文検索とデータ管理ー 予習：検索した論文・書籍情報を揃えておく (100分) 復習：論文情報を要約表に整理する (100分)
第14回	研究に向けたイメージづくり④ ー研究テーマの発表・意見交換ー 予習：発表用スライドを作る ①自分の研究テーマ ②この研究に着目した理由 ③検索した論文情報を総括表にまとめておく (100分) 復習：7月末迄に①研究テーマ ②研究に着目した理由 ③夏休みに講読予定の論文・書籍情報を課題シートに記入し提出 (100分)
第15回	論文講読1 予習：指定された論文の講読 (100分) 復習：論文講読で発見した自らの課題を書きだす (100分)
第16回	論文講読2 予習：指定された論文の講読 (100分) 復習：論文講読で発見した自らの課題を書きだす (100分)
第17回	論文講読3 予習：指定された論文の講読 (100分) 復習：論文講読で発見した自らの課題を書きだす (100分)
第18回	論文講読4 予習：指定された論文の講読 (100分) 復習：論文講読で発見した自らの課題を書きだす (100分)
第19回	論文講読5 予習：指定された論文の講読 (100分) 復習：論文講読で発見した自らの課題を書きだす (100分)
第20回	論文講読6 予習：指定された論文の講読 (100分) 復習：論文講読で発見した自らの課題を書きだす (100分)
第21回	卒論研究に向けた取り組み発表1 予習：卒業研究の目的を作成 (100分) 復習：自己課題の発見 (100分)
第22回	卒論研究に向けた取り組み発表2 予習：卒業研究の目的を作成 (100分) 復習：自己課題の発見 (100分)
第23回	卒論研究に向けた取り組み発表3 予習：卒業研究の目的を作成 (100分) 復習：自己課題の発見 (100分)
第24回	卒論研究に向けた取り組み発表4 予習：卒業研究の目的を作成 (100分) 復習：自己課題の発見 (100分)
第25回	卒論研究に向けた取り組み発表5 予習：卒業研究の目的を作成 (100分) 復習：自己課題の発見 (100分)
第26回	論文執筆の基礎知識 予習：日本心理学会の「心理学研究」の論文投稿規定について読んでおく (100分) 復習：自分の書いた研究目的が規定に沿っているかどうか確認し、必要な修正を行う (100分)
第27回	研究計画書の作成 予習：卒業研究に向けたテーマについて発表の準備 (100分) 復習：卒業研究について、研究スケジュールを確認する (100分)
第28回	卒論研究に向けたオリエンテーション 予習：春休みの卒業研究に向けた学習プランをつくる (100分) 復習：春休みの卒業研究に向けて必要な作業について整理し担当教員に報告する (100分)

成績評価方法・基準	前期の課題とプレゼンテーションの内容(40%)、後期の課題(夏休み課題含む)とプレゼンテーションの内容(40%)、授業時間中の参加態度、すなわちディスカッションへの参画や論文講読時の質問への意見表明を行ったか(20%)で総合的に評価する。
参考書	テンプレートで学ぶはじめての心理学論文・レポート作成 長谷川桐・鶴沼秀幸(2017)、東京図書
その他	質問・相談がある場合は、担当教員 horiuchi@edogawa-u.ac.jp まで、メールにて連絡をすること
参考URL	

実務経験	あり(実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用)
実務経験詳細	産能大学 メンタルマネジメント相談室においてインターカー業務に従事したのち、千葉県に精神保健福祉相談員として入庁。県内保健所、精神保健福祉センター等に勤務し、精神保健福祉業務に従事。
学生を主体とする教育方法の実践	ディスカッション、ディベート/グループワーク/プレゼンテーション
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(3)/社会学部(5)/人間心理学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	堀内 典穂子(D-0104)		履修開始年次	3年	単位※1	2単位
年度	2022年度	科目名	福祉心理学			
学期※2	2022年度後期		学校区分	大学		
科目群	心2群		区分(授業形態)	通問授業		
副題	福祉分野における心理的支援					
授業の概要	日本や海外の社会福祉の歴史、近年の社会福祉の概念・関連法や多職種協働による支援体制を学び、要支援者の尊厳を重視した支援について考察できることを目的とする。 オンライン実施となった場合はGoogle Classroomを通じた授業資料や動画配信、授業回によっては一部Meetを利用する可能性がある。					
到達目標	<p>1. 社会福祉の定義や歴史、基本理念と法制度について基本的な内容を説明できる。</p> <p>2. 社会福祉領域で活動するために必要な児童福祉・家庭福祉・高齢者福祉・障害者福祉等のそれぞれの領域で生じる課題をアセスメントし、支援計画を立てることができる。</p> <p>3. 各領域の支援事例に関して、支援に関わる専門機関と、その担い手である多職種の役割と活動内容を説明できる。</p> <p>この科目は、社会学部の(5)「現代の社会における諸課題の解決をはかりながら、持続可能な社会の構築に貢献できる」(6)「優しさと温かみに満ち、総合的な判断能力を持つことが出来る」、及び、人間心理学科(2)「心理学、臨床心理学、カウンセリング等に関するの教育・研究を深め、専門知識と実践力を有し、真の人間を理解することが出来る」のディプロマ・ポリシーに基づく。</p>					

授業内容及び準備学習(予習・復習)の内容

第1回	<p>オリエンテーション：授業の進め方、到達目標や評価の方法、課題の提出方法について説明する 予習：シラバスを通読し、「福祉」はどのような目的で必要とされるのか、について各自の考えを明らかにし、ノートにまとめておく(100分)</p> <p>復習：シラバスを基本として、自らがこの科目で学ぶ「目的」「内容」「到達目標」を説明できる(100分) 授業内課題：Googleformを使ったリアクションペーパーに、社会において福祉が必要な理由・自らが福祉を学ぶ目的・関心のあるテーマについて記載・提出する。</p>
第2回	<p>社会福祉の歴史と動向、基本理念 予習：日本国憲法第25条の内容について、ノートにまとめておく(100分) 復習：日本における社会福祉の発展の歴史と考え方、諸外国との違いについて説明できる(100分)</p>
第3回	<p>社会福祉の制度と法律 予習：日本の福祉3法・福祉6法の概要をノートにまとめておく(100分) 復習：社会福祉法・児童福祉法・障害者福祉法・高齢者関連の法律について概要を説明できる(100分)</p>
第4回	<p>福祉現場における心理社会的課題と支援 予習：「ノーマライゼーション」「ソーシャル・インクルージョン」「ストレングスモデル」とは何か、調べてノートにまとめておく(100分) 復習：要支援者の尊厳の尊重に根ざした福祉的支援の考え方と福祉用語、地域の支援者について説明できる(100分)</p>
第5回	<p>児童福祉分野における活動と支援 予習：児童福祉分野における心理的支援の事例にどのようなものがあるか考えてノートにまとめておく(100分) 復習：児童福祉分野で支援対象となる事例とその支援機関について説明できる(100分)</p>
第6回	<p>家庭支援分野の活動と支援 予習：「貧困率」「DV」とは何かについて調べ、ノートにまとめておく(100分) 復習：家庭支援分野で支援対象となる事例とその支援機関について説明できる(100分)</p>
第7回	<p>高齢者福祉分野の活動と支援 予習：日本における高齢化率の動向について調べノートにまとめておく(100分) 復習：高齢者福祉の今日の課題について説明できる(100分)</p>
第8回	<p>福祉分野における心理アセスメント —発達課題・生活課題・対人関係の視点から— 予習：福祉分野の支援対象となる事例にはどのようなものがあるか、ライフサイクル(幼児期・学童期・青年期・成人期・高齢期)にそって考え、ノートにまとめておく(100分) 復習：要支援者の状態のアセスメントのツールやアセスメント時の着眼点について説明できる(100分)</p>
第9回	<p>障害者福祉分野の活動と支援 —障害の受容から就労支援・福祉サービス利用まで— 予習：障害福祉制度における3障害と、障害者基本法について調べ、ノートにまとめておく(100分) 復習：障害者の生活支援と障害者就労に関する支援機関とその役割、心理学的支援方略について説明できる(100分)</p>
第10回	<p>各種福祉分野における支援と課題(グループワーク・ディスカッション) 予習：全回までの授業内容を復習しておく(100分) 復習：各分野の事例についてアセスメントを行い、目的に基づいた支援計画(各関係機関との連携)を作成できる(100分) 授業内課題：提示された事例について、Googleform課題シートを利用して、アセスメントと支援計画を入力、提出する。(30分)</p>
第11回	<p>福祉における心理学的支援 予習：「認知行動療法」「社会技能訓練」「回想法」「セルフヘルプグループ」「遊戯療法」について調べノートにまとめておく(100分) 復習：福祉分野で実践されている心理学的支援とその効果について説明できる(100分)</p>

第12回	虐待をめぐる支援 ―被虐待児(者)の心理アセスメントと家族支援― 予習：「児童虐待防止法」と「高齢者虐待防止法」「障害者虐待防止法」の正式名称とその対象、対象行為について調べ、ノートにまとめる(100分) 復習：被虐待児者の支援の活動実態と今日的な課題を説明できる(100分)
第13回	認知症疾患と介護者支援 予習：認知症疾患の内容について調べておく(100分) 復習：認知症疾患について理解し、ご本人とその介護者が利用可能なサービスや機関について説明できる(100分)
第14回	総括・評価 総括(30分)および授業内総括テスト(60分) 予習：全授業の総括を行い、教員への質問や自己学習を行い、疑問を解消しておく(100分) 復習：テストの不明点について追加学習を行い、ノートを整理する(100分)

成績評価方法・基準	各授業回において、エドヘンの入力には必ず行い、各回授業に関する質問は、各回のクラスルーム授業資料配付のコメント欄に、授業実施の翌週(月)17:00までに入力すること。 <評価方法> 成績評価は、10回目「事例アセスメントと支援計画を立てる力を測る小レポート(30%)」、14回目「児童福祉・家庭福祉・高齢者福祉・障害者福祉等の各領域の福祉課題と支援窓口の知識を問う授業内総括テスト(70%)」を合計して評価する。 定期試験期間中のテストは行わない。 第10回目・14回目のレポート及びテストは、オンライン授業となった際にも、授業時間内に実施、回答を切を行う。
-----------	---

参考書	①公認心理師の基礎と実践 福祉心理学 中島 健一 編, 遠見賢房 ②福祉心理学 山中 克夫・四宮 美枝子・宮本 信也 編, 医歯薬出版株式会社
その他	本科目は公認心理師受験資格取得者にとっては、履修必須科目である。しかし、資格取得希望者以外で福祉領域の支援に興味のある学生の履修は可能である。 授業は、予習がなされたことを前提に行う。 対面授業実施を予定しているが、オンライン実施となった場合は授業動画配信を利用する。 質問は、Google Classroom内の課題シートもしくはクラスコメント欄を利用すること。 その他連絡は、horiuchi@edogawa-u.ac.jpにて対応する。
参考URL	

実務経験	あり(実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用)
実務経験詳細	産能大学 メンタルマネジメント相談室においてインテーカー業務に従事したのち、千葉県に精神保健福祉相談員として入庁。県内保健所、精神保健福祉センター等に勤務し、精神保健福祉業務に従事。
学生を主体とする教育方法の実践	ディスカッション、ディベート/グループワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(5)/社会学部(6)/人間心理学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生閲覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	崎本 武志(T-0304)		履修開始年次	1年	単位数1	2単位
年度	2022年度	科目名	観光概論			
学期※2	2022年度後期		学校区分	大学		
科目群	現2群		区分(授業形態)	週間授業		
副題	日本の観光に関する見方を根本から変えるきっかけとする。					
授業の概要	<p>この講座では、世界および日本における観光について理解するとともに、観光政策や観光業界および各関連産業・資源・制度・組織について、幅広く学習します。</p> <p>第1回から第3回までは日本の観光について概説します。観光を学ぶ意義や歴史的な変化、日本にとって観光がいかに重要であるかについて、さまざまな角度から触れていきます。第4回からは観光政策や産業のあり方、環境および文化と観光との関連や世界遺産など、具体的な事項を中心に取りあげていきます。これらの学びを通して、皆さんにとって身近なところから観光を意識し、観光を通して世界や日本の情勢についての知識や知見を習得することを目的とします。</p> <p>なお、この科目では資料の配付および閲覧は Google Classroom を使用し、オンライン授業実施時の動画については Google Meet を使用します。また、フィードバックレポートは Google Form を使用して提出していただきます。</p>					
到達目標	<p>世界の情勢や日本の構造変化とともに、観光のあり方や観光産業も変革を迫られています。外部からは見えにくい観光のあり方を知り、人類と観光と関係性や観光の持つ可能性を追求します。受講の結果、世界の観光や人的・物的交流に関する関心が高まり、大学を卒業されてからもビジネスやレジャーなどのさまざまな面で観光を生かし、豊かな社会の創造に携わられることを望みます。</p> <p>本科目は現代社会学科ディプロマポリシー（1）「社会を捉えるための基礎的な知識と調査力を身につける」、（3）「現代社会を規定し機能させている制度を理解し、そのあり方について検討し、考察する力を身につけている」、（4）「資源の有限性を前提とした利活用のあり方を見直し、マネジメントする力を身につけている」、（5）「持続可能な社会を構築するために、地域社会で生じている様々な問題を発見し解決する力を身につけている」と関連しています。</p>					

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容

第1回	<p>ガイダンス（イントロダクション）：観光とは何か？について考える</p> <p>予習：「観光とは何か」について、インターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】</p> <p>復習：「観光とは遊びか？学びか？」について考え、自分の考えをまとめてください。【100分程度】</p>
第2回	<p>観光を学ぶ意義と、さまざまな観光用語</p> <p>予習：「観光を学ぶ意義」について考え、観光用語をインターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】</p> <p>復習：今まで体験した中で印象に残っている観光・旅行体験をまとめ、今回学んだ用語のどれに当たるのか？について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】</p>
第3回	<p>日本の観光をとりまく、さまざまな変化について</p> <p>予習：現在の日本の観光をとりまく、さまざまな変化や問題点について調べてみましょう。【100分程度】</p> <p>復習：外国人観光客がもたらす異文化について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】</p>
第4回	<p>観光を学ぶ方法と、観光に関わる資源について（世界遺産検定試験および国内旅行業務取扱管理者試験について）</p> <p>予習：観光に関する検定試験や資格試験について調べ、他の検定試験や資格試験との違いについて考えてみましょう。【100分程度】</p> <p>復習：観光に関する検定試験や資格試験の学習で何が得られるのかについて、自分の考えをまとめてください。【100分程度】</p>
第5回	<p>文化遺産・自然遺産と観光との関係性について</p> <p>予習：世界遺産について調べ、観光と世界遺産との関係について考えてみましょう。【100分程度】</p> <p>復習：観光と世界遺産との関係について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】</p>
第6回	<p>日本の観光政策とクールジャパンについて</p> <p>予習：クールジャパン政策について調べ、日本の観光政策について考えてみましょう。【100分程度】</p> <p>復習：観光とクールジャパンについてどのように考えましたか。自分の考えをまとめてください。【100分程度】</p>
第7回	<p>近隣・地元観光とインバウンドの重要性</p> <p>予習：日本の観光における問題点について、インターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】</p> <p>復習：近隣・地元観光やインバウンドの重要性について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】</p>
第8回	<p>観光情報提供の重要性と旅行業界の変化について</p> <p>予習：日本の旅行業界のあり方や観光情報の提供方法について、インターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】</p> <p>復習：日本の旅行業界を含めた観光業界全体について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】</p>
第9回	<p>温泉と観光の深い関係について</p> <p>予習：日本の温泉について、インターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】</p> <p>復習：日本の温泉および温泉に関する産業について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】</p>
第10回	<p>観光のまなざしについて</p> <p>予習：観光とは何かについて、原点に戻って考えてみましょう。【100分程度】</p> <p>復習：近所に存在する観光および観光のまなざしについて、自分の考えをまとめてください。【100分程度】</p>
第11回	<p>日本国民と観光について</p>

	予習：結局「日本国民にとって観光とは何か」について、時代背景を念頭に置いて考えてみましょう。【100分程度】 復習：日本国民はどのように観光と向き合うべきかについて、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第12回	観光と祝祭日・記念日について 予習：観光と年中行事・祝祭日などとの関係性について調べてみましょう。【100分程度】 復習：観光と年中行事がどの程度関係性があるかについて、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第13回	観光と年中行事ーコンテンツツリズムについて 予習：コンテンツツリズムや聖地巡礼について、インターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】 復習：日本における年中行事や、コンテンツツリズムと各産業との関係性について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第14回	観光と人材ー本講義の総まとめ 予習：観光業界における人材や適性について、インターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】 復習：観光業界で求められる人材像について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】

成績評価方法・基準	講義後にフィードバックレポートを毎回提出していただきます。これを提出してはじめて出席と認めます。レポートの提出なくして出席とは認めません。えどへんが入力されていてもレポートの提出が無いと欠席となりますのでご注意ください。 レポートは講義日翌日の0:00を締切とします。 評価方法および基準は下記のとおりです。 ・毎回のフィードバックレポートの提出回数およびその内容(50%) ・期末レポート提出およびその内容(50%) ・フィードバックレポートや発言など、積極的な姿勢が見られた場合は随時加点評価します。
-----------	---

参考書	『新しい時代の観光学概論 持続可能な観光振興を目指して』著者 島川 崇、出版社 ミネルヴァ書房 『現場に立つから、おもしろい——世界をつなぐ、ひと・モノ・しくみ』著者 江戸川大学現代社会学科(監修)、土屋 薫・阿南 透・大塚 良治・川瀬 由高・佐藤 秀樹(編)、出版社 春風社
その他	
参考URL	

実務経験	あり(実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用)
実務経験詳細	株式会社JTBに12年間勤務。首都圏営業本部(東京日本橋支店・首都圏メディア販売事業部・海外旅行虎ノ門事業部・東京蒲田支店)に所属し、主として法人団体営業に従事した。
学生を主体とする教育方法の実践	PBL(課題解決型学習)
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(1)/社会学部(2)/社会学部(3)/社会学部(5)/社会学部(6)/社会学部(7)/現代社会学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	崎本 武志(T-0304)		履修開始年次	2年	単位※1	2単位
年度	2022年度	科目名	鉄道・交通論			
学期※2	2022年度前期		学校区分	大学		
科目群	現2群		区分(授業形態)	週間授業		
副題	ポストコロナの鉄道・交通はどのように変わるのか？					
授業の概要	<p>この講座は日本の鉄道・交通の体系について理解するとともに、各業界で日常活用されている基本ルールを中心に学習します。第1回から第3回までは日本の交通体系を支えている交通産業の概観を中心に進めます。第4回以降は各交通機関の現場で日常的に活用されている「運賃・料金計算の基本」「各約款」の内容を学びます。ここでは、各交通機関と利用者との契約関係を理解し、現場で必要とされる知識を習得することを目的とします。</p> <p>この講義は、結果として毎年9月に行われる国内旅行業務取扱管理者試験(国家試験)の「国内旅行実務」科目の事前学習ともなるので、受験希望者には有効な事前学習の機会となります。この国家資格を取得すると、旅行業だけでなく地方自治体や最近旅行業に積極的に参入している交通業界への就職にも有利となります。</p> <p>鉄道ファンの方はもちろん、鉄道や交通に興味・関心のない方でも楽しく、役に立つ内容を盛り込んでいます。事前知識は必要ありませんので、ぜひ積極的に受講してください。</p> <p>なお、この科目では資料の配付および閲覧は Google Classroom を使用し、オンライン授業実施時の動画については Google Meet を使用します。また、フィードバックレポートは Google Form を使用して提出していただきます。</p>					
到達目標	<p>日本の構造変化とともに鉄道・交通産業も変質を迫られています。外部からは見えにくい鉄道・交通産業の実情を知り、鉄道・交通産業の日本における役割を理解します。受講の結果、交通および観光産業に関する知識や関心を高めることを目的とします。さらに興味関心が高い方は、国内旅行業務取扱管理者資格の取得にもチャレンジされることを望みます。</p> <p>本科目は現代社会学科ディプロマポリシー(1)「社会を捉えるための基礎的な知識と調査力を身につける」、(3)「現代社会を規定し機能させている制度を理解し、そのあり方について検討し、考察する力を身につけている」、(4)「資源の有限性を前提とした活用のあるあり方を見直し、マネジメントする力を身につけている」、(5)「持続可能な社会を構築するために、地域社会で生じている様々な問題を発見し解決する力を身につけている」と関連しています。</p>					

授業内容及び準備学習(予習・復習)の内容

第1回	ガイダンス 講座の概要 交通業界に関する歴史および全体像について
第2回	日本の鉄道を学ぶ意義について 予習:日本の鉄道路線について、インターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】 復習:日本の鉄道を学ぶ意義について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第3回	身近な鉄道路線について追究する(JR常磐線・TX線を事例として) 予習:皆さんの身近な鉄道路線や駅について、調べてみましょう。【100分程度】 復習:鉄道を学ぶことによって習得できる知見はどのような分野があるかについて、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第4回	JRとは何か・JRと私鉄・第三セクター鉄道について学ぶ 予習:JRと私鉄の違い、および第三セクター鉄道とは何かについて、インターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】 復習:JRと私鉄および第三セクター鉄道の違い、在来線と新幹線の違いについて、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第5回	路線名や駅名、列車種別について学ぶ 予習:日本の鉄道路線の名前や駅名に着目し、インターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】 復習:日本の鉄道路線や種別が多岐にわたっている点について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第6回	旅行業務取扱管理者試験問題とJR運賃制度の進化について学ぶ 予習:交通における「運賃」と「料金」の違いについて、インターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】 復習:幹線と地方交通線との違い、運賃と料金の制度のあり方について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第7回	旅行業務取扱管理者試験問題とJR運賃・料金について 予習:JRにおける運賃の制度について、インターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】 復習:運賃の割引制度や区間がどのように変わっているかについて、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第8回	旅行業務取扱管理者試験問題とJR料金制度の進化について 予習:JRの料金制度について、インターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】 復習:乗車券類の有効期間や割引制度について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第9回	運賃・料金 実践編 予習:実際に鉄道を利用する立場に立って、旅行行程をたててみましょう。【100分程度】 復習:私鉄制度や繁忙期・閑散期について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第10回	団体旅行・国際観光旅行に関する運賃と料金について 予習:団体割引運賃・料金と指定席・自由席・グリーン車について、インターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】 復習:団体割引運賃・料金と指定席・自由席・グリーン車の料金設定について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第11回	観光地と交通との関係について

	<p>予習：観光地に行くための交通手段について、インターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】</p> <p>復習：観光地と交通手段について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】</p>
第12回	<p>交通業界の現場について（鉄道・交通関連業界関係者による講演予定）</p> <p>予習：鉄道など交通業界の現場を実際に見ながら、問題点について考えてみましょう。【100分程度】</p> <p>復習：交通業界での現場を実際に学んでどのように考えたか、自分の考えをまとめてください。【100分程度】</p>
第13回	<p>交通の魅力発出のために必要なことについて学ぶ（鉄道・交通関連業界による講演予定）</p> <p>予習：交通産業の持続可能性について、インターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】</p> <p>復習：持続可能な交通業界を実現するには何が必要か、自分の考えをまとめてください。【100分程度】</p>
第14回	<p>鉄道・交通に関する課題と将来像—まとめ</p> <p>予習：鉄道・交通に関する課題について、インターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】</p> <p>復習：鉄道・交通に関する将来像について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】</p>

成績評価方法・基準	<p>講義後にフィードバックレポートを毎回提出していただきます。これを提出してはじめて出席と認めます。レポートの提出なくして出席とは認めません。えどへんが入力されていてもレポートの提出が無いと欠席となりますのでご注意ください。</p> <p>レポートは講義日翌日の0:00を締切とします。</p> <p>評価方法および基準は下記のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回のフィードバックレポートの提出回数およびその内容（50%） ・期末レポート提出およびその内容（50%） ・フィードバックレポートや発言など、積極的な姿勢が見られた場合は随時加点評価します。
-----------	---

参考書	「観光交通ビジネス」塩見英治編著 成山堂書店刊
その他	
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	<p>株式会社JTBに12年間勤務。首都圏営業本部（東京日本橋支店・首都圏メディア販売事業部・海外旅行虎ノ門事業部・東京蒲田支店）に所属し、主として法人団体営業に従事した。</p> <p><実務経験のある教員等></p>
学生を主体とする教育方法の実践	PBL(課題解決型学習)
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(1)／社会学部(2)／社会学部(3)／社会学部(5)／社会学部(6)／社会学部(7)／現代社会学科(1)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	崎本 武志(T-0304)		履修開始年次	2年	単位※1	2単位
年度	2022年度	科目名	ヘリテージツーリズム論/近代化遺産論			
学期※2	2022年度前期		学校区分	大学		
科目群	現2群		区分(授業形態)	通開授業		
副題	日本の「遺産」と「観光」とのよりよい関係性を追究する。					
授業の概要	<p>この講座では、世界および日本における文化遺産や自然遺産について理解するとともに、これらを活かした観光政策や観光業界および各関連産業・資源・制度・組織をいかにして発展させていくかについて、深く追究することを目的とします。</p> <p>第1回から第3回までは世界および日本の文化遺産や自然遺産、そしてそれらを活かした観光についての政策や枠組みについて概説します。文化遺産や自然遺産と観光がいかに密接な関係性を有しているかについて、さまざまな角度から触れていきます。第4回からはこれらに関する具体的な事項を中心にあげていきます。これらの学びを通して、世界および日本における文化遺産や自然遺産から観光を意識していただき、世界や日本の情勢についての幅広い知識や知見を習得することを目的とします。</p> <p>なお、この科目では資料の配付および閲覧は Google Classroom を使用し、オンライン授業実施時の動画については Google Meet を使用します。また、フィードバックレポートは Google Form を使用して提出していただきます。</p>					
到達目標	<p>文化遺産や自然遺産は、日本や世界にとってかけがえのない宝です。そして、これらの維持を自律したかたちで図るためには、観光の力は極めて重要です。このメカニズムの学びを通して、日本や世界の遺産や観光のあり方についての理解を深め、大学を卒業してからビジネスやレジャー、まちづくりなどのさまざまな面で持続可能な社会の創造に携わられることを望みます。</p> <p>本科目は現代社会学科ディプロマポリシー（1）「社会を捉えるための基礎的な知識と調査力を身につける」、（3）「現代社会を規定し機能させている制度を理解し、そのあり方について検討し、考察する力を身につけている」、（4）「資源の有限性を前提とした利活用のあり方を見直し、マネジメントする力を身につけている」、（5）「持続可能な社会を構築するために、地域社会で生じている様々な問題を発見し解決する力を身につけている」と関連しています。</p> <p>なお、本科目はNPO法人世界遺産アカデミーが主催する「世界遺産検定」に関する内容を多く盛り込んだかたちで進めてまいります。近年就職活動にも役立つ「世界遺産検定」の受験を奨励するとともに、受験を考えておられる方の受講を歓迎します。</p>					

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容

第1回	<p>ガイダンス（イントロダクション）：ヘリテージツーリズムとは何か？について考える</p> <p>予習：ヘリテージ（遺産）とツーリズム（観光）について、インターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】</p> <p>復習：ヘリテージツーリズムの重要性について考え、自分の考えをまとめてください。【100分程度】</p>
第2回	<p>ヘリテージツーリズムを学ぶ意義</p> <p>予習：いままぜヘリテージツーリズムが重要なのかについて考え、インターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】</p> <p>復習：今まで体験した中で印象に残っている観光・旅行体験をまとめ、今回学んだ用語のどれに当たるのか？について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】</p>
第3回	<p>ヘリテージツーリズムの世界的なしくみー世界遺産について</p> <p>予習：世界遺産のあり方について、インターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】</p> <p>復習：世界遺産がもたらすヘリテージツーリズムについて、自分の考えをまとめてください。【100分程度】</p>
第4回	<p>ヘリテージツーリズムの学びと、世界遺産検定試験について</p> <p>予習：ヘリテージツーリズムに関する検定試験について調べ、他の検定試験や資格試験との違いについて考えてみましょう。【100分程度】</p> <p>復習：ヘリテージツーリズムに関する検定試験や資格試験の学習で何が得られるかについて、自分の考えをまとめてください。【100分程度】</p>
第5回	<p>ヘリテージツーリズムの日本的なしくみー日本の遺産と文化政策について</p> <p>予習：日本の遺産と観光についてインターネットなどで調べ、考えてみましょう。【100分程度】</p> <p>復習：ヘリテージツーリズムと日本の文化政策について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】</p>
第6回	<p>ヘリテージツーリズムの日本的なしくみー日本の遺産と自然保護について</p> <p>予習：日本の遺産と自然保護について、インターネットなどで調べ、考えてみましょう。【100分程度】</p> <p>復習：ヘリテージツーリズムと日本の自然保護政策について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】</p>
第7回	<p>日本のヘリテージツーリズムー日本の世界遺産について</p> <p>予習：日本の世界遺産について、インターネットなどで調べ、考えてみましょう。【100分程度】</p> <p>復習：ヘリテージツーリズムと日本の世界遺産について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】</p>
第8回	<p>日本のヘリテージツーリズムー日本遺産と地域活性化について</p> <p>予習：日本遺産について、インターネットなどで調べ、考えてみましょう。【100分程度】</p> <p>復習：日本遺産と地域活性化について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】</p>
第9回	<p>ヘリテージツーリズムと観光情報提供について</p> <p>予習：ヘリテージツーリズムと観光情報の提供方法について、インターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】</p> <p>復習：ヘリテージツーリズムと観光情報の提供方法について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】</p>
第10回	<p>日本国民と観光ーヘリテージツーリズムのまなざしについて</p> <p>予習：日本国民にとって観光とは何か、について、原点に戻って考えてみましょう。【100分程度】</p>

	復習：ヘリテージツーリズムのまなざしについて、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第11回	ヘリテージツーリズムと観光産業との関係性について 予習：日本の観光産業のヘリテージツーリズムへの貢献について、インターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】 復習：日本の観光産業とヘリテージツーリズムとの関係性について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第12回	ヘリテージツーリズムと各地の世界遺産について 予習：日本各地、世界各国の世界遺産について、インターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】 復習：日本各地、世界各国の世界遺産が、どこにどのようなものがあるかについて、具体的に調査してください【100分程度】
第13回	近隣・地元観光とヘリテージツーリズム 予習：近隣・地元の観光資源とヘリテージツーリズムについて、インターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】 復習：近隣・地元観光とヘリテージツーリズムの重要性について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第14回	ヘリテージツーリズムの将来—本講義の総まとめ 予習：ヘリテージツーリズムの未来について、インターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】 復習：ヘリテージツーリズムの将来像について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】

成績評価方法・基準	講義後にフィードバックレポートを毎回提出していただきます。これを提出してはじめて出席と認めます。レポートの提出なくして出席とは認めません。えどへんが入力されていてもレポートの提出が無いと欠席となりますのでご注意ください。 レポートは講義日当日の23:59を締切とします。 評価方法および基準は下記のとおりです。 ・毎回のフィードバックレポートの提出回数およびその内容（50%） ・期末レポート提出およびその内容（50%） ・フィードバックレポートや発言など、積極的な姿勢が見られた場合は随時加点評価します。
-----------	--

参考書	『きほんを学ぶ世界遺産100<第3版>世界遺産検定3級公式テキスト』著者 世界遺産検定事務局（編）、出版社 マイナビ出版 『くわしく学ぶ世界遺産300<第4版>世界遺産検定2級公式テキスト』著者 世界遺産検定事務局（編）、出版社 マイナビ出版
その他	
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	株式会社JTBに12年間勤務。首都圏営業本部（東京日本橋支店・首都圏メディア販売事業部・海外旅行虎ノ門事業部・東京蒲田支店）に所属し、主として法人団体営業に従事した。
学生を主体とする教育方法の実践	PBL(課題解決型学習)
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(1)／社会学部(2)／社会学部(3)／社会学部(5)／社会学部(6)／社会学部(7)／現代社会学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	中島 麗二(D-0702)		履修開始年次	カリキュラムにより異なります。	単位※1	2単位
年度	2022年度	科目名	自然遺産論			
学期※2	2022年度前期		学校区分	大学		
科目群	現2群		区分(授業形態)	週間授業		
副題	「自然遺産」という自然環境を守り活かす考え方					
授業の概要	<p>自然環境と社会とのかかわりを、自然遺産という切り口でとらえ、日本の自然環境の概況と自然環境を資源として活用してきた様々な方法について学ぶ。またその前提的な基礎知識として自然遺産の価値の理解に必要な、生態学、生物学に関する基礎的な知識を学ぶ。毎回授業の最後において授業の中で出た用語や問題などについての小レポートを課す。</p> <p>まず学期が始まる際にGoogleClassroom(学習マネジメントシステム)の自然遺産論のクラスに学生が参加登録し、毎回の授業ではまずGoogleClassroomにアクセスして、各回の指示に従って、資料を閲覧したりする。原則としては教室での対面授業だがコロナの感染状況によってはリアルタイムのGoogleMeet(テレビ会議システム)によるオンライン授業とする。</p>					
到達目標	<p>日本の自然環境の概況を理解し、代表的な自然環境である世界自然遺産の概要と価値、主要な保全上の課題について説明できる。</p> <p>この科目は社会学部の「2 教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている」「5 現代の社会における諸課題の解決をはかりながら、持続可能な社会の構築に貢献できる」、現代社会学科の「1 社会を捉えるための基礎的な知識と調査力を身につけている」「4 資源の有限性を前提とした利活用のあり方を見直し、マネジメントする力を身につけている」「5 持続可能な社会を構築するために、地域社会で生じている様々な問題を発見し解決する力を身につけている」というディプロマ・ポリシーに関連している。</p>					

授業内容及び準備学習(予習・復習)の内容

第1回	<p>年間授業計画説明(自己紹介、概要紹介、受講ルール、採点方針)</p> <p>世界自然遺産とは何か、ごく簡単な説明</p> <p>予習:毎回のテーマに関する事前学習(ネット及び参考書での用語検索)100分</p> <p>復習:毎回のテーマに関する事後学習100分</p>
第2回	<p>日本の世界自然遺産</p> <p>日本の世界自然遺産5か所のそれぞれの自然環境の特徴とO U Vの理解</p> <p>予習:毎回のテーマに関する事前学習(ネット及び参考書での用語検索)100分</p> <p>復習:毎回のテーマに関する事後学習100分</p>
第3回	<p>奄美・沖縄の遺産登録</p> <p>2021年夏に世界遺産委員会において登録された奄美沖縄の自然遺産の概要を学ぶ</p> <p>予習:毎回のテーマに関する事前学習(ネット及び参考書での用語検索)100分</p> <p>復習:毎回のテーマに関する事後学習100分</p>
第4回	<p>生物と環境</p> <p>生態系の基本となる気象などの環境と生物の関係を学ぶ</p> <p>予習:毎回のテーマに関する事前学習(ネット及び参考書での用語検索)100分</p> <p>復習:毎回のテーマに関する事後学習100分</p>
第5回	<p>生態系と生物多様性</p> <p>生物と生態系、生物多様性について概要を学び、生態系の成り立ちや生物種の価値について学ぶ</p> <p>予習:毎回のテーマに関する事前学習(ネット及び参考書での用語検索)100分</p> <p>復習:毎回のテーマに関する事後学習100分</p>
第6回	<p>日本の生物多様性</p> <p>日本の生物多様性の現状を学ぶ</p> <p>予習:毎回のテーマに関する事前学習(ネット及び参考書での用語検索)100分</p> <p>復習:毎回のテーマに関する事後学習100分</p>
第7回	<p>自然の価値評価</p> <p>自然環境を価値づける方法について学ぶ</p> <p>予習:毎回のテーマに関する事前学習(ネット及び参考書での用語検索)100分</p> <p>復習:毎回のテーマに関する事後学習100分</p>
第8回	<p>文化遺産・エコパーク・ジオパーク</p> <p>自然遺産と文化遺産の違い、世界自然遺産に類似の制度としてのエコパーク、ジオパークについて学ぶ</p> <p>予習:毎回のテーマに関する事前学習(ネット及び参考書での用語検索)100分</p> <p>復習:毎回のテーマに関する事後学習100分</p>
第9回	<p>絶滅危惧種の保護</p> <p>絶滅の危険にさらされている生物の実態や全体の現状について学ぶ</p> <p>予習:毎回のテーマに関する事前学習(ネット及び参考書での用語検索)100分</p> <p>復習:毎回のテーマに関する事後学習100分</p>

第10回	<p>外来種問題 生物多様性の問題の一つである外来種問題について現状と対策を学ぶ 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分</p>
第11回	<p>保護地域 生物多様性の確保のための地域保全政策として、国立公園、自然環境保全地域等を学ぶ 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分</p>
第12回	<p>自然資源としてのウナギ 生物多様性の恵みの一つである食について、ウナギを例にその現状と対策について学ぶ。 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分</p>
第13回	<p>鳥獣保護と管理 クマの出没を例に、鳥獣保護と管理の問題を考える。 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分</p>
第14回	<p>講義まとめ 全体の復習と重要事項の確認を行う 予習：全体の講義内容の復習200分</p>

成績評価方法・基準	日本の自然環境の概況、世界自然遺産の概要と価値、主要な保全上の課題に関する定期試験40%、平常点（授業中の発言、復習などの努力、積極的に取り組む姿勢等）60%を合計して評価する。
-----------	---

参考書	『自然公園の手びき』自然公園財団発行
その他	定期試験には自筆ノートのみ持ち込み可
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	環境省（庁）で33年間勤務。主な勤務ポストは国立公園管理や野生生物保護を担当する現場の自然保護官事務所や、法律の立案などを担当する環境省本省自然環境局。この他、長崎県庁、宮内庁、復興庁、IGESなど、地方も含め他分野の行政や研究機関も経験。これらの経験を活かし毎回授業の冒頭において最近の環境関係記事を紹介、背景解説を行う。
学生を主体とする教育方法の実践	PBL(課題解決型学習) / ディスカッション、ディベート / グループワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(2) / 社会学部(5) / 現代社会学科(1) / 現代社会学科(4) / 現代社会学科(5)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生閲覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	中島 慶二(D-0702)		履修開始年次	3年	単位※1	2単位
年度	2022年度	科目名	環境特論/人間環境学			
学期※2	2022年度前期		学校区分	大学		
科目群	現2群		区分(授業形態)	週間授業		
副題	野生生物の現状を知り、自分の自然観を再構築する					
授業の概要	現代の野生生物問題(絶滅危惧、外来生物、鳥獣被害)を詳細に検討し、その原因と問題の最小化のための方法を考える。					
到達目標	野生生物に関わる問題について、そのあらわれ方によってどのような原因が関係しているかや、対策としていくつかの選択肢を提示することができる。					

授業内容及び準備学習(予習・復習)の内容

第1回	講師紹介・ガイダンス: 授業の概略の説明を行う。講師の紹介を行う。野生生物に関する基礎的な情報を学ぶ。 予習: 野生生物にまつわる現代の問題についてひとつネットで記事を見つけ、パワーポイントに貼り付けて概要を50字程度で書く。(100分。授業内提出課題) 復習: 記事のテーマに関して、疑問点を考える。(100分。)
第2回	野生生物減少の危機①: 絶滅した生物、絶滅のおそれを知る方法、減少の原因を知る。 予習: 絶滅危惧種に関する記事をネットで見つけ、パワーポイントに貼り付けて概要を50字程度で書く。(100分。授業内提出課題) 復習: 記事のテーマに関して、疑問点を考える。(100分。)
第3回	野生生物減少の危機②: 生物分類群ごとにレッドリストなどにより現状を確認する。 予習: 出身都道府県のレッドリストを検索し、分類群ごとのカテゴリ該当種数の一覧表を作成する。(100分。授業内提出課題) 復習: 出身都道府県のレッドリストについて、疑問点を考える。(100分。)
第4回	野生生物減少の危機③: 資源の保全(ウナギ、マグロ、カモなど持続可能な利用)・厳格な保護・土地利用と生物の関係についてみる。 予習: ウナギの減少と対策に関する記事を検索し、パワーポイントに貼り付けて概要を50字程度で書く。(100分。授業内提出課題) 復習: ウナギ資源の復元にどのような対策が有効か考える。(100分。)
第5回	野生生物減少の危機④: 根本原因と制度を考える(人の住みやすい環境の追求・人のつくりだす環境と生物側の反応)。班に分かれてディベートを行う。 予習: ディベートの論点を整理しておく。(100分。) 復習: ディベートの反省をメモしておく。(100分。)
第6回	外来生物による被害①: 外来生物問題の全体像(意図的導入・非意図的導入)を確認する。 予習: 外来生物に関する記事をネットで見つけ、パワーポイントに貼り付けて概要を50字程度で書く。(100分。授業内提出課題) 復習: 記事のテーマに関する疑問点を考える。(100分。)
第7回	外来生物による被害②: 防除の実態・特定外来生物の指定・ペット由来の外来生物・食物由来の外来生物などの各種問題を探る。 予習: 今までに自分が観察したことがある特定外来生物のリストを作成する。(100分。授業内課題) 復習: 特定外来生物の指定に関する疑問点を考える。(100分。)
第8回	外来生物による被害③: 外来生物対策としてのノネコ問題と動物愛護の倫理について考える。 予習: 外来生物の排除・捕獲に関する記事をネットで検索し、動物倫理の問題について考えた3点箇条書きメモを作成する。(100分。授業内提出課題) 復習: 動物倫理について考える。(100分。)
第9回	外来生物による被害④: 人の暮らしやすい生活の追求と制度を考える。班に分かれてディベートを行う。 予習: ディベートの論点を整理しておく。(100分。) 復習: ディベートの反省をメモしておく。(100分。)
第10回	鳥獣とヒトのあつれき①: あつれきの現状(農林被害・交通事故・災害)・対策・鳥獣保護の歴史を確認する。 予習: 鳥獣被害に関する記事をネットで見つけ、パワーポイントに貼り付けて概要を50字程度で書く。(100分。授業内提出課題) 復習: 記事のテーマに関して、疑問点を考える。(100分。)
第11回	鳥獣とヒトのあつれき②: シカとイノシシについて、生態や被害の状況を詳しく見る。 予習: シカの生態について200字程度でまとめる。(100分。授業内提出課題) 復習: イノシシとシカの違いについて考える。(100分。)
第12回	鳥獣とヒトのあつれき③: サルとクマについて、生態や被害の状況を詳しく見る。 予習: サルの生態について200字程度でまとめる。(100分。授業内提出課題) 復習: サルとクマの違いについて考える。(100分。)
第13回	鳥獣とヒトのあつれき④: あつれきが生じる根本原因を考える(温暖化・農村地域の人口減少)。班に分かれてディベートを行う。 予習: ディベートの論点を整理しておく。(100分。) 復習: ディベートの反省をメモしておく。(100分。)

第14回	全体まとめ：野生生物観・自然観を再構築する。 予習：これまでの疑問点を改めて確認しておく。自然観がどう変わったか考える。（100分。授業内提出課題） 復習：授業全体を総覧しておく（100分。）
成績評価方法・基準	期末試験を40%、毎回の課題・ディベートを60%としての総合評価
参考書	
その他	
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	環境省（庁）で33年間勤務。主な勤務ポストは国立公園管理や野生生物保護を担当する現場の自然保護官事務所や、法律の立案などを担当する環境省本省自然環境局。この他、長崎県庁、宮内庁、復興庁、IGESなど、地方も含め他分野の行政や研究機関も経験。授業では、テーマごとに実社会での問題の発生状況を解説する。
学生を主体とする教育方法の実践	PBL(課題解決型学習) / 反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態) / ディスカッション、ディベート / グループワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(1) / 社会学部(2) / 社会学部(3) / 社会学部(5) / 社会学部(6) / 社会学部(7) / 現代社会学科(3) / 現代社会学科(4) / 現代社会学科(5)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	中島 慶二(D-0702)		履修開始年次	2年	単位※1	2単位
年度	2022年度	科目名	国立公園論/国立公園及び世界遺産論			
学期※2	2022年度後期		学校区分	大学		
科目群	現2群		区分(授業形態)	週間授業		
副題	最重要自然保護ツール、「国立公園」を知る					
授業の概要	世界の国立公園の潮流、現況と保護地域の中の国立公園の価値評価、管理運営上の問題と解決へ向けて迎った経緯、現在の課題を学び、主に制度面の発達史を意識した学習を通して国立公園という存在を多角的に理解・把握する。 毎回授業の最後において授業の中で出た用語や問題などについて的小レポートを課す。 まず学期が始まる際にGoogleClassroom(学習マネジメントシステム)の国立公園論のクラスに学生が参加登録し、毎回の授業ではまずGoogleClassroomにアクセスして、各回の指示に従って、資料を閲覧したりする。原則として教室での対面授業だがコロナの感染状況によってはリアルタイムのGoogleMeet(テレビ会議システム)によるオンライン授業とする。					
到達目標	自然保護地域の代表的典型的存在である国立公園の思想、基本的制度、実態、課題にかかる基本常識を持ち、現代の国立公園が抱えている代表的課題について説明することができる。 この科目は社会学部の「2 教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている」「5 現代の社会における諸課題の解決をはかりながら、持続可能な社会の構築に貢献できる」、 現代社会学科の「1 社会を捉えるための基礎的な知識と調査力を身につけている」「4 資源の有限性を前提とした利活用のあり方を見直し、マネジメントする力を身につけている」「5 持続可能な社会を構築するために、地域社会で生じている様々な問題を発見し解決する力を身につけている」というディプロマ・ポリシーに関連している。					

授業内容及び準備学習(予習・復習)の内容

第1回	年間授業計画説明(自己紹介、概要紹介、受講ルール、採点方針)、 国立公園の概要と歴史について学ぶ 予習:毎回のテーマに関する事前学習(ネット及び参考書での用語検索)100分 復習:毎回のテーマに関する事後学習100分
第2回	日本の国立公園 34の国立公園の概要を紹介する 予習:毎回のテーマに関する事前学習(ネット及び参考書での用語検索)100分 復習:毎回のテーマに関する事後学習100分
第3回	建造物公園と地域制公園(アメリカと日本・国立公園の二大制度)、地域制公園の管理上の課題について学ぶ 予習:毎回のテーマに関する事前学習(ネット及び参考書での用語検索)100分 復習:毎回のテーマに関する事後学習100分
第4回	日本の国立公園の指定と対象地域、指定基準の変遷について学ぶ 予習:毎回のテーマに関する事前学習(ネット及び参考書での用語検索)100分 復習:毎回のテーマに関する事後学習100分
第5回	公園計画①保護計画の内容、意義、実際の運用について学ぶ 予習:毎回のテーマに関する事前学習(ネット及び参考書での用語検索)100分 復習:毎回のテーマに関する事後学習100分
第6回	公園計画②利用計画の内容、意義、実際の運用について学ぶ 予習:毎回のテーマに関する事前学習(ネット及び参考書での用語検索)100分 復習:毎回のテーマに関する事後学習100分
第7回	施設整備 施設整備計画や実際の整備の進め方、様々な施設について学ぶ 予習:毎回のテーマに関する事前学習(ネット及び参考書での用語検索)100分 復習:毎回のテーマに関する事後学習100分
第8回	房舎化が進む日本の国立公園の利用拠点と集団施設地区の再整備(層雲峡を例に)について学ぶ 予習:毎回のテーマに関する事前学習(ネット及び参考書での用語検索)100分 復習:毎回のテーマに関する事後学習100分
第9回	地域制国立公園制度の基本的な制度である許認可調整について学ぶ 予習:毎回のテーマに関する事前学習(ネット及び参考書での用語検索)100分 復習:毎回のテーマに関する事後学習100分
第10回	国立公園の管理制度と現地での管理を担っているレンジャーの仕事について学ぶ 予習:毎回のテーマに関する事前学習(ネット及び参考書での用語検索)100分 復習:毎回のテーマに関する事後学習100分
第11回	エコツーリズムと国立公園の関係、エコツーリズムの利点や弱点などを学ぶ

	予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第12回	現在の日本のインバウンド政策と国立公園満喫プロジェクトの内容について学ぶ 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第13回	明治期以降の日本の社会背景推移と日本の国立公園制度の推移について学ぶ 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第14回	ここまでの講義内容の全体を復習し、重要事項を確認する 予習：全体講義の復習200分

成績評価方法・基準	自然保護地域の代表的典型的存在である国立公園の思想、基本的制度、実態、課題にかかる基本常識を持ち、現代の国立公園が抱えている代表的課題についての定期試験40%、平常点（授業中の発言、復習などの努力、積極的に取り組む姿勢等）60%を合計して評価する。
-----------	--

参考書	『国立公園論』国立公園研究会・自然公園財団 南方新社 『自然公園の手びき』自然公園財団
その他	定期試験には自筆ノートのみ持ち込み可
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	環境省（庁）で33年間勤務。主な勤務ポストは国立公園管理や野生生物保護を担当する現場の自然保護官事務所や、法律の立案などを担当する環境省本省自然環境局。この他、長崎県庁、宮内庁、復興庁、IGESなど、地方も含め他分野の行政や研究機関も経験。これらの経験を活かし毎回授業の冒頭において最近の環境関係記事を紹介、背景解説を行う。
学生を主体とする教育方法の実践	ディスカッション、ディベート／グループワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(2)／社会学部(5)／現代社会学科(1)／現代社会学科(4)／現代社会学科(5)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	中島 慶二(D-0702)		履修開始年次	1年	単位※1	2単位
年度	2022年度	科目名	環境概論			
学期※2	2022年度後期		学校区分	大学		
科目群	現2群		区分(授業形態)	週間授業		
副題	環境問題の基礎を学ぶ					
授業の概要	現代社会の重要問題である環境問題について、過去及び現在の代表的な環境問題を対象に、それぞれの原因や対策について学び、持続可能な社会の構築に向け、環境問題解決のために必要なこととは何かを考える。 毎回授業の最後において授業の中で出た用語や問題などについての小レポートを課す。 まず学期が始まる際にGoogleClassroom(学習マネジメントシステム)の環境概論のクラスに学生が参加登録し、毎回の授業ではまずGoogleClassroomにアクセスして、各回の指示に従って、資料を閲覧したりする。原則としては教室での対面授業であるが、コロナの感染状況によってはリアルタイムのGoogleMeet(テレビ会議システム)によるオンライン授業とする。					
到達目標	日本と世界の環境問題の概況を理解し、代表的な環境問題のいくつかについてその原因と対策を説明できる。 この科目は社会学部の「2 教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている」「5 現代の社会における諸課題の解決をはかりながら、持続可能な社会の構築に貢献できる」、 現代社会学部の「1 社会を捉えるための基礎的な知識と調査力を身につけている」「5 持続可能な社会を構築するために、地域社会で生じている様々な問題を発見し解決する力を身につけている」というディープコマ・ポリシーに関連している。					

授業内容及び準備学習(予習・復習)の内容

第1回	シラバスの説明、環境問題とは何か、講師紹介、 環境問題の過去の経緯と現状を簡単におさらいする 予習：毎回のテーマに関する事前学習(ネット及び参考書での用語検索)100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第2回	地球温暖化問題 地球温暖化のメカニズムを理解し、対策の困難さを学ぶ 予習：毎回のテーマに関する事前学習(ネット及び参考書での用語検索)100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第3回	地球温暖化対策 地球温暖化の進行状況や対策の現状、今後の取り組み方向について学ぶ 予習：毎回のテーマに関する事前学習(ネット及び参考書での用語検索)100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第4回	エネルギーと環境 エネルギー問題は地球温暖化問題と表裏一体。技術的な課題や新規技術などについて学ぶ 予習：毎回のテーマに関する事前学習(ネット及び参考書での用語検索)100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第5回	生態系 地球温暖化と並び解決が困難な生物多様性劣化問題について、生態系の基礎を学ぶ 予習：毎回のテーマに関する事前学習(ネット及び参考書での用語検索)100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第6回	生物多様性 生物多様性劣化問題のうち絶滅防止、外来種問題について詳細に学ぶ。 予習：毎回のテーマに関する事前学習(ネット及び参考書での用語検索)100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第7回	廃棄物問題 廃棄物問題と市場経済、規制、技術的進展について学ぶ。 予習：毎回のテーマに関する事前学習(ネット及び参考書での用語検索)100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第8回	海洋プラスチック問題 近年の話題であるプラスチック問題について学ぶ。 予習：毎回のテーマに関する事前学習(ネット及び参考書での用語検索)100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第9回	水質汚濁問題 最も身近な環境問題である水質汚濁問題を有機汚濁と化学物質汚染の両面から理解する 予習：毎回のテーマに関する事前学習(ネット及び参考書での用語検索)100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第10回	大気汚染問題 健康被害に直結する大気汚染問題と現状の取り組み状況を理解する

	予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第11回	化学物質問題 文明の発達に伴い発生する様々な化学物質と対策の取り組みを学ぶ 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第12回	放射能汚染問題 福島第一発電所事故によって生じた放射能汚染について学ぶ 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第13回	都市と交通 都市化に伴い発生する様々な問題と環境をつなげて理解する 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第14回	講義まとめ これまでの講義をまとめ重要箇所の復習を行う 予習：全体講義の復習200分

成績評価方法・基準	日本と世界の環境問題の概況を理解し、代表的な環境問題のいくつかについてその現状、原因と対策を問う定期試験40%、平常点（授業中の発言、復習などの努力、積極的に取り組む姿勢等）60%を合計して評価する。
-----------	--

参考書	『文系のための環境科学入門【新版】』 藤倉良・藤倉まなみ 有斐閣 『環境社会検定試験 e c o 検定公式テキスト』 東京商工会議所 日本能率協会マネジメントセンター 『地球環境学入門 第3版』 山崎友紀 講談社
その他	
参考URL	環境省 https://www.env.go.jp/index.html EICネット www.elc.or.jp

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	環境省（庁）で33年間勤務。主な勤務ポストは国立公園管理や野生生物保護を担当する現場の自然保護官事務所や、法律の立案などを担当する環境省本省自然環境局。この他、長崎県庁、宮内庁、復興庁、IGESなど、地方も含め他分野の行政や研究機関も経験。これらの経験を活かし毎回授業の冒頭において最近の環境関係記事を紹介、背景解説を行う。
学生を主体とする教育方法の実践	PBL(課題解決型学習)
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(1)／社会学部(2)／社会学部(5)／現代社会学科(1)／現代社会学科(3)／現代社会学科(4)／現代社会学科(5)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	中口 哲治(T-1002)		履修開始年次	2年	単位※1	2単位
年度	2022年度	科目名	株式・証券投資論			
学期※2	2022年度前期		学校区分	大学		
科目群	経2群		区分(授業形態)	週間授業		
副題	資本市場の役割と証券投資					
授業の概要	<p>資本市場に求められる役割とは何か。カリキュラム前半は、激変する日本の資本市場の全容と投資のリスク&リターンの考え方、債券・株式投資・投資信託・外国為替相場など、証券投資における重要なテーマを実務の観点から解説する。カリキュラム後半は、自らの資産運用に向けて、ライフプランニング・資産形成制度の活用手法などを学び、実際にDCポートフォリオやマネープランの演習課題を行っていく。本講座は、野村證券による寄付講座として本学学生の金融リテラシー向上を目指すために設置されている。</p> <p>注1) 授業形態は対面を基本とする。但し、新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンライン(オンデマンド型)で実施する場合もある。</p> <p>注2) オンライン(オンデマンド型)になった場合は、エドクラテスを活用して授業を行う。</p>					
到達目標	証券・金融市場及び資産形成関連のテーマを中心とする講義を通じて、社会・経済の動向に関する見聞を広め、今後の社会生活や個人のお金を基軸としたライフプラン作りに必要な知識を習得する。この科目は経営社会学科の「販売、営業、財務、経営スキルを修得し、創造的なアイデアを実現する力を持っている」というディプロマポリシーに関連し、一般企業における販売、営業、財務、経営といった現場で働く際に必要な経済及び投資の基本的な知識とスキルの習得を到達目標とする。					

授業内容及び準備学習(予習・復習)の内容

第1回	「ガイダンス・なぜ今金融リテラシーが必要なのか」資本市場の役割と証券投資 予習：日本経済新聞や日経マネーなどの経済情報に目を通しておく(120分) 復習：金融リテラシーとは何かについて説明できること、配布資料の再読(80分)
第2回	「経済と金融の基礎知識」 予習：日本経済新聞や日経マネーなどの経済情報に目を通しておく(120分) 復習：経済情報の概略について説明できること、配布資料の再読(80分)
第3回	「金融商品を理解する」 予習：日本経済新聞や日経マネーなどの経済情報に目を通しておく(120分) 復習：金融商品の概要について説明できること、配布資料の再読(80分)
第4回	「債券の基礎Ⅰ」 予習：日本経済新聞や日経マネーなどの経済情報に目を通しておく(120分) 復習：債権とは何かについて説明できること、配布資料の再読(80分)
第5回	「債券の基礎Ⅱ」 予習：日本経済新聞や日経マネーなどの経済情報に目を通しておく(120分) 復習：債権の役割について説明できること、配布資料の再読(80分)
第6回	「株式の基礎Ⅰ」 予習：日本経済新聞や日経マネーなどの経済情報に目を通しておく(120分) 復習：株式とは何かについて説明できること、配布資料の再読(80分)
第7回	「株式の基礎Ⅱ」 予習：日本経済新聞や日経マネーなどの経済情報に目を通しておく(120分) 復習：株式の役割について説明できること、配布資料の再読(80分)
第8回	「投資信託入門」 予習：日本経済新聞や日経マネーなどの経済情報に目を通しておく(120分) 復習：投資信託の概要を説明できること、配布資料の再読(80分)
第9回	「外国為替相場の基礎知識」 予習：日本経済新聞や日経マネーなどの経済情報に目を通しておく(120分) 復習：外国為替相場について概略を説明できること、配布資料の再読(80分)
第10回	「資産運用の考え方」 予習：日本経済新聞や日経マネーなどの経済情報に目を通しておく(120分) 復習：資産運用の概要について説明できること、配布資料の再読(80分)
第11回	「行動ファイナンスー投資家心理について」 予習：日本経済新聞や日経マネーなどの経済情報に目を通しておく(120分) 復習：リスク&リターン、投資家心理について説明ができること、配布資料の再読(80分)
第12回	

	「ライフプランニング～人生とお金について」 予習：日本経済新聞や日経マネーなどの経済情報に目を通しておく(120分) 復習：自分で作成したライフプランを見直す、配布資料の再読(80分)
第13回	「グローバル化する世界と資本市場の果たす役割」(外部講師による特別講義) 予習：日本経済新聞や日経マネーなどの経済情報に目を通しておく(120分) 復習：グローバル経済と投資について概要を説明できること、配布資料の再読(80分)
第14回	「資産形成制度について」 予習：日本経済新聞や日経マネーなどの経済情報に目を通しておく(120分) 復習：資産形成制度について説明できること、資料の再読(80分)

成績評価方法・基準	対面授業、オンライン(オンデマンド含む)授業に関わらず、以下の評価手法を用いる。 評価は、金融関連または一般企業の現場で働く際に必要な経済と投資の基本的な知識とスキルの習得という科目到達目標に対して、平常点(小課題の提出、積極的に取り組む姿勢、予習復習などの努力その他)40%、定期試験の結果60%を総合的に評価する。
-----------	--

参考書	「証券投資の基礎」野村證券投資情報部編 丸善株式会社
その他	授業の内容に関して疑問や質問等がある場合は、nguchi@edogawa-u.ac.jp(中口エドメールアドレス)に連絡すること。
参考URL	

実務経験	あり(実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用)
実務経験詳細	鐘紡株式会社(ファッション研究所)にて、国内外トレンド分析・発信業務に従事。その後、マーケティングディレクターとして丸井、三井物産、ワコールなど様々なファッション関連企業のブランドプロデュース業務に携わる。2007年、ファッションプロデュース会社の代表取締役役に就任し、経営管理の実務を担当。 <実務経験のある教員等>
学生を主体とする教育方法の実践	反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態) / グループワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	経営社会学科(1)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	中口 哲治(T-1002)		履修開始年次	カリキュラムにより異なります。	単位※1	2単位
年度	2022年度	科目名	ファッションマネジメント論			
学期※2	2022年度後期		学校区分	大学		
科目群	経2群		区分(授業形態)	通間授業		
副題	ファッション企業における経営戦略(ファッションマネジメント論)					
授業の概要	<p>グローバル競争化時代を迎え日本のファッション企業は自らのブランド商品力に磨きをかけ世界に市場を見出しはじめている。ファッションマネジメント論では様々なファッション企業の経営戦略にフォーカスし、成功・失敗といったケーススタディの中から今後のファッション企業はどのような戦略をとるべきかを自分なりに理解し、多面的に考察説明出来ることを目的とする。</p> <p>注1) 授業形態は対面を基本とするが、教育効果の観点から一部オンライン授業(オンデマンド型)/全14回のうち5回を予定)を実施する。 注2) オンライン(オンデマンド型)授業の場合は、エドクラテスと動画を活用して授業を行う。</p>					
到達目標	ファッション分野で著しく成長をとげる企業または低迷する企業の経営及びマーケティング戦略について学び様々な事例の中から企業活動の本質を見抜く力を養う。あわせて業界各論に対して議論できる応用的な知識の獲得を目的とする。この科目は経営社会学科のディプロマポリシー「新規ビジネスの創造、ファッションビジネス等、ビジネス最前線で活躍できる応用力を育成する」に関連し、ファッションビジネスの現場で働く際に必要なマネジメント関連知識と応用スキルの習得を到達目標とする。					

授業内容及び準備学習(予習・復習)の内容

第1回	<p>オリエンテーション/ 講義概要と進め方、マネジメントとは?</p> <p>予習: 様々なマネジメントの形態について調べておく(120分)</p> <p>復習: マネジメントの概念について説明できる/資料の再視聴(80分)</p>
第2回	<p>企業とインプット(資本コントロール)/Francfrancのマネジメントバイアウト</p> <p>予習: マネジメントバイアウトについて調べておく(120分)</p> <p>復習: Francfrancの事例に基づき企業のインプット戦略について説明できる/資料の再視聴(80分)</p>
第3回	<p>企業とアウトプット(製品・ブランド)/イッセイミヤケの市場地位戦略</p> <p>予習: 一般的な企業の市場地位戦略について調べておく(120分)</p> <p>復習: イッセイミヤケの事例に基づき企業のアウトプット戦略について説明できる/資料の再視聴(80分)</p>
第4回	<p>競争戦略のマネジメント-1/しまむらのコストリーダーシップ戦略</p> <p>予習: 一般的な企業の競争戦略について調べておく(120分)</p> <p>復習: しまむらの事例に基づき企業の競争戦略について説明できる/資料の再視聴(80分)</p>
第5回	<p>多角化戦略のマネジメント/ストライブインターナショナルの市場最速化戦略/オンデマンド授業(予定)</p> <p>予習: 一般的な企業の多角化戦略について調べておく(120分)</p> <p>復習: ストライブインターナショナルの事例に基づき企業の多角化戦略について説明できる/資料の再視聴(80分)</p>
第6回	<p>国際化のマネジメント/ユニクロのグローバルマーケティング戦略</p> <p>予習: 一般的な企業の国際化戦略について調べておく(120分)</p> <p>復習: ユニクロの事例に基づき企業のグローバル戦略について説明できる/資料の再視聴(80分)</p>
第7回	<p>マクロ・ミクロ組織戦略/ワコールの人間至上主義戦略</p> <p>予習: 一般的な企業の組織戦略について調べておく(120分)</p> <p>復習: ワコールの事例に基づき企業の組織戦略について説明できる/資料の再視聴(80分)</p>
第8回	<p>企業のコアコンピタンス考/タサキの技術志向、顧客志向/オンデマンド授業(予定)</p> <p>予習: コアコンピタンスについて調べておく(120分)</p> <p>復習: タサキの事例に基づき企業のコアコンピタンスについて説明できる/資料の再視聴(80分)</p>
第9回	<p>競争戦略のマネジメント-2/ ZOZOTOWN一人勝ち戦略戦略、SWOT分析とは</p> <p>予習: ZOZOTOWNのサイトに入ってユーザビリティを確認しておく(120分)</p> <p>復習: 一人勝ち戦略、SWOT分析について説明できる/資料の再視聴(80分)</p>
第10回	<p>経営戦略演習-1 企業のクロスSWOT分析と経営戦略(有力企業を1人1社選び戦略分析を行う)</p> <p>予習: クロスSWOT分析の事例について調べておく(120分)</p> <p>復習: ピックアップした企業のクロスSWOT分析結果について説明できる(80分)</p>
第11回	<p>経営戦略演習-2 企業のバリューチェーン分析と経営戦略(有力企業を1人1社選び戦略分析を行う)/オンデマンド授業(予定)</p> <p>予習: バリューチェーン分析、財務分析の概要について調べておく(120分)</p> <p>復習: ピックアップした企業のバリューチェーンと中長期戦略について説明できる(80分)</p>

第12回	企業における戦略的CSRとは/メンバーの企業姿勢と社会貢献活動/オンデマンド授業(予定) 予習:一般的な企業のCSRについて調べておく(120分) 復習:メンバーの事例に基づき企業のCSR戦略について説明できる/資料の再視聴(80分)
第13回	アパレル産業のビジネスモデル/次世代型デザイナーズアパレル成功の鍵 /オンデマンド授業(予定) 予習:最近のデザイナーズアパレルについて調べておく(120分) 復習:SACAIの事例に基づきデザイナーズアパレルが成功するファクターについて説明できる/資料の再視聴(80分)
第14回	ファッション業界のあり方、2030年の未来予測に関する考察 予習:ファッション業界の未来についてネットで調べておく(120分) 復習:業界の方向性について説明できる/資料の再視聴(80分)

成績評価方法・基準	対面授業、オンライン(オンデマンド含む)授業に関わらず、以下の評価手法を用いる。 評価は、ファッションビジネスの現場で働く際に必要なマネジメント関連知識と応用スキルの習得という科目到達目標に対して、平常点(小課題の提出、積極的に取り組む姿勢、復習などの努力等)42%、演習課題18%、定期試験の結果40%を総合的に評価する。 経営戦略演習-課題は提出後、必要に応じてフィードバックを行う。
-----------	--

参考書	「この1冊ですべてわかる 経営戦略の基本」日本総合研究所 経営戦略研究会著 日本実業出版社
その他	授業の内容に関して疑問や質問等がある場合は、nguchi@edogawa-u.ac.jp (中口エドメールアドレス)に連絡すること。
参考URL	

実務経験	あり(実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用)
実務経験詳細	鍾紡株式会社(ファッション研究所)にて、国内外トレンド分析・発信業務に従事。その後、マーケティングディレクターとして丸井、三井物産、ワコールなど様々なファッション関連企業のブランドプロデュース業務に携わる。2007年、ファッションプロデュース会社の代表取締役役に就任し、経営管理の実務を担当。 <実務経験のある教員等>
学生を主体とする教育方法の実践	PBL(課題解決型学習) / 反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ディプロマ・ポリシーとの関連性	経営社会学科(1)/経営社会学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	南展越一義(T-0202)		履修開始年次	1年	単位※1	2単位
年度	2022年度	科目名	ファッションビジネス入門/ファッションB入門I			
学期※2	2022年度後期		学校区分	大学		
科目群	経2群		区分(授業形態)	週間授業		
副題	ファッション業界のカテゴリーに触れる					
授業の概要	<p>人々のベーシックな営みに加え流行やおしゃれといった感覚的で、不透明な世界をビジネスの最前線に取り入れて成功して来たのがファッション業界である。本講座はファッションに興味があるが詳しくは知らない、あるいはもっと知りたいと思っている学生たち向けのファッション業界入門編として位置づける。具体的にはメンズ、レディース、ビューティ、ブライダル、スポーツなどファッション業界を構成する様々なカテゴリーの存在について理解し、多面的に考察説明できることを目的とする。</p> <p>注1) この科目では、エドクラテスを活用して授業を実施する</p>					
到達目標	<p>ファッションにかかわる様々な業界にスポットを当て業界の仕組みやプレイヤー、企業活動の様子を知る。このことにより他の業界との違いを対比推測するといった基本動作を身につけ、第三者に対してファッション業界のポジショニングを説明できる程度の基礎知識の獲得を目的としている。この科目は経営社会学科のディプロマポリシー「新規ビジネスの創造、ファッションビジネス等、ビジネス最前線で活躍できる応用力を育成する」に関連し、ファッションビジネスの現場で働く際に必要な基本的な知識とスキルの習得と到達目標とする。</p>					

授業内容及び準備学習(予習・復習)の内容

第1回	<p>オリエンテーション/講義概要と進め方、ファッションとは?</p> <p>予習: ファッションの多様性について調べておく(120分)</p> <p>復習: ファッション、モードの概念について説明できる/配布した資料を再読(80分)</p>
第2回	<p>ガールズファッションと市場/ギャルの歴史、ガールズコレクションという起爆剤</p> <p>予習: Webで「ストリートスナップ」女子版を検索して閲覧しておく(120分)</p> <p>復習: ガールズ市場の全体像について説明できる/配布した資料を再読(80分)</p>
第3回	<p>メンズファッションと市場/平成男子の実態、男装の変化</p> <p>予習: Webで「ストリートスナップ」男子版を検索して閲覧しておく(120分)</p> <p>復習: 平成男子の実態とファッション観について説明できる/配布した資料を再読(80分)</p>
第4回	<p>化粧品業界について/最新コスメ、UVケア、美容関連</p> <p>予習: 百貨店の化粧品売り場に行きメーカーの特徴を調べておく(120分)</p> <p>復習: 化粧品業界の概要と特徴について説明できる/配布した資料を再読(80分)</p>
第5回	<p>ブライダルビジネスの現状/結婚に対する意識、最新ウェディング事情</p> <p>予習: 最近の結婚事情についてWebで調べておく(120分)</p> <p>復習: ブライダルビジネスの概要と特徴について説明できる/配布した資料を再読(80分)</p>
第6回	<p>進化するスポーツウエア業界/スポーツの広がり、スポーツウエアトレンド</p> <p>予習: 好きなスポーツウエアブランドを一つ選んで特徴を調べておく(120分)</p> <p>復習: スポーツウエア業界とファッション業界の関係性について説明できる/配布した資料を再読(80分)</p>
第7回	<p>キャラクタービジネスの概要/キャラクターの分類、ハローキティの世界戦略</p> <p>予習: 好きなキャラクターを一つ選びホルダー企業について調べておく(120分)</p> <p>復習: キャラクタービジネス業界の概要について説明できる/配布した資料を再読(80分)</p>
第8回	<p>キャラクター調査演習 キャラクターの概要と開発経緯、ビジネス構造(キャラクターを1人1口選び調査分析を行う)</p> <p>予習: ピックアップしたキャラクターのライセンスホルダーを調べておく(120分)</p> <p>復習: ピックアップしたキャラクターのビジネス構造について説明できる(80分)</p>
第9回	<p>ファッションビジネスの構造/時代の変化とファッション、ファッション業界の仕事</p> <p>予習: Web検索でファッション業界の仕組みについて調べておく(120分)</p> <p>復習: ファッションビジネスの構造について説明できる/配布した資料を再読(80分)</p>
第10回	<p>アパレルメーカーとSPAのビジネス/ビジネスモデル、ZARA,H&M,GUその他の実態</p> <p>予習: Web検索でアパレルSPAについて調べておく(120分)</p> <p>復習: アパレルメーカーとSPAの違いについて説明できる/配布した資料を再読(80分)</p>
第11回	<p>素材産業と商社の役割/ハイテク素材の現状、繊維専門商社の実態</p> <p>予習: 素材産業の概要について調べておく(120分)</p> <p>復習: 素材産業と商社の役割について説明できる/配布した資料を再読(80分)</p>
第12回	<p>ファッション小売業の概要/百貨店のビジネス、ショッピングセンターの戦略</p>

	予習：ショッピングセンターに行ってファッション売り場の状況を調べておく(120分) 復習：ファッション小売業の現状について説明できる/配布した資料を再読(80分)
第13回	急成長するECとセレクトショップ/ファッション系ネット通販、BEAMS,ユナイテッドアローズ,アーバンリサーチなど 予習：好きなファッションECサイトのサイトマップを調べておく(120分) 復習：ECとセレクトショップのビジネスについて説明できる/配布した資料を再読(80分)
第14回	ファッション業界の未来について/まとめと振り返り 予習：ファッションとAI活用についてネットで調べておく(120分) 復習：ファッション業界の未来について説明できる/配布した資料を再読(80分)

成績評価方法・基準	対面授業、オンライン授業に関わらず、以下の評価手法を用いる。 評価は、ファッションビジネスの現場で働く際に必要な基本的な知識とスキルの習得という科目到達目標に対して、平常点（授業中(オンライン含む)の発言、小課題の提出、予習復習などの努力等) 42%、演習課題18%、定期試験の結果40%を総合的に評価する。 演習課題は提出後、必要に応じてフィードバックを行う。
-----------	---

参考書	「よくわかるアパレル業界」 機研新聞編集局著 日本実業出版社
その他	授業の内容に関して疑問や質問等がある場合は、南馬越 kminamim@edogawa-u.ac.jp 連絡すること。
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	株) ビームスで店長やバイヤー、クリエイティブディレクターなど歴任。2010年「ビームス創造研究所」所長となり「ファッションを軸にモノをつくり、コトを起こす」新事業を開始。20年よりビームス ディレクターズルームクリエイティブディレクター。
学生を主体とする教育方法の実践	PBL(課題解決型学習) / 反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ディプロマ・ポリシーとの関連性	経営社会学科(1)/経営社会学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	南馬越一義(T-0202)		履修開始年次	2年	単位※1	2単位
年度	2022年度	科目名	ファッションマーケティング論			
学期※2	2022年度前期		学校区分	大学		
科目群	経2群		区分(授業形態)	週間授業		
副題	ファッション企業におけるマーケティング戦略					
授業の概要	グローバル競争化時代を迎え日本のファッション企業は自らのブランド商品力に磨きをかけ世界に市場を見出しはじめている。ファッションマーケティング論では消費者の満足を得る商品を作る売るために市場分析、商品政策、店舗政策、コミュニケーション施策はどうあるべきかなどファッション企業のマーケティング戦略について理解し、多面的に考察説明出来ることを目的とする。					
到達目標	ファッション分野で著しく成長をとげる企業の経営及びマーケティング戦略について学び様々な事例の中から企業活動の本質を見抜く力を養う。あわせて業界各論に対して議論できる応用的な知識の獲得を目的としている。この科目は経営社会学科のディプロマポリシー「新規ビジネスの創造、ファッションビジネス等、ビジネス最前線で活躍できる応用力を育成する」に関連し、ファッションビジネスの現場で働く際に必要なマーケティング知識と応用スキルの習得を到達目標とする。					

授業内容及び準備学習(予習・復習)の内容

第1回	ファッションマーケティングとは/ファッションビジネス環境の変化 予習：一般的なマーケティングについて調べておく(120分) 復習：ファッションマーケティングの概念について説明できる/配布した資料を再読(80分)
第2回	ファッションマーケティングの構造/消費者動向、自社、競合他社動向含む3C分析、PEST分析その他 予習：Web検索でマーケティングにおける環境分析について調べておく(120分) 復習：環境分析の手法について説明できる/配布した資料を再読(80分)
第3回	ブランドビジネスの創造/ブランドとブランディング戦略 予習：好きなブランドを一つピックアップし、その戦略について調べておく(120分) 復習：ブランドとブランディングの違いについて説明できる/配布した資料を再読(80分)
第4回	STP分析/市場細分化(消費者分類、感性、着用機会etc.)とターゲットポジショニング 予習：若者が好きなファッションを分類しておく(120分) 復習：市場細分化の手法について説明できる/配布した資料を再読(80分)
第5回	流行のサイクルとアパレル企業の流行予測システム 予習：最近、流行っているモノ・コトについて調べておく(120分) 復習：アパレル業界における流行の作り方について説明できる/配布した資料を再読(80分)
第6回	4P/アパレル企業のマーチャライジング戦略/商品構成、価格と原価 予習：アパレルの製造過程について調べておく(120分) 復習：アパレル商品の小売価格と原価の関係性について説明できる/配布した資料を再読(80分)
第7回	4P/アパレル企業のチャネル戦略/店舗、流通 予習：アパレル実店舗とECショップについて調べておく(120分) 復習：アパレル実店舗とECの関係性について説明できる/配布した資料を再読(80分)
第8回	4P/アパレル企業のコミュニケーション戦略 予習：アパレル企業・ブランドの広告表現について調べておく(120分) 復習：ファッション広告の変遷と最新事情について説明できる/配布した資料を再読(80分)
第9回	ブランド開発演習-1/仮想的なブランドを作る① ガイダンス、環境分析(消費者動向など)と仮説設定 予習：コラボができそうなブランドを幾つか探しておく(120分) 復習：仮説部分について再度検討を加える(80分)
第10回	ブランド開発演習-2/仮想的なブランドを作る② コンセプト、STPと4Pの具体化 予習：企画したブランドの4Pについて書く内容を決めておく(120分) 復習：企画したブランドの4Pについて再度検討を加える(80分)
第11回	ファッション小売業のマーケティング/店舗運営、店舗開発 予習：アパレルショップを訪問し、売り場作りについて調べておく(1020分) 復習：アパレル小売にとって重要なポイントとは?を説明できる/配布した資料を再読(80分)
第12回	ファッション小売(店舗)のマーチャライジング/品揃えとVMD仕入れ、販売業務と店舗の販促 予習：アパレルショップを訪問し、VMDについて調べておく(120分)

	復習：バイイングとVMDのあり方について説明できる/配布した資料を再読(80分)
第13回	ECサイトのマーケティング/デジタルマーケティングの実情 予習：アパレルブランドのWEB広告とプロモーションについて調べておく(120分) 復習：WEBプロモーションの重要性について説明できる/配布した資料を再読(80分)
第14回	最新マーケティング事情/業界の未来予測と考察 予習：最近のAI活用事例について調べておく(120分) 復習：アパレル業界のAI活用と課題について説明できる/配布した資料を再読(80分)

成績評価方法・基準	対面授業、オンライン(オンデマンド含む)授業に関わらず、以下の評価手法を用いる。 評価は、ファッションビジネスの現場で働く際に必要なマーケティング知識と応用スキルの習得という科目到達目標に対して、平常点(小課題の提出、積極的に取り組む姿勢、復習などの努力等)42%、演習課題18%、定期試験の結果40%を総合的に評価する。ブランド開発演習課題は提出後、必要に応じてフィードバックを行う。
-----------	--

参考書	「マーケティング戦略」和田充夫他著 有斐閣アルマ(出版社) その他
その他	授業の内容に関して疑問や質問等がある場合は、南馬越 kmlnamim@edogawa-u.ac.jp 連絡すること。
参考URL	

実務経験	あり(実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用)
実務経験詳細	株式会社ビームスで店長やバイヤー、クリエイティブディレクターなど歴任。2010年「ビームス創造研究所」所長となり「ファッションを軸にモノをつくり、コトを起こす」新事業を開始。20年よりビームス ディレクターズ ルームクリエイティブディレクター。
学生を主体とする教育方法の実践	PBL(課題解決型学習)/反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(1)/社会学部(2)/経営社会学科(1)/経営社会学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	杉山 敏啓(T-0101)		履修開始年次	1年	単位※1	2単位
年度	2022年度	科目名	金融ビジネス基礎/金融ビジネス基礎I			
学期※2	2022年度後期		学校区分	大学		
科目群	経2群		区分(授業形態)	週間授業		
副題	金融が経済社会において果たす役割について基礎的な理解力を身につけます。					
授業の概要	金融は企業経営や個人生活において重要な役割を果たしています。金融ビジネスは産業としても重要な位置づけであり、日本を含む各国では情報テクノロジーを活用することで、金融ビジネスを未来の成長産業として育成しようと期待を寄せています。金融の面白さに触れながら、現代の金融ビジネスの理論と現実の両面から分かりやすく解説します。(本講義はポータルサイトとしてエドクラテスを使用し、講義レジュメの配布、授業内小テスト実施などは原則エドクラテスにて行います。オンライン授業実施時にはGoogle DriveおよびGoogle Meetを使用します。)					
到達目標	この科目は社会学部のディプロマ・ポリシー「教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている」並びに経営社会学部のディプロマ・ポリシー「販売、営業、財務、経営スキルを修得し、創造的なアイデアを実現する力を持っている」に即し、将来的に金融ビジネスの最前線で活躍できるような基礎力と応用力を養うことを意図して進めます。金融ビジネスについての学習を通じて、金融経済社会で用いられる主要用語を理解し、説明する基礎力を身につけることを目的とします。					

授業内容及び準備学習(予習・復習)の内容

第1回	金融の基礎 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する (100分程度) 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する (100分程度)
第2回	金融システムの全体像 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する (100分程度) 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する (100分程度)
第3回	金融機関の種類と機能 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する (100分程度) 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する (100分程度)
第4回	日本銀行と金融政策 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する (100分程度) 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する (100分程度)
第5回	銀行の種類と役割 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する (100分程度) 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する (100分程度)
第6回	決済・預金・貸出と信用創造 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する (100分程度) 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する (100分程度)
第7回	協同組織金融機関 ※100%オンライン開催予定日 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する (100分程度) 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する (100分程度)
第8回	政策金融機関 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する (100分程度) 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する (100分程度)
第9回	証券会社・保険会社・機関投資家 ※100%オンライン開催予定日 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する (100分程度) 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する (100分程度)
第10回	ノンバンク・その他金融機関 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する (100分程度) 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する (100分程度)
第11回	金融ビジネスの最先端とFinTech(フィンテック) 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する (100分程度) 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する (100分程度)
第12回	利用者である個人からみた金融ビジネス ※100%オンライン開催予定日 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する (100分程度) 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する (100分程度)
第13回	利用者である法人からみた金融ビジネス ※100%オンライン開催予定日

	予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第14回	金融市場の種類と役割 ※100%オンライン開催予定日 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）

成績評価方法・基準	期末試験50%、授業内小テスト50%の比重で成績評価を行います。 試験では金融ビジネスや金融指標に関する主要キーワードの理解度に重点を置いて確認します。対面授業時・オンライン授業時ともに評価基準は同一です。
-----------	--

書名	著者	出版社	ISBN	備考
金融のしくみと金融用語	杉山敏啓	日本能率協会マネジメントセンター	978-4-8005-9006-0	2022年4月中旬出版
参考書	『お金の基本』杉山敏啓 新星出版社 ISBN-10:4405120161			
その他	講義レジュメを授業にて配布しますが、これに加えて筆記用具、ノートを準備してください。金融に関するニュースなどに、興味関心を持って受講されることを推奨します。 【連絡先】 sugiyama@edogawa-u.ac.jp			
参考URL				

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	都市銀行系シンクタンクで金融機関マネジメントに関する研究開発・コンサルティングに25年以上従事するとともに、都市銀行への出向、京都市会計室金融専門員の兼務歴等、金融ビジネスの提供や利用に関連する幅広い実務経験を有する。
学生を主体とする教育方法の実践	該当なし
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(2)/経営社会学科(1)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	杉山 敏啓(T-0101)		履修開始年次	カリキュラムにより異なります。	単位※1	2単位
年度	2022年度	科目名	コーポレートファイナンスI/コーポレートF I			
学期※2	2022年度前期		学域区分	大学		
科目群	経2群		区分(授業形態)	週間授業		
副題	企業経営をファイナンスの側面から理解する力を身につけます。					
授業の概要	企業が経営を行うためにはヒト・モノ・カネという経営資源を用いる必要があります。コーポレートファイナンスとは、資金（おカネ）の流れという視点から企業経営を分析し、投資家の期待を充足する企業経営成果を挙げることを目指す学問です。この講義では、コーポレートファイナンスに関する主要な理論と用語を理解するとともに、企業の経営状態や経営戦略を、財務・金融の視点から理解する力を身につけます。コーポレートファイナンスIは企業の財務諸表と株価情報を活用した株式価値評価に重点を置いた学習を進めます。（本講義はポータルサイトとしてエドクラテスを使用し、講義レジュメの配布、授業内小テスト実施などは原則エドクラテスにて行います。オンライン授業実施時にはGoogle DriveおよびGoogle Meetを使用します。）					
到達目標	この科目は社会学部のディプロマ・ポリシー「教員としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている」並びに経営社会学科のディプロマ・ポリシー「販売、営業、財務、経営スキルを修得し、創造的なアイデアを実現する力を持っている」に即し、将来的に金融ビジネスの最前線で活躍できるような基礎力と応用力を養うことを意図して進行します。企業経営をファイナンス（財務・金融）の視点から理解し、企業経営について説明することができる基礎力を身につけることを目的とします。コーポレートファイナンスIは株式価値評価を巡る理論と手法に重点を置いた学習を進めます。					

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容

第1回	企業経営とファイナンス 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第2回	企業の資金調達手段 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第3回	企業価値経営とキャッシュフロー ※100%オンライン開催予定日 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第4回	企業の財務分析手法(1)企業の財務諸表 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第5回	企業の財務分析手法(2)企業の資本構成 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第6回	企業の財務分析手法(3)企業の財務分析 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第7回	企業の財務分析手法(4)財務分析の実践 ※100%オンライン開催予定日 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第8回	株式評価(1)市場全体の評価 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第9回	株式評価(2)個別銘柄の評価 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第10回	株式評価(3)株価変動リスク（ β ） ※100%オンライン開催予定日 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第11回	リターンとリスク(1)個別銘柄のリスクとリターン 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第12回	リターンとリスク(2)ポートフォリオのリスクとリターン

	予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第13回	リターンとリスク(3)資本資産価格モデル ※100%オンライン開催予定日 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第14回	リターンとリスク(4)リスク・リターン分析のPC演習 ※100%オンライン開催予定日 予習：PC演習用ファイルを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえてPC演習用ファイル等を復習する（100分程度）

成績評価方法・基準	期末試験50%、授業内小テスト30%、PC演習20%の比重で成績評価を行います。試験では企業ファイナンスに関する主要キーワードの理解度、主要な企業分析指標の活用のための理解度に重点を置いて確認します。対面授業時・オンライン授業時ともに評価基準は同一です。
-----------	---

参考書	『コーポレートファイナンス入門（第2版）（日経文庫）』 砂川伸幸 日本経済新聞出版社 ISBN-10:4532113687
その他	講義レジュメを授業にて配布しますが、これに加えて筆記用具、ノート等を準備してください。ノートPCの使用を指定する回では各自ノートPCを必ず準備してください。PC演習後には作業成果の提出を義務付けます。コーポレートファイナンスI,IIは前後期続けて履修することを前提に講義を進めます。 【連絡先】 sugiyama@edogawa-u.ac.jp
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	都市銀行系シンクタンクで金融機関マネジメントに関する研究開発・コンサルティングに25年以上従事。コーポレートファイナンス分野の実務的資格である日本証券アナリスト協会検定会員（認定アナリスト）を取得・保有。
学生を主体とする教育方法の実践	実習、フィールドワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(2)／社会学部(4)／経営社会学科(1)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	杉山 敏啓(T-0101)		履修開始年次	カリキュラムにより異なります。	単位※1	2単位
年度	2022年度	科目名	コーポレートファイナンスII/コーポレートFII			
学期※2	2022年度後期		学校区分	大学		
科目群	経2群		区分(授業形態)	週間授業		
副題	企業が行うプロジェクト価値をファイナンスの側面から理解する力を身につけます。					
授業の概要	企業が経営を行うためにはヒト・モノ・カネという経営資源を用いる必要があります。コーポレートファイナンスとは、資金（おカネ）の流れという視点から企業経営を分析し、投資家の期待を充足する企業経営成果を挙げることを目指す学問です。この講義では、コーポレートファイナンスに関する主要な理論と用語を理解するとともに、企業の経営状態や経営戦略を、財務・金融の視点から理解する力を身につけます。コーポレートファイナンスIIは企業の投資プロジェクトについて時間価値を考慮した価値評価手法に重点を置いた学習を進めます。（本講義はポータルサイトとしてエドクラテスを使用し、講義レジュメの配布、授業内小テスト実施などは原則エドクラテスにて行います。オンライン授業実施時にはGoogle DriveおよびGoogle Meetを使用します。）					
到達目標	この科目は社会学部のディプロマ・ポリシー「教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている」並びに経営社会学科のディプロマ・ポリシー「販売、営業、財務、経営スキルを修得し、創造的なアイデアを実現する力を持っている」に即し、将来的に金融ビジネスの最前線で活躍できるような基礎力と応用力を養うことを意図して進行します。企業経営をファイナンス（財務・金融）の視点から理解し、企業経営について説明することができる基礎力を身につけることを目的とします。コーポレートファイナンスIIはNPV（Net Present Value）によるプロジェクト価値評価手法に重点を置いた学習を進めます。					

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容

第1回	企業価値評価と投資判断 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第2回	キャッシュフローの時間価値 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第3回	債券の現在価値評価 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第4回	株式の現在価値評価 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第5回	株式価値評価の数値例 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第6回	エンタープライズDCF法 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第7回	エンタープライズDCF法の実践 ※100%オンライン開催予定日 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第8回	NPVによる投資判断 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第9回	NPVによる投資判断・現在価値評価のPC演習 ※100%オンライン開催予定日 予習：PC演習用ファイルを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえてPC演習用ファイル等を復習する（100分程度）
第10回	デリバティブ：先物・スワップ 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第11回	デリバティブ：オプション 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第12回	リアルオプション評価 ※100%オンライン開催予定日

	予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第13回	リアルオプション評価のケーススタディ ※100%オンライン開催予定日 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第14回	企業価値評価のPC演習 ※100%オンライン開催予定日 予習：PC演習用ファイルを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえてPC演習用ファイル等を復習する（100分程度）

成績評価方法・基準	期末試験50%、授業内小テスト30%、PC演習20%の比重で成績評価を行います。試験ではDCF法によるプロジェクト価値評価の理解度と応用力に重点を置いて確認します。対面授業時・オンライン授業時ともに評価基準は同一です。
-----------	---

参考書	『コーポレートファイナンス入門（第2版）（日経文庫）』 砂川伸幸 日本経済新聞出版社 ISBN-10:4532113687
その他	
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	都市銀行系シンクタンクで金融機関マネジメントに関する研究開発・コンサルティングに25年以上従事。コーポレートファイナンス分野の実務的資格である日本証券アナリスト協会検定会員（認定アナリスト）を取得・保有。
学生を主体とする教育方法の実践	実習、フィールドワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(2)／社会学部(4)／経営社会学科(1)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、適年科目となります。

教員名	神田 洋(T-0901)		履修開始年次	カリキュラムにより異なります。	単位※1	2単位
年度	2022年度	科目名	スポーツジャーナリズム論I			
学期※2	2022年度前期		学校区分	大学		
科目群	マ2群		区分(授業形態)	週間授業		
副題	近代競技スポーツとメディア					
授業の概要	近代競技スポーツの誕生、伝播にはメディアの存在が欠かせなかった。スポーツとメディアのかかわりから、現代社会の普遍的な問題を探る。 スポーツの歴史を学ぶことでジャーナリズム的視点を養う。またジャーナリズム的視点から現代スポーツを読み解く。日本と英国、米国のスポーツを主な題材とする。 課題提出はGoogle Classroom、オンライン授業はGoogle Meetを使用					
到達目標	ジャーナリズムとは何か、スポーツとは何か、漠然としたイメージを具体化できるよう論を組み立てる。地域や歴史の特性に注目しながら、気になるスポーツニュースの要点を細り下げる力を身につける。メディアコミュニケーション学部の「知識と体験を基に、批判的かつ洞察的に思考し判断することができる」及びマス・コミュニケーション学科の「新しい国際化時代のコミュニケーション活動を担う、マスメディアに関する専門性を身につけている」というディプロマ・ポリシーに結びつく科目。					

授業内容及び準備学習(予習・復習)の内容

第1回	オリエンテーション スポーツとは何か。スポーツを定義するときに考えるべき事柄を整理する。 復習:近代競技スポーツの定義を説明できるようにする(100分)
第2回	競技スポーツの誕生 フットボール黎明期を知ることで、近代競技スポーツ誕生につながったメディアの影響を学ぶ。 予習:モブフットボール、マフットボールについて調べる(100分) 復習:サッカーの語源について説明できるようにする(100分)
第3回	社交と競争 近代競技スポーツの確立と普及は、スポーツが社交から競争へと向かう大きな流れでもあった。 予習:ネット球技で「サーブ」「サービス」というのはなぜか調べる(100分) 復習:欧州を起源とするスポーツの「アメリカナイズ」について説明できるようにする(100分)
第4回	“アメリカンスポーツ”の起源 ベースボールは本当に米国で生まれたのか。ベースボール誕生の歴史を紐解き、メディアが果たした役割を学ぶ。 予習:18世紀の米国で広く売られた「ポケットブック」について調べる(100分) 復習:ベースボール誕生とメディアのかかわりについて説明できるようにする(100分)
第5回	野球殿堂の礎 野球殿堂はなぜ偽りの情報を基に建てられたか。野球が聖地を必要とした理由をメディアの歴史も踏まえて学ぶ。 予習:A.G.スポルディングについて調べる(100分) 復習:ブーアスティンが提唱した「疑似イベント」の概念を説明できるようにする(100分)
第6回	競技場が示すもの ルースが建てた家? 野球場はなぜ広さが違っていいのか。場からルールを考える。 予習:ペープ・ルースの生涯について調べる(100分) 復習:野球規則のフィールド規定について説明できるようにする(100分)
第7回	スポーツルール考① 平等ってなんだ? 英国と日本の「平等」意識の違いからスポーツ文化について考察する。 予習:ボクシング軽量級の階級ごとの体重を調べる(100分) 復習:日英両国のスポーツにおける平等の考え方を説明できるようにする(100分)
第8回	スポーツルール考② スポーツをスポーツたらしめるルールとは。日常生活に解け込んだ非日常としてのスポーツとスポーツ報道を解釈する。 予習:競技スポーツを街中で行ったら違法となるプレーをリストアップする(100分) 復習:一般社会の法と競技ルールの違いを説明できるようにする(100分)
第9回	スポーツジャーナリズムの隆盛 1920年代の米国でスポーツジャーナリズムの発展につながった社会的背景を学ぶ 予習:ジャック・デンプシーについて調べる(100分) 復習:大量消費社会のメディアと偶像について説明できるようにする(100分)
第10回	スポーツ、日本上陸 独自ルールを生まない国。文明開化とスポーツ普及の関連を学ぶ。

	予習：明治期の記事について問いに答えられるようにする（100分） 復習：ともに欧州から競技スポーツを輸入した日米の違いを説明できるようにする（100分）
第11回	日本のスポーツジャーナリズム黎明期 天狗倶楽部の面々。日本のスポーツジャーナリズム誕生の過程をたどる 予習：安部磯雄について調べる（100分） 復習：与えられた明治期の記事を読む（100分）
第12回	甲子園という文化 野球はなぜインターハイに参加しないか。異例尽くしの夏の祭典からスポーツ文化を考える。 予習：甲子園大会の始まりについて調べる（100分） 復習：甲子園大会と「野球害毒論」の関係について説明できるようにする（100分）
第13回	プロ野球から考えるスポーツジャーナリズム 長年日本のナンバーワン競技であったプロ野球とメディアの関係、その功罪について歴史を中心に学ぶ。 予習：プロ野球の国際大会出場について調べる（100分） 復習：プロ野球の始まりとメディアの関係について説明できるようにする（100分）
第14回	前期総括 予習：前期のノートを見返す（100分） 復習：総括を基に各回の小テストを横断する「オンラインまとめテスト」に臨む（100分）

成績評価方法・基準	質問への口頭での回答やコメントシート記入など批判的考察を求める講義参加42%、スポーツとメディアの関係についての専門知識を問う授業内小テスト58%を合計して評価する。対面でもオンラインでも上記の基準は変わらず。
-----------	---

参考書	中村敏雄『オフサイドはなぜ反則か』平凡社 内田隆三『ベースボールの夢』岩波新書 杉本厚夫『映画に学ぶスポーツ社会学』世界思想社 黒田勇編著『メディアスポーツへの招待』ミネルヴァ書房 坂上康博ら『スポーツの世界史』一色出版 J・コークリー、P・ドネリー『現代スポーツの社会学』南窓社
その他	講義内容が多岐にわたるため、教科書は使用しない。 学生からの連絡はkanda@edogawa-u.ac.jpで受け付け
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	通信社で記者、デスクとして25年間勤務し、主にプロ野球と大リーグを担当した。スポーツジャーナリズムの現場の状況をふまえて問題点や歴史を論じる。 <実務経験のある教員等>
学生を主体とする教育方法の実践	PBL(課題解決型学習) / 反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ディプロマ・ポリシーとの関連性	メディアコミュニケーション学部(1) / マス・コミュニケーション学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	神田 洋(T-0901)		履修開始年次	カリキュラムにより異なります。	単位※1	2単位
年度	2022年度	科目名	スポーツジャーナリズム論II			
学期※2	2022年度後期		学校区分	大学		
科目群	マ2群		区分(授業形態)	週間授業		
副題	現代スポーツの諸問題					
授業の概要	現代スポーツが抱える問題を主に報道から分析し、現代社会について考察する。 スポーツの歴史を検証することでジャーナリズム的視点を養う。またジャーナリズム的視点からスポーツを読み解く。日本と英国、米国のスポーツ報道を主な題材とする。 課題提出はGoogle Classroom、オンライン授業はGoogle Meetを使用する					
到達目標	ジャーナリズムとは何か、スポーツとは何か、大きな定義を個別の事象の中に見いだせるよう論を組み立てる。各地域や歴史の特性を理解することで、現代日本のスポーツニュースを読み解く力を身につける。メディアコミュニケーション学部の「知識と体験を基に、批判的かつ洞察的に思考し判断することができる」及びマス・コミュニケーション学部の「新しい国際化時代のコミュニケーション活動を担う、マスメディアに関する専門性を身につけている」というディプロマ・ポリシーに結びつく科目。					

授業内容及び準備学習(予習・復習)の内容

第1回	オリエンテーション スポーツとメディア。スポーツジャーナリズム論Iを未履修の学生は基礎事項を学び、履修者は前期の内容を後期の導入にできるよう確認する。 復習：前期の講義概要を説明できるようにする(100分)
第2回	プロスポーツの隆盛とアマチュアリズム 忘れられた英雄ゾーン。特権階級の利益のために使われたアマチュアリズムという思想を検証する。 予習：ジム・ゾーンについて調べる(100分) 復習：アマチュアリズムの歴史について説明できるようにする(100分)
第3回	東京五輪を検証する 「呪われた五輪」の問題を振り返り、五輪の歴史と未来を考察する。 予習：2020東京五輪の予算額について調べる(100分) 復習：五輪のレガシーについて考えを述べられるようにする(100分)
第4回	パラリンピックが変化を生む スポーツの新たな可能性。各大会のレガシーからパラリンピックの意義を学ぶ。 予習：パラリンピック記録がオリンピックに迫る種目について調べる(100分) 復習：スポーツとハンディキャップの思想について説明できるようにする(100分)
第5回	スポーツ中継と金の歴史 1984ロサンゼルス五輪は何を変えたのか。集金システムとしてのメディアについて考察する。 予習：ピーター・ユベロスについて調べる(100分) 復習：五輪のプロ化について説明できるようにする(100分)
第6回	プロスポーツの仕組み Jリーグかプロ野球か。閉鎖型リーグと開放型リーグの長短を学ぶ。 予習：なぜJリーグにドラフト会議がないのかを調べる(100分) 復習：日本プロスポーツの2大リーグの特徴を説明できるようにする(100分)
第7回	スポーツとジェンダー 女性アスリートはどう描かれてきたか。ステレオタイプと解放、タイトルIX。 予習：タイトルIXについて調べる(100分) 復習：女性の競技スポーツ参加の歴史について説明できるようにする(100分)
第8回	スポーツは芸術か 大谷翔平と羽生結弦の「美しさ」は何が違うのか。美を外部から付与されることについて考える。 予習：スポーツ、文芸、美術を対象とした評論家の仕事の違いについて考える(100分) 復習：スポーツ芸術論争について説明できるようにする(100分)
第9回	薬物問題から考える「逸脱」① 米国はなぜマグワイアを許したか。薬物問題報道からドーピングの定義を考察する。 予習：1998年のマグワイアについて調べる(100分) 復習：ドーピングの定義について説明できるようにする(100分)
第10回	薬物問題から考える「逸脱」② 米国はなぜマグワイアに怒ったか。薬物問題からスポーツにおける「逸脱」のメカニズムを考える。 予習：ホセ・カンセコについて調べる(100分) 復習：「過剰同調」と「過少同調」について説明できるようにする(100分)

第11回	大学運動部は変わるか NCAAとUNIVAS。日本の大学スポーツが目指す姿を検討する。 予習：Final Fourについて調べる（100分） 復習：大学スポーツのビジネス化の功罪について説明できるようにする（100分）
第12回	「みる」スポーツと「する」スポーツ 日本における「みる」スポーツの歴史を紐解き、課題を考察する。 予習：インブリー事件について調べる（100分） 復習：応援団の役割について説明できるようにする（100分）
第13回	発言するアスリート 大坂なおみらの発言を通じ、アスリートの社会運動の歴史について学び、SNS時代の新たな形を考える。 予習：コリン・キャパニックについて調べる（100分） 復習：スポーツ選手の社会運動の歴史について説明できるようにする（100分）
第14回	後期総括 予習：後期のノートを読む（100分） 復習：総括を基に各回を横断するオンラインの「まとめテスト」を受験する（100分）

成績評価方法・基準	質問への口頭での回答やコメントシート記入など批判的考察を求める講義参加42%、スポーツとメディアの関係についての専門知識を問う小テスト58%を合計して評価する。対面でもオンラインでも上記の基準は変わらず。
-----------	--

参考書	中村敏雄『オフサイドはなぜ反則か』平凡社 J・コークリー、P・ドネリー『現代スポーツの社会学』南窓社 杉本厚夫『映画に学ぶスポーツ社会学』世界思想社 アンドリュー・ジンパリスト『オリンピック経済幻想論』ブックマン社 アンドリュー・ジンパリスト『60億円を投資できるMLBのからくり』ベースボールマガジン社 宮田由紀夫『暴走するアメリカ大学スポーツの経済学』東信堂
その他	講義内容が多岐にわたるため、教科書は使用しない。 学生からの連絡はkanda@edogawa-u.ac.jpで受け付け
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	通信社で記者、デスクとして25年間勤務し、主にプロ野球と大リーグを担当した。スポーツジャーナリズムの現場の状況をふまえて問題点や歴史を論じる。 <実務経験のある教員等>
学生を主体とする教育方法の実践	PBL(課題解決型学習)／反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ディプロマ・ポリシーとの関連性	メディアコミュニケーション学部(1)／マス・コミュニケーション学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	神田 洋(T-0901)		履修開始年次	3年	単位※1	2単位
年度	2022年度	科目名	スポーツ・ライター、キャスター論			
学期※2	2022年度前期		学校区分	大学		
科目群	マ2群		区分(授業形態)	週間授業		
副題	スポーツの取材と表現					
授業の概要	スポーツを見ること、文章で表現することについて具体的事例を基に学ぶ。スポーツを起点にし、スポーツにとどまらないライター論へと考察を広げる。 課題提出はGoogle Classroom、オンライン授業はGoogle Meetを使用する。					
到達目標	ライターの基本動作について知識を得て、小レポートなどで実践を試みる。また著名作品を分析し、作品を支える視点を学ぶ。メディアコミュニケーション学部の「自己の意見を適切に表現し、他者に配慮しながら積極的にコミュニケーションできる」及びマス・コミュニケーション学科の「現代社会に溢れる情報を『正確にとらえ、的確に伝える』ことができる」というディプロマ・ポリシーに結びつく科目。					

授業内容及び準備学習(予習・復習)の内容

第1回	オリエンテーション&スポーツを書く ジャーナリズムとは手法である。スポーツライティングを成立させる手法はジャーナリズム全体に通じる。 復習: ジャーナリスティックな文章について説明できるようにする(100分)
第2回	スポーツライティングの特性 他ジャンルの記事との違いを新聞の面の比較から分析する 予習: 同一紙のスポーツ面と経済面を読む(100分) 復習: ジャーナリズムを構成する「再現」と「説明」について説明できるようにする(100分)
第3回	スポーツ面を読む スポーツ面の構成と記事の決まり事を学ぶ 予習: 5W1Hのないスポーツ記事を探す(100分) 復習: 運動記事の種類を説明できるようにする(100分)
第4回	質問を構築する 質問こそがライターの根幹である。取材の第一歩となる質問づくりの方法を学ぶ。 予習: 質問リスト作り(100分) 復習: 質問内容の検討(100分)
第5回	質問のクオリティを高める 抽象と具体の度合に気を付けることで、取材が進む。 予習: 質問リスト作り(100分) 復習: 質問内容の検討(100分)
第6回	君がデスクだ① マスメディアのスポーツ報道の何に違和感を覚えるのか。学生が選ぶ「ここがおかしいスポーツ記事」。 予習: 疑問に思った記事のリストアップ(100分) 復習: 記事のリライトを試みる(100分)
第7回	君がデスクだ② 違和感を覚えた記事を分析し、リライトする。「私ならこう書く」。 予習: 記事のリライト(100分) 復習: 記事講評をふまえた見直し(100分)
第8回	スマホ時代のスポーツ記事 一つ一つの記事がスマホの小画面で分断される時代の執筆法について考察する。ラインから考える文章論。 予習: スマホで読んで意味が分かりにくい記事をリストアップ(100分) 復習: 3回目との関連で、スポーツ面構成の新しい流れを考察する(100分)
第9回	記録の世界 スコアシートから見えるもの。競技を記録する意味について考える。 予習: 「好きな記録」のリストアップ(100分) 復習: 記録と検索について説明できるようにする(100分)
第10回	スポーツニュースはこわい? スポーツだからこそ入り込んでくる偏見や間違いを検証する。 予習: 「日本人らしさ」に言及したスポーツ記事を見つける(100分) 復習: 「想像の共同体」について説明できるようにする(100分)
第11回	速報と続報 ニュースは育つ。速報から解説への流れを過去の報道を例に紐解く。

	予習：野球賭博事件について調べる（100分） 復習：現場の速報対応について説明できるようにする（100分）
第12回	スポーツを書く：実践編① 映像を基に、書き出しを意識してストーリーを描く 予習：記事の書き出しパターンを考えておく（100分） 復習：講義で説明した書き出しの悪例を見直す（100分）
第13回	スポーツを書く：実践編② 12回で執筆したストーリーの講評 予習：記事の狙いをプレゼンテーションする準備（100分） 復習：講評を基に記事の書き直し（100分）
第14回	前期総括 予習：各回の復習課題ができてきているか確認する（100分） 復習：提出物への総合評価を基に前期の学びを見直す（100分）

成績評価方法・基準	事前の新聞記事提出や質問への口頭での回答など講義参加42%、文章作成に関する講義内容の応用を試す課題やワークシートで58%を合計して評価する。対面でもオンラインでも上記の基準は変わらず。
-----------	---

参考書	ビル・コヴァッチ、トム・ローゼンステイール『ジャーナリズムの原則』日本経済評論社 森田浩之『スポーツニュースは怖い 刷り込まれる<日本人>』生活人新書
その他	内容が多岐にわたるため教科書はなし。 学生からの連絡はkanda@edogawa-u.ac.jpで受け付け
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	通信社で記者、デスクとして25年間勤務し、主にプロ野球と大リーグを担当。報道現場の動きや記者の基本動作をふまえて問題点を論じる。 <実務経験のある教員等>
学生を主体とする教育方法の実践	PBL(課題解決型学習) / 反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） / ディスカッション、イベント / プレゼンテーション
ディプロマ・ポリシーとの関連性	メディアコミュニケーション学部(3) / マス・コミュニケーション学科(1)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生閲覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	神田 洋(T-0901)		履修開始年次	3年	単位※1	2単位
年度	2022年度	科目名	スポーツ・ライター、キャスター論II			
学期※2	2022年度後期		学校区分	大学		
科目群	マ2群		区分(授業形態)	週間授業		
副題	作品から学ぶスポーツライティング					
授業の概要	スポーツを見ること、文章で表現することについて具体的事例を基に学ぶ。スポーツを起点にし、スポーツにとどまらないライター論へと考察を広げる。 課題提出はGoogle Classroom、オンライン授業はGoogle Meetを使用する。					
到達目標	著名作品の分析から、作品の核となる要素と作者の視点を学ぶ。小レポートなどで作家の手法の実践を試みる。メディアコミュニケーション学部の「自己の意見を適切に表現し、他者に配慮しながら積極的にコミュニケーションできる」及びマス・コミュニケーション学科の「現代社会に溢れる情報を『正確にとらえ、的確に伝える』ことができる」というディプロマ・ポリシーに結びつく科目。					

授業内容及び準備学習(予習・復習)の内容

第1回	オリエンテーション スポーツライティングの世界。映像の主要コンテンツであるスポーツを活字で取り上げる意味について学ぶ。 復習：先で取り上げる作品の概要を把握する(100分)
第2回	アスリートの表現力 「松井と長谷部」① スター選手の著書を題材に考えるアスリート本の眺め方。 予習：課題文講読(100分) 復習：両者比較の見直し(100分)
第3回	アスリートの表現力 「松井と長谷部」② 同一テーマを語る論調の違いと読者の支持。読者がアスリート本に求めるもの。 予習：課題文講読(100分) 復習：両者比較の見直し(100分)
第4回	スポーツコラムを読む① コラム分析表を作り「個人的体験」を分析する。 予習：課題文講読(100分) 復習：コラム分析表の見直し(100分)
第5回	スポーツコラムを読む② コラムに学ぶ就職試験での「個人的体験」の使い方。 予習：「私ならこう書く」アイデアをメモ(100分) 復習：コラム構成の検討(100分)
第6回	虫明証呂無の世界① 「ベケレットの夏」の肉体描写と視線。 予習：課題文講読(100分) 復習：注目の描写を再読する(100分)
第7回	虫明証呂無の世界② 「ベケレットの夏」の描写が生む構成。詳述と省略。 予習：課題文講読(100分) 復習：構成を考え再読(100分)
第8回	英文記事に挑む なぜ英語を読まなければならないか。3本の英文記事から学ぶ。 予習：課題文講読(100分) 復習：課題文再読(100分)
第9回	「エピソード」考① 評伝を読む。註報に付随する評伝を読み比べ、エピソードの効果について学ぶ。 予習：課題文講読(100分) 復習：具体性について考えながら課題文再読(100分)
第10回	「エピソード」考② スポーツ紙の連載から、使われたエピソードについて分析する。 予習：課題文講読(100分) 復習：課題文比較から得た結論の確認(100分)
第11回	「エピソード」考③ 記事中のエピソードから筆者の意図を読み取る

	予習：課題文購読（100分） 復習：筆者の回答を読み直す（100分）
第12回	スポーツに託す物語① 小説「風が強く吹いている」の題材は駅伝でなければならなかった。 予習：課題文を読み、競技特性とスポーツライティングの手法について考える（100分） 復習：「風が強く吹いている」と「ベケレットの夏」の指定部分を比較する（100分）
第13回	スポーツに託す物語② 各登場人物の視点が小説「風が強く吹いている」を支える。 予習：主語の入れ替わりを意識し、課題文を読む（100分） 復習：別視点から描く同一場面を意識し、課題文を読み直す（100分）
第14回	総括 スポーツライティングの描写を全ての執筆につなげる。 予習：本科目で学んだことを自己分析にどう使うか考える（100分） 復習：人物描写の方法についてまとめる（100分）

成績評価方法・基準	新聞記事提出や質問への口頭での回答など講義参加42%、著名作から学んだ手法の応用を確認する課題や授業のワークシート58%を合計して評価する。対面でもオンラインでも上記の基準は変わらず。
-----------	--

参考書	松井秀喜『エキストラ・インクス』文春文庫 長谷部誠『心を整える。』幻冬舎文庫 虫明亜呂無『肉体への憎しみ』筑摩書房 三浦しをん『風が強く吹いている』新潮文庫
その他	学生からの連絡はkanda@edogawa-u.ac.jpで受け付ける。
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	通信社で記者、デスクとして25年間勤務し、主にプロ野球、大リーグを担当。報道現場の動きや記者の基本動作をふまえて問題点を論じる。 <実務経験のある教員等>
学生を主体とする教育方法の実践	PBL(課題解決型学習) / 反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態) / ディスカッション、ディベート / グループワーク / プレゼンテーション / 実習、フィールドワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	メディアコミュニケーション学部(3) / マス・コミュニケーション学科(1)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生閲覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	本多悟(D-0601)		履修開始年次	2年	単位※1	2単位
年度	2022年度	科目名	出版論I			
学期※2	2022年度前期		学校区分	大学		
科目群	マ2群		区分(授業形態)	週間授業		
副題	出版の歴史、出版社の活動を学び、出版の未来を探る					
授業の概要	<p>出版とはなにかという本質的なところからはじめ、印刷以前、以降、そして現在のデジタル化時代まで、おもに日本の出版活動を世相に関連させながら学ぶ。</p> <p>また出版社各社の歩みと現況を深く理解し、出版業界が今後進むべき道を考察する。</p> <p>※対面でもオンラインでも授業内容は同一。</p> <p>この科目では、資料の配付等は原則としてGoogle Classroomを使用する。</p> <p>オンライン授業実施時は、Google Meetを使用する。</p>					
到達目標	<p>出版形式と出版コンテンツの変容を社会背景を含めて理解できるようになる。</p> <p>さらに、デジタル化、国際化している出版産業の将来像を考察するための基礎知識と考え方を習得する。</p> <p>この授業はおもに「教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている」(メディアコミュニケーション学部)と「新しい国際化時代のコミュニケーション活動を担う、マスメディアに関する専門性を身につけている」(マス・コミュニケーション学科)というディプロマ・ポリシーを到達目標とする。</p>					

授業内容及び準備学習(予習・復習)の内容

第1回	<p>ガイダンス。出版とはなにか。出版社とはなにか</p> <p>予習：シラバスに沿って、事前に参考図書該当部分を読んでおく。(100分)</p> <p>復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。(100分)</p>
第2回	<p>出版の歴史① 古代から近代</p> <p>予習：シラバスに沿って、事前に参考図書該当部分を読んでおく。(100分)</p> <p>復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。(100分)</p>
第3回	<p>出版の歴史② 近代から現代</p> <p>予習：シラバスに沿って、事前に参考図書該当部分を読んでおく。(100分)</p> <p>復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。(100分)</p>
第4回	<p>出版業界および出版社の現況</p> <p>予習：シラバスに沿って、事前に参考図書該当部分を読んでおく。(100分)</p> <p>復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。(100分)</p>
第5回	<p>出版社紹介① 講談社×小学館</p> <p>予習：シラバスに沿って、事前に参考図書該当部分を読んでおく。(100分)</p> <p>復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。(100分)</p>
第5回	<p>出版社紹介② 集英社×KADOKAWA</p> <p>予習：シラバスに沿って、事前に参考図書該当部分を読んでおく。(100分)</p> <p>復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。(100分)</p>
第7回	<p>出版社紹介③ 文藝春秋×新潮社</p> <p>予習：シラバスに沿って、事前に参考図書該当部分を読んでおく。(100分)</p> <p>復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。(100分)</p>
第8回	<p>出版社紹介④ 光文社×マガジンハウス</p> <p>予習：シラバスに沿って、事前に参考図書該当部分を読んでおく。(100分)</p> <p>復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。(100分)</p>
第9回	<p>出版社紹介⑤ その他個性的な出版社</p> <p>予習：シラバスに沿って、事前に参考図書該当部分を読んでおく。(100分)</p> <p>復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。(100分)</p>
第10回	<p>出版社から書店、読者へ…出版流通の現況</p>

	<p>予習：シラバスに沿って、事前に参考図書該当部分を読んでおく。(100分)</p> <p>復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。(100分)</p>
第11回	<p>出版社の広告ビジネス、ブランドビジネス、ECビジネス、イベントビジネス</p> <p>予習：シラバスに沿って、事前に参考図書該当部分を読んでおく。(100分)</p> <p>復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。(100分)</p>
第12回	<p>出版社のライツビジネス、国際ビジネス</p> <p>予習：シラバスに沿って、事前に参考図書該当部分を読んでおく。(100分)</p> <p>復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。(100分)</p>
第13回	<p>出版物の著作権と海賊版との闘い</p> <p>予習：シラバスに沿って、事前に参考図書該当部分を読んでおく。(100分)</p> <p>復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。(100分)</p>
第14回	<p>2022年上半期の出版業界ニュース総括</p> <p>予習：シラバスに沿って、事前に参考図書該当部分を読んでおく。(100分)</p> <p>復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。(100分)</p>
成績評価方法・基準	<p>期末レポート50%、平常点(履修態度、課題提出など)50%</p> <p>出版形式と出版コンテンツの裏容を社会背景を含めて理解しているかどうかをおもな評価基準とする。対面でもオンラインでも評価基準は同一。</p> <p>秀：評価点数が90点以上で、本講義内容について優れた知識と深い理解力とを身につけている。</p> <p>優：評価点数が80点から89点で、本講義内容について良好な知識と深い理解力とを身につけている。</p> <p>良：評価点数が70点から79点で、本講義内容についての知識と理解力にやや不足がある。</p> <p>可：評価点数が60点から69点で、本講義内容についての知識と理解力が不足している。</p> <p>不可：学修態度に問題があり、評価点数が60点に満たない。さらに、本講義内容についての知識と理解力が明らかに不足している。</p>
参考書	<p>川井良介編『出版メディア入門 第2版』日本評論社 2012年 2970円 ISBN-10:4535586160</p> <p>藤竹 颯 竹下俊郎編著『図説 日本のメディア [新版]—伝統メディアはネットでどう変わるか』NHK出版 2018年 1650円 ISBN-10:4140912537</p> <p>難波功士著『創刊の社会史』筑摩書房 2009年 ISBN-10:4480064559</p> <p>富川淳子著『ファッション誌をひもとく 改訂版』北樹出版 2017年 1836円 ISBN-10:4779305411</p> <p>吉田則昭編『雑誌メディアの文化史 増補版』森屋社 2017年 ISBN-10:486405116X</p> <p>坂本佳鶴恵著『女性雑誌とファッションの歴史社会学—ビジュアル・ファッション誌の成立』新曜社 2019年 ISBN-10:4788516101</p> <p>植田康夫著『雑誌は見ていた。』水曜社 2009年 2090円 ISBN-10:488065225</p> <p>魚住 昭著『出版と権力 講談社と野間家の——〇年』講談社 2021年 3850円 ISBN-10:4065129389</p> <p>元木昌彦著『野垂れ死に ある講談社・雑誌編集者の回想』現代書館 2020年 1870円 ISBN-10:4768458785</p> <p>伊藤彰彦著『最後の角川春樹』毎日新聞出版 2021年 2090円 ISBN-10:4620327107</p> <p>森 功著『鬼才 伝説の編集人 齋藤十一』幻冬舎 2021年 1980円 ISBN-10:4344037286</p> <p>柳澤 健著『2016年の週刊文春』光文社 2020年 2530円 ISBN-10:4334952143</p> <p>松井清人著『異端者たちが時代をつくる 諦めばかりの現代社会を変えた5つの勇気物語』プレジデント社 2019年 ISBN-10:483345145X</p> <p>木俣正剛著『文春の記憶』中央公論新社 2021年 1980円 ISBN-10:412054101</p> <p>新海 均著『カップ・ブックスの時代』河出書房新社 2014年 ISBN-10:4309624596</p> <p>駒井 稔著『いま、息をしている言葉で。「光文社古典新訳文庫」誕生秘話』而立書房 2018年 2200円 ISBN-10:4880594105</p> <p>鈴木涼美著『Jとその時代 女のこは雑誌に何を夢見たのか』光文社 2021年 1232円 ISBN-10:4334045839</p> <p>赤木洋一著『「アンアン」1970』平凡社 2007年 740円 ISBN-10:4582653587</p> <p>権根 和著『Popeye物語』新潮社 2008年 1575円 ISBN-10:4103066717</p> <p>阪本 博著『「平凡」の時代』昭和堂 2008年 ISBN-10:481220822X</p> <p>三島邦弘著『バルブ・ノンフィクション：出版社つぶれるかもしれない日記』河出書房新社 2021年 1844円 ISBN-10:4309028683</p> <p>西山雅子著『増補改訂版「ひとり出版社」という働きかた』河出書房新社 2021年 2002円 ISBN-10:4309300103</p> <p>永江 朗著『小さな出版社のつづけ方』猿江商會 2021年 1870円 ISBN-10:4908260125</p> <p>福井健策著『18歳の著作権入門』筑摩書房 2015年 902円 ISBN-10:4480689281</p> <p>ほか、授業中にも紹介する。</p>
その他	<p>授業内容などへの質問は、授業内で適宜フィードバックする。</p> <p>授業にゲストを招くことも想定しているため、スケジュール調整により、シラバスと授業内容がずれることがありうる。</p> <p>本科目だけでも受講はできるが、出版論Ⅰと出版論Ⅱの両方で出版についての全体像がわかるようになっている。</p> <p>出版論Ⅱも受講することを推奨する。</p> <p>連絡先のメールアドレスは、s-honda@edogawa-u.ac.jp</p>
参考URL	

実務経験	あり(実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用)
実務経験詳細	総合出版社・光文社にて、『週刊宝石』、『FLASH』、『女性自身』、ムック、単行本、写真集などの編集を担当。

	また、広告営業、広報、書籍・雑誌のプロモーションなど、出版ビジネスにかかわるさまざまな業務に携わってきた。出版業界の最新動向も授業に反映させていく。
学生を主体とする教育方法の実践	ディスカッション、ディベート
ディプロマ・ポリシーとの関連性	メディアコミュニケーション学部(2)/マス・コミュニケーション学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	本多悟(D-0601)		履修開始年次	2年	単位※1	2単位
年度	2022年度	科目名	出版論II			
学期※2	2022年度後期		学校区分	大学		
科目群	マ2群		区分(授業形態)	通開授業		
副題	編集者の仕事を学び、編集者の未来を探る					
授業の概要	<p>多岐にわたるテーマを取り扱い、著作者の表現活動を支える編集者の仕事に焦点をあて講義をすすめる。 活字中心だった時代から、デジタル化が進行する現時点に至る役割の変化を学び、出版文化の担い手である編集者が今後進むべき道を考察する。</p> <p>※対面でもオンラインでも授業内容に変更は同一。 この科目では、資料の配付等では原則としてGoogle Classroomを使用する。 オンライン授業実施時は、Google Meetを使用する。</p>					
到達目標	<p>編集者の仕事を社会背景を含めて理解できるようになる。 さらに、デジタル化、国際化している出版産業の将来像を考察するための基礎知識と考え方を習得する。 この授業はおもに「教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている」(メディアコミュニケーション学部)と「新しい国際化時代のコミュニケーション活動を担う、マスメディアに関する専門性を身につけている」(マス・コミュニケーション学科)というディプロマ・ポリシーを到達目標とする。</p>					

授業内容及び準備学習(予習・復習)の内容

第1回	<p>ガイダンス 編集者の仕事・役割とはなにか</p> <p>予習：シラバスに沿って、事前に参考図書該当部分を読んでおく。(100分) 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。(100分)</p>
第2回	<p>編集者の仕事① 週刊誌編集者</p> <p>予習：シラバスに沿って、事前に参考図書該当部分を読んでおく。(100分) 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。(100分)</p>
第3回	<p>編集者の仕事② コミック編集者</p> <p>予習：シラバスに沿って、事前に参考図書該当部分を読んでおく。(100分) 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。(100分)</p>
第4回	<p>編集者の仕事③ ファッション誌、ライフスタイル誌編集者</p> <p>予習：シラバスに沿って、事前に参考図書該当部分を読んでおく。(100分) 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。(100分)</p>
第5回	<p>編集者の仕事④ 文芸編集者</p> <p>予習：シラバスに沿って、事前に参考図書該当部分を読んでおく。(100分) 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。(100分)</p>
第6回	<p>編集者の仕事⑤ ビジネス書、実用書編集者</p> <p>予習：シラバスに沿って、事前に参考図書該当部分を読んでおく。(100分) 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。(100分)</p>
第7回	<p>編集者の仕事⑥ 児童書、児童誌、図鑑編集者</p> <p>予習：シラバスに沿って、事前に参考図書該当部分を読んでおく。(100分) 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。(100分)</p>
第8回	<p>編集者の仕事⑦ 芸能誌、グラビア誌編集者</p> <p>予習：シラバスに沿って、事前に参考図書該当部分を読んでおく。(100分) 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。(100分)</p>
第9回	<p>編集者の仕事⑧ Web編集者</p> <p>予習：シラバスに沿って、事前に参考図書該当部分を読んでおく。(100分) 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。(100分)</p>
第10回	<p>編集者の仕事⑨ 越境する編集者</p>

	予習：シラバスに沿って、事前に参考図書の該当部分を読んでおく。(100分) 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。(100分)
第11回	編集者の仕事⑩ 実際に編集企画を立案、プレゼンテーション① 予習：シラバスに沿って、事前に参考図書の該当部分を読んでおく。(100分) 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。(100分)
第12回	編集者の仕事⑪ 実際に編集企画を立案、プレゼンテーション② 予習：シラバスに沿って、事前に参考図書の該当部分を読んでおく。(100分) 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。(100分)
第13回	編集者の仕事⑫ 実際に編集企画を立案、プレゼンテーション③ 予習：シラバスに沿って、事前に参考図書の該当部分を読んでおく。(100分) 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。(100分)
第14回	2022年の出版業界ニュースを総括 予習：シラバスに沿って、事前に参考図書の該当部分を読んでおく。(100分) 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。(100分)

成績評価方法・基準	期末レポート50%、平常点（履修態度、課題提出など）50% 編集者の仕事および出版活動と社会との関連を理解しているかどうかをおもな評価基準とする。 対面でもオンラインでも評価基準は同一。 秀：評価点数が90点以上で、本講義内容について優れた知識と深い理解力とを身につけている。 優：評価点数が80点から89点で、本講義内容について良好な知識と深い理解力とを身につけている。 良：評価点数が70点から79点で、本講義内容についての知識と理解力にやや不足がある。 可：評価点数が60点から69点で、本講義内容についての知識と理解力が不足している。 不可：学修態度に問題があり、評価点数が60点に満たない。さらに、本講義内容についての知識と理解力が明らかに不足している。
-----------	---

参考書	豊田さいち著『編集』バイ インターナショナル 2016年 1980円 ISBN-10:4756248225 柳澤 健著『2016年の週刊文春』光文社 2020年 2530円 ISBN-10:4334952143 新谷 学著『「週刊文春」編集長の仕事術』ダイヤモンド社 2017年 1540円 ISBN-10:4478102090 新谷 学著『獲る・守る・稼ぐ 週刊文春「危機突破」リーダー論』光文社 2021年 1760円 ISBN-10:4334952607 都築響一著『「国外編集者」朝日出版社 2015年 1815円 ISBN-10:4255008949 松田紀子著『悩んでも10秒 考えすぎず、まず動く！突破型編集者の仕事術』集英社 2019年 1500円 ISBN-10:408788029X 箕輪厚介著『死ぬこと以外かすり傷』マガジンハウス 2018年 1340円 ISBN-10:4838730152 片山一行著『職業としての「編集者」』H&I 2015年 1980円 ISBN-10:4908110018 見城 徹著『編集者という病い』集英社 2009年 748円 ISBN-10:4087464180 仲俣暁生＋フィルムアート社編集部編『編集進化論 ―editするのは誰か？』フィルムアート社 2010年 ISBN-10:4845910543 櫻井秀勲著『戦後名編集者列伝 売れる本づくりを实践した鬼才たち』細書房 2003年 ISBN-10:4434030116 withnews+ノオト+Yahoo!ニュース著『現場で使える Web編集の教科書』朝日新聞出版 2021年 1980円 ISBN-10:4023319554 ほか、授業中にも紹介する。
その他	授業内容などへの質問は、授業内で適宜フィードバックする。 授業にゲストを招くことも想定しているため、スケジュール調整により、シラバスと授業内容がずれることがありうる。 本科目だけでも受講はできるが、出版論Ⅰと出版論Ⅱの両方で出版についての全体像がわかるようになっている。 出版論Ⅰも受講することを推奨する。 連絡先のメールアドレスは、s-honda@edogawa-u.ac.jp
参考URL	

実務経歴	あり（実務経歴詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経歴を活用）
実務経歴詳細	総合出版社・光文社にて、『週刊宝石』、『FLASH』、『女性自身』、ムック、単行本、写真集などの編集を担当。 また、広告営業、広報、書籍・雑誌のプロモーションなど、出版ビジネスにかかわるさまざまな業務に携わってきた。 出版業界の最新動向も授業に反映させていく。
学生を主体とする教育方法の実践	ディスカッション、ディベート／プレゼンテーション
ディプロマ・ポリシーとの関連性	メディアコミュニケーション学部(2)／マス・コミュニケーション学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	井上 一郎(T-0302)		履修開始年次	カリキュラムにより異なります。	単位※1	2単位
年度	2022年度	科目名	マーケティング論/マーケティング論I			
学期※2	2022年度前期		学校区分	大学		
科目群	マ2群		区分(授業形態)	通年授業		
副題	マーケティングのアウトラインを理解する。					
授業の概要	<p>この講義は、初めてマーケティングを学ぶ学生を対象としています。</p> <p>社会環境の変化、消費者の多様化を背景に、マーケティングは、国際企業から国内企業まで一般企業はもちろん、自治体や学校さらには社会貢献活動を行う非営利団体などにおいても、その重要性は高まっています。当然ながら、メディアビジネス、コンテンツビジネスにおいてもマーケティング発想は欠かせません。</p> <p>マーケティング論Iにおいては、マーケティングとは何か、なぜマーケティングが必要なのか、またどのようなマーケティング展開があるのかなどマーケティングのアウトラインについて理解し、マーケティング視点で企業や製品について分析できるための基礎力を身に付けることを目的とします。</p> <p>そのために、基本的な理論を、国内企業や国際企業の事例に当てはめながら、基礎的知識を身につけます</p> <p>また、後半からは、学生自身が多面的に考察できるように、座学的な講義だけでなく、身近な商品やサービスを題材にしたアクティブラーニング(演習)を実施します。演習は、受講者数に応じてグループ演習または個人演習となりますが、いずれの場合においても授業外における準備学習が必須となります。他に適時、講義時間外における観察やレポート(ミニ課題)を課します。</p> <p>【新型コロナ対策から「オンライン」にて講義が実施される場合の補足】 ※対面でもオンラインでも授業時間、講義内容に変更はありません。 ※オンラインツールは、Google meets、エドクラテス、グーグルフォームを使用します。</p>					
到達目標	<p>マーケティングの基礎的知識(用語、コンセプト、定義、構成要素等)を理解し、身の回りの商品やサービスをマーケティング視点で、分析的に説明できることです。(学部、学科の下記到達目標に対応)。</p> <p>メディアコミュニケーション学部</p> <p>1知識と体験を基に、批判的かつ洞察的に思考し判断することができる。</p> <p>2教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている。</p> <p>3自己の意見を適切に表現し、他者に配慮しながら積極的にコミュニケーションできる。</p> <p>4コンピュータや情報環境を様々な活動に活用することができる。</p> <p>6新しい時代を豊かに生き抜くため、溢れる情報を正確に判断・選別しうる能力と、的確に伝える能力を修得している。</p> <p>7多様化した現代社会において、メディアコミュニケーション及び社会的関係性の全容を理解し、自ら情報を発信することができる能力を修得している。</p> <p>マスコミュニケーション学科</p> <p>1現代社会に溢れる情報を「正確にとらえ、的確に伝える」ことができる。</p> <p>2新しい国際化時代のコミュニケーション活動を担う、マスメディアに関する専門性を身につけている。</p>					

授業内容及び準備学習(予習・復習)の内容

第1回	<p>第1回 マーケティングとは何か(オリエンテーション含む)</p> <p>【予習&復習】 シラバスをよく読む、不明点など質問できるように準備する(100分) 講義後、講義資料をエドクラテスからダウンロードしてして基礎ノートを作成させる(100分)</p>
第2回	<p>第2回 マーケティングの意味と要素を理解する</p> <p>【予習&復習】 事前テキストで講義テーマについて事前に調べておく(120分) 講義後、講義資料をエドクラテスからダウンロードしてして基礎ノートを作成させる(150分)</p>
第3回	<p>第3回 身近な事例をマーケティング4Pで整理する</p> <p>【予習&復習】 身近な事例を調べて、マーケティングの4P(Product, Price, Place, Promotion)について調べる(180分) 講義後、各自が調べたレポートをダウンロードしてして理解を深める(120分)</p> <p>【レポート課題】 身近な事例を調べて、マーケティングの4Pに整理してレポートする。</p>
第4回	<p>第4回 マーケティングの定義と拡張①定義の変遷</p> <p>【予習&復習】 事前テキストで講義テーマについて事前に調べておく(120分) 講義後、講義資料をエドクラテスからダウンロードしてしてノートにまとめる(150分)</p>

第5回	<p>第5回 マーケティングの定義と拡張②ソーシャルマーケティング</p> <p>【予習&復習】 事前テキストで講義テーマについて事前に調べておく (120分) 講義後、講義資料をエドクラテスからダウンロードしてして基礎ノートを作成させる (150分)</p>
第6回	<p>第6回 企業の存在意義とブランディング</p> <p>【予習&復習】 事前テキストで講義テーマについて事前に調べておく (120分) 講義後、講義資料をエドクラテスからダウンロードしてしてノートを作成させる (150分)</p>
第7回	<p>第7回 グループ演習：マーケティングが優れている (または優れていない) 事例は？</p> <p>【予習&復習】 ヒット製品を分析的に探索する (120分) 講義後、次週以降のプレゼンに向けて準備する (150分)</p>
第8回	<p>第8回 グループ演習：プレゼンテーション前半 (共有) & 講評 (ディスカッション)</p> <p>【予習&復習】 各自プレゼンの準備を行う (120分) 他の班のプレゼンからプレゼンの反省を行う。 (150分)</p>
第9回	<p>第9回 グループ演習：プレゼンテーション後半 (共有) & 講評 (ディスカッション)</p> <p>【予習&復習】 各自プレゼンの準備を行う (120分) 他の班のプレゼンからプレゼンの反省を行う。 (150分)</p>
第10回	<p>第10回 企業のマーケティング戦略の実践</p> <p>【予習&復習】 講義テーマの企業について事前に調べておく (120分) 講義後、講義資料をエドクラテスからダウンロードしてして基礎ノートを作成させる (150分)</p>
第11回	<p>第11回 企業のマーケティング戦略-STP</p> <p>【予習&復習】 身近な製品がどのような顧客ターゲットを設定しているか調べておく (120分) 講義後、講義資料をエドクラテスからダウンロードしてして基礎ノートを作成させる (150分)</p>
第12回	<p>第12回 企業のマーケティング戦略-4P戦略事例研究①</p> <p>【予習&復習】 身近な製品がどのような4P戦略を採用しているか分析的視点で考察する (120分) 講義後、講義資料をエドクラテスからダウンロードしてして基礎ノートを作成させる (150分)</p>
第13回	<p>第13回 企業のマーケティング戦略-4P戦略事例研究②</p> <p>【予習&復習】 身近な製品がどのような4P戦略を採用しているか分析的視点で考察する (120分) 講義後、講義資料をエドクラテスからダウンロードしてして基礎ノートを作成させる (150分)</p>
第14回	<p>第14回 マーケティングについての質疑&確認テスト</p> <p>【予習&復習】 予習：授業について復習し、確認テストに備える (180分程度)。 復習：確認テストで不明瞭だった点を復習する。 (120分程度)。</p>
成績評価方法・基準	<p>到達目標に対する達成状況を下記にて評価する。</p> <p>1) 授業への参加度 30% (①+②=最大30点まで加点) ①リアクションペーパー：1回2点 (各回の授業内容について理解したこと書いて提出) →到達目標(学部1,2,4)(学科1,2)に対応 ②教員の質問に対する回答、建設的な発言・質問：1回2点 (1講義2回分=最大4点まで加点) →到達目標(学部1,2,3,6,7)(学科1,2)に対応</p> <p>2) レポート課題1回 (第3回に実施) 10%：10点満点→到達目標(学部1,2,4,5,7)(学科1,2)に対応</p> <p>3) 授業内確認テスト 60%：第14回に実施 (60点満点) →到達目標(学部1,2)(学科1,2)に対応</p>
参考書	『マーケティング〈第2版〉』 恩蔵直人 日経文庫

	『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント』コトラー、ケラー ビアスンエデュケーション 『コトラーのマーケティング3.0』コトラー 朝日新聞出版
その他	井上が作成したテキスト（パワーポイント）を、講義内で画面に提示しながら進める。原則として講義終了後にエドクラテスにアップする。（pdfファイル） 本講義では、学生によるグループ演習を適時実施しますので講義への積極的な参加が求められます。（特に複数週にまたがるグループ演習の欠席は他の学生の迷惑になりますので欠席は厳禁です。） 【教員への連絡手段】 教員に連絡が必要な場合は、下記メールアドレス宛に連絡してください inouei@edogawa-u.ac.jp
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	<p>【略歴】 1989年総合広告会社旭通信社（現総合広告会社第3位ADK）入社。2002年出版社宣伝会議で「月刊販促会議」の編集長を務めたのち2004年ADKに複社。第1クロスコミュニケーション局長、商材開発室長、ADKソーシャルデザインラボ所長などを経て2017年4月より江戸川大学（メディアコミュニケーション学部）に転じ、現在に至る。現在も一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会 評議員、経済産業省 製造産業局 生活製品課 伝統的工芸品産業室 伝統的工芸品功労者等表彰審査員、ソーシャルメディアなどクチコミマーケティングの健全な発展を目的とする業界団体WOMマーケティング協議会の理事長などを務める。</p> <p>【主な実務実績】 VISAインターナショナル（クレジットカードの日常での普及促進）、BMW（1シリーズ日本導入キャンペーン）、ユニリーバ（リプトン、dove新製品キャンペーン）、東急ハンズ（リブランディング、リニューアルキャンペーン）、大塚食品クリスタルガイザー（リブランディングキャンペーン）、東北震災復興支援ボランティアインフォメーションプロジェクト、コスモ石油エコカード基金（コンサルティング）、大塚ホールディングス（CSRコンサルティング）、三井広報委員会（三井ゴールデン匠賞の創設）など</p>
学生を主体とする教育方法の実践	PBL(課題解決型学習) / ディスカッション、ディベート/グループワーク/プレゼンテーション
ディプロマ・ポリシーとの関連性	メディアコミュニケーション学部(1)/メディアコミュニケーション学部(2)/メディアコミュニケーション学部(3)/メディアコミュニケーション学部(4)/メディアコミュニケーション学部(6)/メディアコミュニケーション学部(7)/マス・コミュニケーション学科(1)/マス・コミュニケーション学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	濱田 有里(D-1004)		履修開始年次	1年	単位※1	2単位
年度	2022年度	科目名	Webデザイン/Webデザイン論			
学期※2	2022年度後期		学校区分	大学		
科目群	債2群		区分(授業形態)	週間授業		
副題	コンセプトから運用までWeb制作の知識を学ぶ					
授業の概要	<p>インターネットの普及に伴い、様々な情報がWebページで伝えられている。今後、社会では情報を受けるだけでなく、発信する側になる力も必要になってくる。</p> <p>Webは、本や雑誌、テレビなど従来の媒体に比べて複雑な構造をしているため、情報をユーザにとって分かりやすい形で提示できるようにデザインすることが重要である。中でも、Webサイトで「誰に何を伝えたいか」と「どのように提示するか」を考慮する設計をするべきである。</p> <p>本講義では、Webサイトのデザインにおいて、コンセプトメイキングから制作・テスト・評価・運用を行うための知識と技術を学ぶことを目的とする。実際に、自分でテーマを決めてWebサイトをデザインし、構築する演習を行う。</p> <p>この講義をオンラインで実施する場合は、エドクラテスで資料配布と課題提出を行い、GoogleMeetで講義を実施する。</p>					
到達目標	<p>この科目は、メディアコミュニケーション学部の「教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている。」及び「コンピュータや情報環境を様々な活動に活用することができる。」というディプロマ・ポリシーに関連し、Webサイトのデザインを例として、情報発信の基本スキルを身につける。</p> <p>具体的には、以下の3点を習得する。</p> <p>(1) 情報をデザインすることの重要性を学び、設計に生かすことができる。</p> <p>(2) Webサイトを作成する基本的な技術 (HTML・CSS) を習得する。</p> <p>(3) ユーザビリティを考慮したWebサイトを作成することができる。</p>					

授業内容及び準備学習(予習・復習)の内容

第1回	<p>オリエンテーション・Webデザインへのアプローチ</p> <p>予習：教科書を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる (100分)</p> <p>復習：エドクラテスに掲載されている資料と教科書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる (100分)</p>
第2回	<p>Webサイトの技術</p> <p>予習：教科書を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる (100分)</p> <p>復習：エドクラテスに掲載されている資料と教科書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる (100分)</p>
第3回	<p>コンセプトメイキング</p> <p>予習：教科書を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる (100分)</p> <p>復習：エドクラテスに掲載されている資料と教科書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる (100分)</p>
第4回	<p>情報の組織化と構造化</p> <p>予習：教科書を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる (100分)</p> <p>復習：エドクラテスに掲載されている資料と教科書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる (100分)</p>
第5回	<p>Webページの画面構成</p> <p>予習：教科書を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる (100分)</p> <p>復習：エドクラテスに掲載されている資料と教科書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる (100分)</p>
第6回	<p>素材の制作</p> <p>予習：教科書を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる (100分)</p> <p>復習：エドクラテスに掲載されている資料と教科書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる (100分)</p>
第7回	<p>テストと修正</p> <p>予習：教科書を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる (100分)</p> <p>復習：エドクラテスに掲載されている資料と教科書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる (100分)</p>
第8回	<p>HTMLとCSSの基礎</p> <p>予習：教科書を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる (100分)</p> <p>復習：エドクラテスに掲載されている資料と教科書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる (100分)</p>
第9回	<p>文書要素の制御</p> <p>予習：教科書を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる (100分)</p> <p>復習：エドクラテスに掲載されている資料と教科書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる (100分)</p>
第10回	<p>文字の装飾</p> <p>予習：教科書を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる (100分)</p> <p>復習：エドクラテスに掲載されている資料と教科書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる (100分)</p>
第11回	<p>フォームの作成</p> <p>予習：教科書を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる (100分)</p> <p>復習：エドクラテスに掲載されている資料と教科書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる (100分)</p>

第12回	CSSを用いたレイアウト 予習：教科書を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と教科書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）
第13回	Webサイト作成の実践 予習：教科書を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と教科書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）
第14回	知的財産権 予習：教科書を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と教科書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）

成績評価方法・基準	実習の課題提出（60%） 平常点（10%）（課題への取り組みと授業での発言） 筆記試験（30%）
-----------	--

書名	著者	出版社	ISBN	備考
入門Webデザイン		CG-ARTS協会	978-4-903474-52-6	
参考書				
その他	パソコンを携帯すること 連絡先：hirota@edogawa-u.ac.jp			
参考URL				

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	ソフトウェア企業に入社し、10余年にわたり卸・流通業向けのシステム開発 <実務経験のある教員等>
学生を主体とする教育方法の実践	実習、フィールドワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	メディアコミュニケーション学部(2)/メディアコミュニケーション学部(4)/メディアコミュニケーション学部(6)/メディアコミュニケーション学部(7)/情報文化学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	廣田 有里(D-1004)		履修開始年次	2年	単位※1	2単位
年度	2022年度	科目名	情報ネットワーク/情報ネットワーク論			
学期※2	2022年度前期		学校区分	大学		
科目群	情2群		区分(授業形態)	週間授業		
副題	インターネットのしくみとネットワーク社会					
授業の概要	<p>スマートフォンでメールをしたり、インターネットでこれから訪問する会社の情報を調べたりなど、情報ネットワークは私たちの生活に欠かせないインフラになっている。最近では、企業の発信する情報を受けるだけでなく、ブログやTwitter、Facebookを通してユーザ自身が積極的に情報発信することも盛んである。積極的なネットワーク活用には、ネットワークの基本的なしくみや頻繁に出てくる技術用語を理解している必要がある。</p> <p>本講義では、ネットワークの中を情報がどのような形で流れ、どのようなしくみで相手に伝達されるかを技術的な面から理解する。また、ネットコミュニケーションがどのように発達し、生活に利用されているかを学ぶ。</p> <p>この講義をオンラインで実施する場合は、エドクラテスで資料配布と課題提出を行い、GoogleMeetで講義を実施する。</p>					
到達目標	<p>この科目は、メディアコミュニケーション学部の「教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている。」及び「コンピュータや情報環境を様々な活動に活用することができる。」というディプロマ・ポリシーに関連し、以下の2項目を身に付けることができる。</p> <p>(1) インターネットの情報伝達のしくみを理解し、簡単なネットワークの診断を行うことができる。</p> <p>(2) 社会の中で、インターネットがどのように利用されているかを知り、メリット・デメリットを理解した上で適切に利用できるようになる。</p>					

授業内容及び準備学習(予習・復習)の内容

第1回	<p>オリエンテーション コンピュータとネットワークの発展</p> <p>予習: エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる(100分)</p> <p>復習: エドクラテスに掲載されている資料と提示している参考書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる(100分)</p>
第2回	<p>ネットワークの基礎知識</p> <p>予習: エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる(100分)</p> <p>復習: エドクラテスに掲載されている資料と提示している参考書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる(100分)</p>
第3回	<p>データを相手に届ける技術</p> <p>予習: エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる(100分)</p> <p>復習: エドクラテスに掲載されている資料と提示している参考書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる(100分)</p>
第4回	<p>ネットワークを構成する機器</p> <p>予習: エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる(100分)</p> <p>復習: エドクラテスに掲載されている資料と提示している参考書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる(100分)</p>
第5回	<p>物理層</p> <p>予習: エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる(100分)</p> <p>復習: エドクラテスに掲載されている資料と提示している参考書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる(100分)</p>
第6回	<p>データリンクの技術</p> <p>予習: エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる(100分)</p> <p>復習: エドクラテスに掲載されている資料と提示している参考書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる(100分)</p>
第7回	<p>IPの機能としくみ-IPプロトコル</p> <p>予習: エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる(100分)</p> <p>復習: エドクラテスに掲載されている資料と提示している参考書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる(100分)</p>
第8回	<p>IPに関する技術</p> <p>予習: エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる(100分)</p> <p>復習: エドクラテスに掲載されている資料と提示している参考書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる(100分)</p>
第9回	<p>トランスポート層の役割-TCPとUDP</p> <p>予習: エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる(100分)</p> <p>復習: エドクラテスに掲載されている資料と提示している参考書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる(100分)</p>
第10回	<p>インターネットのアプリケーション</p> <p>予習: エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる(100分)</p> <p>復習: エドクラテスに掲載されている資料と提示している参考書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる(100分)</p>
第11回	<p>ネットワーク管理のプロトコル</p> <p>予習: エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる(100分)</p> <p>復習: エドクラテスに掲載されている資料と提示している参考書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる(100分)</p>
第12回	<p>インターネットにつなぐためのブロードバンドネットワーク</p>

	予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と提示している参考書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）
第13回	情報セキュリティ 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と提示している参考書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）
第14回	ネットワークの導入 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と提示している参考書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）

成績評価方法・基準	実習の課題提出（50%）（2～11回目の課題→到達目標（1）、1,12～14回目→到達目標（2）を授業内で確認） 平常点（10%）（授業に取り組む姿勢と発言） 筆記試験（40%）（到達目標の（1）（2）を筆記試験で確認）
-----------	--

参考書	マスタリングTCP/IP 入門編 竹下隆史、村山公保、荒井透、河田幸雄（著） オーム社（出版社） 図解入門TCP/IP 仕組み・動作が見てわかる みやたひろし（著）SBクリエイティブ（出版社）
その他	パソコン持参 連絡先：h1rota@edogawa-u.ac.jp
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	ソフトウェア企業に入社し、10余年にわたり卸・流通業向けのシステム開発 <実務経験のある教員等>
学生を主体とする教育方法の実践	実習、フィールドワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	メディアコミュニケーション学部(2)/メディアコミュニケーション学部(4)/メディアコミュニケーション学部(6)/メディアコミュニケーション学部(7)/情報文化学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	廣田 有里(D-1004)		履修開始年次	カリキュラムにより異なり ます。	単位※1	2単位
年度	2022年度	科目名	e-コマースシステム/e-コマースシステムI			
学期※2	2022年度後期		学校区分	大学		
科目群	情2群		区分(授業形態)	通間授業		
副題	eコマース入門					
授業の概要	eコマースとは、商品に関する情報の提供から、受注・納品にいたるビジネスプロセスを電子化して行う商取引のことである。eコマースの市場規模は、急速に拡大してきており、これには、インターネット人口の増加と共に、さまざまな技術的な進歩が貢献している。本講義では、前半はeコマースの基本から、ユーザビリティ、コンテンツ・デザインなどのサイトを構築するための知識、インターネットマーケティングの基本的な技術を学び、後半はグループワークで店舗の企画を行い、企画内容のプレゼンテーションを行うことにより、eコマースサイトを企画・運営する力を身につけることを目的とする。 この講義をオンラインで実施する場合は、エドクラテスで資料配布と課題提出を行い、GoogleMeetで講義を実施する。					
到達目標	この科目は、メディアコミュニケーション学部の「教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている。」及び「コンピュータや情報環境を様々な活動に活用することができる。」というディプロマ・ポリシーに関連し、以下の4項目を身につけることができる。 (1) eコマースの基本的なしくみ、発展の歴史、関連する法律を理解する。 (2) eコマースを支えるマーケティングの基本を理解する。 (3) eコマース形態の1つであるネットショップの企画・制作・運営の手順を理解するコンセプトを作成できるようになる。 (4) 考えたコンセプトやサイトの特徴を、プレゼンを行い相手に伝えることができる。					

授業内容及び準備学習(予習・復習)の内容

第1回	オリエンテーション、eコマースとは 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる(100分) 復習：授業で提示されたサイトを例にして、自分が普段利用するeコマースについて特徴をまとめる(100分)
第2回	eコマースのビジネス環境 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる(100分) 復習：授業で提示されたビジネスモデルを例にして、類似するサイトを調査して特徴をまとめる(100分)
第3回	ネットショップの出店形態と特徴 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる(100分) 復習：授業で提示された出店形態のうち特にASPサービスについて、いくつかのサービスを調査して特徴をまとめる(100分)
第4回	電子決済とセキュリティ、法律について 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる(100分) 復習：電子決済の方法について、身近な方法を調査して特徴をまとめる(100分)
第5回	ユーザビリティとデザイン 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる(100分) 復習：授業で提示されたユーザビリティチェック項目をもとに、よく使用するサイトを調査してチェックの結果を検討しまとめる(100分)
第6回	ネットショップに必要なコンテンツ 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる(100分) 復習：授業で提示された企業を例にして、ブランディングに成功した企業を調査して戦略をまとめる(100分)
第7回	ネットショップの制作と管理 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる(100分) 復習：授業で提示されたマーケティングを例にして、実際にGoogleアナリティクスを使用して調査し結果をまとめる(100分)
第8回	ネットショップのプロモーション 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる(100分) 復習：授業で提示されたプロモーションを例にして、サービスを提供するサイトを1つ取り上げて調査して特徴をまとめる(100分)
第9回	ネットショップの企画-商材の選択・競合調査 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる(100分) 復習：授業で提示された調査方法を例にして、類似する商品を販売するサイトを調査して特徴をまとめる(100分)
第10回	ネットショップの企画-サイトコンセプト 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる(100分) 復習：授業で提示されたサイトコンセプトを例にして、自分たちのサイトのコンセプトをまとめる(100分)
第11回	ネットショップの企画-プレゼンテーション 予習：商材の選択・競合調査の結果・サイトコンセプトの決定をまとめてプレゼンテーションの準備をする(100分) 復習：自分たちのサイトコンセプトについての評価を受け、ネットショップの企画を修正完成させる(100分)

第12回	ネットショップの制作-サイトのデザインの構築 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：授業で提示されたサイト構築方法で、サイトのデザインを構築する（100分）
第13回	ネットショップの制作-画像の加工と商材の登録 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：授業で提示された画像の書き方と商材の登録方法で、サイトの画像と商品の登録を行う（100分）
第14回	ネットショップの運用 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：授業で提示されたサイトの運用モデルを例にして、自分たちのサイトの運用モデルを作成しまとめる（100分）

成績評価方法・基準	実習の課題提出（50%）（1～5回目の課題→到達目標（1）、6～8回目→到達目標（2）、9～13回目→到達目標（3）、11回目のプレゼンテーション→到達目標（4）を授業内で確認） 筆記試験（40%）（到達目標の（1）（2）を筆記試験で確認） 平常点（10%）（課題への取り組みとグループワークでの発言）
-----------	---

参考書	改訂版ネットショップ検定公式テキスト ネットショップ実務士レベル1対応 一般財団法人ネットショップ能力認定機構（著）日本能率協会マネジメントセンター（出版） ネットマーケティング検定公式テキストインターネットマーケティング基礎編 藤井裕之（著）インプレス（出版）
その他	パソコンを持参すること 連絡先：hirota@edogawa-u.ac.jp
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	ソフトウェア企業に入社し、10余年にわたり卸・流通業向けのシステム開発 <実務経験のある教員等>
学生を主体とする教育方法の実践	グループワーク/プレゼンテーション
ディプロマ・ポリシーとの関連性	メディアコミュニケーション学部(2)/メディアコミュニケーション学部(4)/メディアコミュニケーション学部(6)/メディアコミュニケーション学部(7)/情報文化学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	廣田 有里(D-1004)		履修開始年次	3年	単位※1	2単位
年度	2022年度	科目名	Webサービス開発/情報文化特講III			
学期※2	2022年度前期		学校区分	大学		
科目群	情2群		区分(授業形態)	通間授業		
副題	PythonによるWebサービス開発					
授業の概要	Webサービスとは、ユーザがWebブラウザを通して利用できるサービスを提供する仕組みである。Pythonは汎用性が高く、機械学習やIoTなどの標準言語としても利用され注目の言語である。 本講義では、Pythonのフレームワークの1つである「Django (ジャンゴ)」を使用することにより、様々な機能を持つWebサービスの構築方法を学ぶことができる。 この講義をオンラインで実施する場合は、エドクラテスで資料配布と課題提出を行い、GoogleMeetで講義を実施する。					
到達目標	この科目は、メディアコミュニケーション学部の「教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている。」及び「コンピュータや情報環境を様々な活動に活用することができる。」というディプロマ・ポリシーに関連し、Webサービスの開発を通じて以下の3点を習得することを目的とする。 (1) Webサービスとは何かを理解する。 (2) 基本的なWebサービス開発方法を習得する。 (3) Python APIを活用する応用力を身につける。					

授業内容及び準備学習(予習・復習)の内容

第1回	オリエンテーション、Webサービスとは 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる(100分) 復習：Webサービスの種類と使用する言語を調べ、Webサービスとは何かを説明することができるようにノートにまとめる(100分)
第2回	Djangoの概要、開発環境の作成 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、作業手順を整理してノートにまとめる(100分) 復習：PythonとDjangoをインストールし、開発環境の準備を完了する(100分)
第3回	Djangoの基本機能の理解 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、作業手順を整理してノートにまとめる(100分) 復習：Djangoでよく使うコマンドの使い方と機能をまとめ、すぐに使えるように整理しておく(100分)
第4回	Djangoによるログアプリケーションの作成-プロジェクトの作成- 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、作業手順を整理してノートにまとめる(100分) 復習：Djangoでのプロジェクトの作成方法とファイル構成を理解し、プロジェクトを作成することができるようにする(100分)
第5回	Djangoによるログアプリケーションの作成-データベースの設定- 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、作業手順を整理してノートにまとめる(100分) 復習：Djangoでデータベースの設定方法を理解し、プロジェクトにデータベースの設定を行うことができるようにする(100分)
第6回	Djangoによるログアプリケーションの作成-一覧画面の作成- 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、作業手順を整理してノートにまとめる(100分) 復習：Djangoでの一覧画面の作成方法を理解し、簡単な一覧画面の作成を行うことができるようにする(100分)
第7回	Djangoによるログアプリケーションの作成-詳細画面の作成- 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、作業手順を整理してノートにまとめる(100分) 復習：Djangoでの詳細画面の作成方法を理解し、簡単な詳細画面の作成を行うことができるようにする(100分)
第8回	Djangoによるログアプリケーションの作成-更新画面の作成- 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、作業手順を整理してノートにまとめる(100分) 復習：Djangoでのデータの更新・削除の方法を理解し、簡単な更新画面の作成を行うことができるようにする(100分)
第9回	Djangoによるログアプリケーションの作成-リンクの設定- 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、作業手順を整理してノートにまとめる(100分) 復習：再利用可能なアプリケーションの考え方を理解し、Djangoでの再利用可能なアプリケーションの作成ができるようにする(100分)
第10回	DjangoによるWebアプリケーションの作成-オリジナルモデルの設計- 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる(100分) 復習：前回作成したアプリをもとに、典型的なWebアプリケーションのパターンを理解し、リリースされているアプリケーションの構造を調査する(100分)
第11回	DjangoによるWebアプリケーションの作成-オリジナルモデルのデータベース設定- 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる(100分) 復習：前回作成したアプリをもとに、オリジナルアプリを作成するためのデータベース設計を行うことができるようみる(100分)
第12回	DjangoによるWebアプリケーションの作成-オリジナルモデルの一覧画面の作成-

	<p>予習：自分の作りたいWebアプリのデータベース設計を考えてまとめておく（100分）</p> <p>復習：前回作成したアプリをもとに、オリジナルアプリを作成するための一覧画面の作成を行うことができる（100分）</p>
第13回	<p>DjangoによるWebアプリケーションの作成－オリジナルモデルの詳細画面の作成－</p> <p>予習：自分の作りたいWebアプリのデータベース設計を考えてまとめておく（100分）</p> <p>復習：前回作成したアプリをもとに、オリジナルアプリを作成するための詳細画面の作成を行うことができる（100分）</p>
第14回	<p>制作したアプリケーションの発表</p> <p>予習：自分の作りたいWebアプリの画面設計からフォームを考えてまとめておく（100分）</p> <p>復習：前回作成したアプリをもとに、オリジナルアプリを作成するためのフォームの作成を行い、オリジナルのWebサービスを動作させることができる（100分）</p>

成績評価方法・基準	<p>実習の課題提出（60%）（1回目→到達目標（1）、2回目→到達目標（2）3～14回目→到達目標（2）（3）を授業内で確認）</p> <p>最終課題（30%）（到達目標（3）を確認）</p> <p>平常点（10%）（課題への取り組みと授業での発言）</p>
-----------	--

参考書	<p>現場で使える 基礎 Django akiyoko（著） 技術書典</p> <p>Djangoドキュメント（https://docs.djangoproject.com/ja/3.0/）</p> <p>Python3 + Django2.0入門 - Pythonで作るWebアプリケーション開発入門1～3 ナカノヒトシ（著） Amazon Services International, Inc.（販売元）</p> <p>Djangoのツボとコツがゼッタイにわかる本 大橋亮太（著） 秀和システム</p>
その他	<p>パソコン持参</p> <p>連絡先：hirota@edogawa-u.ac.jp</p>
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	<p>ソフトウェア企業に入社し、10余年にわたり卸・流通業向けのシステム開発</p> <p><実務経験のある教員等></p>
学生を主体とする教育方法の実践	実習、フィールドワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	メディアコミュニケーション学部(2)/メディアコミュニケーション学部(4)/メディアコミュニケーション学部(6)/メディアコミュニケーション学部(7)/情報文化学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	八木 徹 (D-0103) 、渡邊寿雄(H-0052)		履修開始年次	2年	単位※1	2単位
年度	2022年度	科目名	プログラミングI			
学期※2	2022年度前期		学校区分	大学		
科目群	情2群		区分(授業形態)	週間授業		
副題	Pythonによるプログラミングの学習					
授業の概要	<p>近年広く利用されているプログラム言語であるPythonを用い、『プログラミング基礎』での学習をふまえ、Pythonプログラミングを本格的に学ぶ。『プログラミング基礎』を履修済みであるか、同等の知識と経験を有することを前提とする。プログラムの制御構造、データ構造の基本から、Pythonにおける様々なパッケージを活用する方法まで学ぶ。毎回示されたサンプルに基づく小課題のプログラムを作りながら学習を進めていく。</p> <p>この科目では、資料の配布にはGoogle Classroomを利用し、オンライン授業実施時にはGoogle Meetを利用する。初回授業で2クラスのクラス分けを行うため1回目から必ず出席すること。また、担当者の八木は対面授業、渡邊はオンライン授業を実施する。スケジュールは各回を参照すること。</p>					
到達目標	<p>この科目は、メディアコミュニケーション学部の「教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている。」及び「コンピュータや情報環境を様々な活動に活用することができる。」というディプロマ・ポリシーに関連し、プログラミングの知識及びソフトウェア開発の基礎知識の習得を目指す。具体的には、Pythonの文法の基礎知識を身につけ、プログラムを作成・実行することができ、また、問題解決のための適切な処理順序を考えることができるようになる。</p>					

授業内容及び準備学習(予習・復習)の内容

第1回	<p>ガイダンス：プログラミング学習の方法、クラス分け、プログラム開発環境の確認 担当 クラス1/クラス2：共通 予習：Pythonの基本プログラミング環境がインストール済みであることを確認すること。「プログラミング基礎」の授業(相当の内容)を復習しておくこと。(100分) 復習：Pythonプログラムの開発環境の使い方を理解し、プログラム作成に利用できるようにすること。(100分)</p>
第2回	<p>Pythonの基礎(1)：様々な制御構造 担当 クラス1：八木 クラス2：渡邊 予習：Classroomの資料を見て、Pythonにおける条件式の書き方、条件分岐if、反復for、whileの方法について調べておくこと。(100分) 復習：授業で指定される課題に取り組む。Pythonの制御構造の文法を理解する(100分)</p>
第3回	<p>Pythonの基礎(2)：様々なデータ構造 担当 クラス1：八木 クラス2：渡邊 予習：Classroomの資料を見て、Pythonにおけるリスト、タプル、辞書について調べておくこと(100分) 復習：授業で指定される課題に取り組む。Pythonの様々なデータ構造を理解する(100分)</p>
第4回	<p>CUIによる対話的なプログラム 担当 クラス1：八木 クラス2：渡邊 予習：Classroomに指定される課題を事前に見て、不明な点を調べておくこと(100分) 復習：授業で指定される課題に取り組む。CUIでの対話的なプログラム作成を理解する(100分)</p>
第5回	<p>課題作成(1)：CUIアプリケーション 担当 クラス1：八木 クラス2：渡邊 予習：Classroomに指定される課題を事前に見て、不明な点を調べておくこと(100分) 復習：授業で指定される課題に取り組む。ある程度長いプログラムの構造を把握する(100分)</p>
第6回	<p>Pythonにおける関数の利用 担当 クラス1：八木 クラス2：渡邊 予習：Classroomの資料を見て、Pythonの関数について調べておくこと(100分) 復習：授業で指定される課題に取り組む。Pythonでの関数定義を理解する(100分)</p>
第7回	<p>tkinterを用いたプログラム(GUIの基礎) 担当 クラス1：八木 クラス2：渡邊</p>

	<p>予習：Classroomの資料を見て、tkinterの基礎的な利用方法を調べておくこと（100分） 復習：授業で指定される課題に取り組む。tkinterを利用したGUIプログラム作成を理解する(100分)</p>
第8回	<p>tkinterを用いたプログラム（イベント処理） 担当 クラス1：渡邊 クラス2：八木 予習：Classroomの資料を見て、tkinterのイベント処理を調べておくこと（100分） 復習：授業で指定される課題に取り組む。tkinterを利用したGUIプログラム作成を理解する(100分)</p>
第9回	<p>課題制作(2)：GUIでの迷路ゲーム作成 担当 クラス1：渡邊 クラス2：八木 予習：Classroomの資料を見て、作成するプログラムを予め調べておくこと（100分） 復習：授業で指定される課題に取り組む。(100分)</p>
第10回	<p>オブジェクトとクラス 担当 クラス1：渡邊 クラス2：八木 予習：Classroomの資料、及び教科書第8章を見て、オブジェクトとクラスについて事前に調べておくこと（100分） 復習：授業で指定される課題に取り組む。オブジェクトとクラスの作成、利用方法を知る。(100分)</p>
第11回	<p>モジュールとパッケージ 担当 クラス1：渡邊 クラス2：八木 予習：Classroomの資料、及び教科書第9章を見て、モジュールとパッケージについて事前に調べておくこと（100分） 復習：授業で指定される課題に取り組む。モジュールとパッケージの作成方法を理解する(100分)</p>
第12回	<p>様々なパッケージと画像処理 担当 クラス1：渡邊 クラス2：八木 予習：Classroomの資料を見て、Pythonに標準で含まれるパッケージとPILライブラリについて調べる（100分） 復習：授業で指定される課題に取り組む。Pythonの標準パッケージとPILライブラリの利用方法を知る(100分)</p>
第13回	<p>PILを用いた画像処理 担当 クラス1：渡邊 クラス2：八木 予習：Classroomの資料を見て、PILを用いた画像処理方法の手順を調べておく（100分） 復習：授業で指定される課題に取り組む。PILでの画像加工方法を知る(100分)</p>
第14回	<p>課題作成(3)：総合的な課題に取り組む。画像処理を行うGUIアプリケーションを作成する 担当 クラス1/クラス2：共通 予習：Classroomの資料を見て、作成する課題の構成要素を調べておく（100分） 復習：授業で指定される課題に取り組む。(100分)</p>

成績評価方法・基準	<p>学習意欲（課題提出により評価する）(25%)、プログラム練習課題（プログラムをエラー無く作成実行できること、プログラムの個々の文法についての理解を、対応する個別の練習課題により評価する）(45%)、学習したプログラミング知識の総合力を問うための最終プログラム課題により全体の理解を評価する（30%）。</p> <p>この授業では、オンラインとオフラインで同じ評価基準を用いる。</p>
-----------	---

書名	著者	出版社	ISBN	備考
ゼロからわかるPython超入門	佐藤美登利	技術評論社	9784774198309	他の授業で購入している場合はその本を継続して利用するため、別途購入する必要はない
参考書	「Pythonチュートリアル」, https://docs.python.org/ja/3/tutorial/ 松浦健一郎/岡ゆき, Python[完全]入門, SB Creative			
その他	科目についての質問は、履修登録前は八木 (yagi@edogawa-u.ac.jp) まで。 履修登録後は、Google Classroomの質問用窓口を利用してください。			
参考URL				

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	科目担当者の八木は、(株)富士総合研究所、(株)ベストシステムズへの勤務や、独立行政法人科学技術振興機構技術員として、各種システムの構築やシミュレータの開発を行う。 <実務経験のある教員等>
学生を主体とする教育方法の実践	実習、フィールドワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	メディアコミュニケーション学部(2)/メディアコミュニケーション学部(4)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	八木 徹 (D-0103)		履修開始年次	1年	単位※1	2単位
年度	2022年度	科目名	情報処理概論/情報処理論			
学期※2	2022年度前期		学校区分	大学		
科目群	情2群		区分(授業形態)	週間授業		
副題	コンピュータの仕組みや情報処理の基礎を理解する					
授業の概要	情報社会において必要となるコンピュータや情報処理の知識について、基礎的な事項を学習する。情報の表現方法やコンピュータのハードウェアの仕組み、ソフトウェアの役割について理解し、様々な情報システムの構成要素やネットワークの基礎について学ぶ。授業の資料配布、小テストなどにはGoogle Classroomを用いる。毎回の授業で資料を確認すること。					
到達目標	この科目は、メディアコミュニケーション学部の「教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている。」というディプロマ・ポリシーに関連し、コンピュータおよびソフトウェアの基礎知識を修得し、動作原理の基礎を理解する。そのため、具体的には、以下の点を到達目標とする ①情報処理技術の基礎的な考えを説明できる ②コンピュータの仕組み、問題の解き方、情報の表現方法を理解する ③2進数の計算、基数変換ができる ④コンピュータにおけるソフトウェア・OSの基本的役割を理解する ⑤情報システムの構成要素、ネットワーク、セキュリティの基礎について理解する					

授業内容及び準備学習(予習・復習)の内容

第1回	オリエンテーション(情報処理の概説と学習の進め方) 予習:教科書第1章 1.1 を読み、不明な言葉を調べておく(100分) 復習:Classroomで指定する練習問題を実施する。(100分)
第2回	コンピュータとその利用(情報システム) 予習:教科書第1章 1.2 1.3 を読み、不明な言葉を調べておく(100分) 復習:Classroomで指定する練習問題を実施する。身近な情報システムの例を示すことができる(100分)
第3回	コンピュータの誕生と情報社会 予習:教科書第3章を読み、不明な言葉を調べておく(100分) 復習:Classroomで指定する練習問題を実施する。コンピュータ発展の経緯を説明できる(100分)
第4回	情報の表現(2進数と基数変換) 予習:教科書第4章4.1, 4.2を読み、不明な言葉を調べておく(100分) 復習:Classroomで指定する練習問題を実施する。2進数と基数変換について説明できる(100分)
第5回	情報の表現(情報のコード化・文字コード) 予習:教科書第4章4.4を読み、不明な言葉を調べておく(100分) 復習:Classroomで指定する練習問題を実施する。文字コードについて説明できる(100分)
第6回	情報の表現(画像・音声データのコード化) 予習:教科書第4章4.5, 4.6を読み、不明な言葉を調べておく(100分) 復習:Classroomで指定する練習問題を実施する。画像と音声データのコード化について説明できる(100分)
第7回	ハードウェアの仕組み(コンピュータの構成要素とCPUの動作) 予習:教科書第5章5.1を読み、不明な言葉を調べておく(100分) 復習:Classroomで指定する練習問題を実施する。5大装置とその役割について説明できる(100分)
第8回	ハードウェアの仕組み(機械命令とCPUの動作) 予習:エドクラテスで指定する資料を読み不明な言葉を調べておく(100分) 復習:エドクラテスの練習問題を実施する。CPUの動作サイクルを理解する(100分)
第9回	ハードウェアの仕組み(記憶の仕組みとハードウェアの全体構成) 予習:教科書第5章5.2を読み、不明な言葉を調べておく(100分) 復習:Classroomで指定する練習問題を実施する。記憶の仕組みとハードウェアの構成について説明できる(100分)
第10回	ソフトウェアの役割(基本ソフトウェアOSの役割とファイルシステム) 予習:教科書第6章6.1, 6.2, 6.5を読み、不明な言葉を調べておく(100分) 復習:Classroomで指定する練習問題を実施する。OSの役割とファイルについて説明できる(100分)
第11回	ソフトウェアの役割(プログラムとアルゴリズム、データ構造) 予習:教科書第6章6.4を読み、不明な言葉を調べておく(100分) 復習:Classroomで指定する練習問題を実施する。プログラム処理の基本を説明できる(100分)
第12回	ネットワークと情報システム(教科書第7章) 予習:教科書第7章 7.1 を読み、不明な言葉を調べておく(100分) 復習:Classroomで指定する練習問題を実施する。ネットワークの基本を説明できる(100分)

第13回	情報システムの構築と維持（教科書第8章） 予習：教科書第8章を読み、不明な言葉を調べておく（100分） 復習：Classroomで指定する練習問題を実施する。情報システムの構築・維持方法を理解する（100分）
第14回	情報倫理と情報セキュリティ（教科書第9章） 予習：教科書第9章を読み、不明な言葉を調べておく（100分） 復習：Classroomで指定する練習問題を実施する。情報セキュリティの基礎について理解する（100分）

成績評価方法・基準	授業中に学ぶ情報処理の知識全般を含み、到達目標の②から③の理解度を問うテスト50%、個々の技術要素の個別理解を問う小テスト20%、到達目標の①を問う毎回の課題10%、毎回の授業内容の復習課題の取り組みによる学習意欲10%を合計して評価する。 オンライン・オフラインで評価基準は同じとする。
-----------	---

書名	著者	出版社	ISBN	備考
コンピュータ概論—情報システム入門—第8版	魚田 勝巨編著・遅美 幸雄・ 榎竹 朋文・大曾根 匡・森本 祥一・綿貫 理明著	共立出版	978-4-320-12453-0	
参考書	「痛快！コンピュータ学」坂村 健、集英社 「コンピュータの仕組みを理解するための10章」馬場 敬信、技術評論社			
その他	普段からパソコンを積極的に利用し、操作になれておくこと。 情報処理基礎を合わせて履修すること。 科目についての質問や問い合わせは、八木 (yagi@edogawa-u.ac.jp) まで。 履修登録後の、授業についての質問は、Google Classroom内の質問窓口を利用してください。			
参考URL				

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	株)富士総合研究所、株)ベストシステムズへの勤務や、独立行政法人科学技術振興機構技術員として、各種システムの構築やシミュレータの開発を行う。 <実務経験のある教員等>
学生を主体とする教育方法の実践	該当なし
ディプロマ・ポリシーとの関連性	メディアコミュニケーション学部(2)/情報文化学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	八木 徹 (D-0103)、山口 敏和(T-0603)		履修開始年次	1年	単位※1	2単位
年度	2022年度	科目名	ロジカルシンキング			
学期※2	2022年度後期		学校区分	大学		
科目群	情2群		区分(授業形態)	週間授業		
副題	物の仕組みや問題解決のための考え方					
授業の概要	パズルを題材にして論理的に考える力や数学基礎の考え方トレーニングする。身近にあるシステムの動作原理について考察する。フローチャートによるアルゴリズムの記述法を知り、今後のプログラミング、アルゴリズムの学習を行う基礎とする。さらに、簡易的なプログラムを作成し、実際に問題を解くことで適切にアルゴリズムを記述する力を養う。 第7回、第8回の「プログラム制作実習」は、対面での実習形式を想定し、日程を調整して集中的な実施を予定している。 この授業では資料の提示などにGoogle Classroomを用いる					
到達目標	この科目は、メディアコミュニケーション学部のディプロマポリシーのうち「知識と体験を基に、批判的かつ洞察的に思考し判断することができる」及び「新しい時代を豊かに生きぬくため、溢れる情報を正確に判断・選別しうる能力と、的確に伝える能力を修得している」と、情報文化学科のディプロマポリシーのうち「進化するメディア環境の中で、溢れる情報を「正確に捉え、的確に伝える」ことができる」に関連し、問題解決のための論理的な考え方ができるようになることと、簡単なアルゴリズムを適切に記述できるようになることを目指す。					

授業内容及び準備学習(予習・復習)の内容

第1回	オリエンテーション(授業の進め方): 論理的に考察する問題に取り組み、授業全体の受講方法を確認する(山口・八木) 予習: 論理的な思考法とはどのようなものか自分なりに調べまとめる。(100分) 復習: 授業で出される課題に取り組み。(100分)
第2回	全数探索: 全ての可能性をしらみつぶしに調べる方法について考察する(八木) 予習: Classroomに出される資料を事前に読み、不明な点を調べる。(100分) 復習: 授業で出される課題に取り組み。(100分)
第3回	深さ優先探索: 探索法として深さ優先探索について考察する(八木) 予習: Classroomに出される資料を事前に読み、不明な点を調べる。(100分) 復習: 授業で出される課題に取り組み。(100分)
第4回	幅優先探索: 探索法として幅優先探索について考察する(八木) 予習: Classroomに出される資料を事前に読み、不明な点を調べる。(100分) 復習: 授業で出される課題に取り組み。(100分)
第5回	アルゴリズムの記述法: フローチャートの表記法を学び、アルゴリズムの記述を行う。(八木) 予習: Classroomに出される資料を事前に読み、不明な点を調べる。(100分) 復習: 授業で出される課題に取り組み。(100分)
第6回	プログラミングによる問題の解決: 具体的な問題を解くためのプログラム設計をする(山口・八木) 予習: Classroomに出される資料を事前に読み、不明な点を調べる。(100分) 復習: 授業で出される課題に取り組み。(100分)
第7回	プログラム制作実習(1): 具体的な問題を解くためのプログラムを作成する(土曜日など日程を調整し集中実施予定)(山口・八木) 予習: Classroomに出される資料を事前に読み、不明な点を調べる。(100分) 復習: 授業で出される課題に取り組み。(100分)
第8回	プログラム制作実習(2): 作成したプログラムの動作、改良、調評をおこなう(土曜日など日程を調整し集中実施予定)(山口・八木) 予習: Classroomに出される資料を事前に読み、不明な点を調べる。(100分) 復習: 授業で出される課題に取り組み。(100分)
第9回	様々なシステムの仕組みと数学基礎: 身近にある様々なシステムの動作原理を考察する(山口) 予習: Classroomに出される資料を事前に読み、不明な点を調べる。(100分) 復習: 授業で出される課題に取り組み。(100分)
第10回	分割統治法: 問題を小さな部分に分けて考察する方法の一つについて学ぶ(八木) 予習: Classroomに出される資料を事前に読み、不明な点を調べる。(100分) 復習: 授業で出される課題に取り組み。(100分)
第11回	再帰: 問題を小さな部分に分けて考察する方法の一つについて学ぶ(八木) 予習: Classroomに出される資料を事前に読み、不明な点を調べる。(100分) 復習: 授業で出される課題に取り組み。(100分)
第12回	貪欲法: 常に最大の効果がえられる選択を続けていく方法について学ぶ(八木) 予習: Classroomに出される資料を事前に読み、不明な点を調べる。(100分) 復習: 授業で出される課題に取り組み。(100分)

第13回	グラフの利用：グラフを用いた考え方について学ぶ（八木） 予習：Classroomに出される資料を事前に読み、不明な点を調べる。(100分) 復習：授業で出される課題に取り組む。(100分)
第14回	まとめ：総合的な最終課題に取り組む（山口・八木） 予習：Classroomに出される資料を事前に読み、不明な点を調べる。(100分) 復習：授業で出される課題に取り組む。(100分)
成績評価方法・基準	個別の問題解決方法に関する考え方が理解できているかを問う毎回の授業で出される課題（45%）、問題解決のための論理的な考え方と、簡単なアルゴリズムが適切に記述できるかを問う最終課題（40%）、平常点(15%)を合計して評価する。 この授業では、対面での実習回をオンライン実施した場合は、追加課題を行うこととする。それ以外の評価基準はオンラインとオフラインで同等とする。
参考書	アルゴリズムパズルプログラマのための数学パズル入門, Anany Levitin, Maria Levitin 著, 黒川 洋, 松崎 公紀 訳, オライリー・ジャパン 問題解決のPythonプログラミング, Srini Devadas 著, 黒川 利明 訳, オライリー・ジャパン Python計算機科学新教本, David Kopec 著, 黒川 利明 訳, オライリー・ジャパン
その他	科目についての問い合わせは八木 (yagi@edogawa-u.ac.jp) まで。
参考URL	
実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	科目担当者の八木は、(株)富士総合研究所、(株)ベストシステムズへの勤務や、独立行政法人科学技術振興機構技術員として、各種システムの構築やシミュレータの開発を行う。 <実務経験のある教員等>
学生を主体とする教育方法の実践	ディスカッション、ディベート/グループワーク/実習、フィールドワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	メディアコミュニケーション学部(1)/メディアコミュニケーション学部(6)/情報文化学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	我妻 美左子(T-0305)		履修開始年次	3年	単位※1	2単位
年度	2022年度	科目名	子ども家庭支援論/家庭支援論			
学期※2	2022年度前期		学校区分	大学		
科目群	こ2群		区分(授業形態)	週間授業		
副題	保育士が担う子育て家庭支援					
授業の概要	家庭養育の方向性が示される中、家庭で暮らすすべての子どもが第一養育者となる保護者によって適切に養育されるよう、子どもの最善の利益の視点から、子育て家庭支援の体制を整えることが求められている。そこで、この科目では、子どもの最善の利益の視点から、子育て家庭のニーズを軽減するための子育て支援の体制を理解し、子育て支援の中核として保育士が担う役割について説明できることを目的とする。適宜、ディスカッションを取り入れる。 この科目では、対面授業を基本とするが、状況に応じオンライン授業を実施する。その場合の資料配布や映像の配信については、Google Classroom及びGoogle Meetを使用する。					
到達目標	この科目は、「子どもの成長過程を見据え健全な成長を導くために、必要な知識を身につけている」「溢れる情報を『正確にとらえ、的確に伝える』コミュニケーション能力を備え、子ども、家庭、学校、地域社会、職域その他の社会的関係性を踏まえ、相互に協力しつつ地域の子ども・子育て支援に貢献し続けることの大切さを理解している」という、こどもコミュニケーション学科のディプロマポリシーに関連し、次の4点を到達目標としている。 1. 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解し説明することができる。 2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の基本について説明することができる。 3. 子育て家庭に対する支援の体制について理解し説明することができる。 4. 子育て家庭のニーズに応じ多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について討議することができる。					

授業内容及び準備学習(予習・復習)の内容

第1回	ガイダンス 授業の目標、進め方、評価方法 子ども家庭支援の意義と役割① 子ども家庭支援の意義と必要性(1章)、子ども家庭支援の目的と機能(2章) 予習: シラバスを見て授業の概要をつかむ(100分) 復習: 子ども家庭支援の必要性と目的について考えをまとめる(100分)
第2回	子ども家庭支援の意義と役割② 保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義(3章) 予習: 教科書を読み、保育の専門性について調べる(100分) 復習: 子ども家庭支援における保育の専門性の要点をノートにまとめる(100分)
第3回	保育士による子ども家庭支援の意義と基本① 子どもの育ちの喜びの共有(4章) 予習: 教科書を読み、子どもの育ちの喜び共有について調べる(100分) 復習: 子どもの育ちの喜びの共有について説明できるよう授業内容をノートにまとめる(100分)
第4回	保育士による子ども家庭支援の意義と基本② 保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援(5章) 予習: 教科書を読み、保護者及び地域の子育てをする力の向上に資する支援について調べる(100分) 復習: 関連科目の教科書等を参照し、不明な語句を調べながら授業内容をノートにまとめる(100分)
第5回	保育士による子ども家庭支援の意義と基本③ 保育士に求められる基本的態度(受容的関わり・自己決定の尊重・秘密保持)(6章) 予習: 教科書を読み、保育士に求められる基本的態度について調べる(100分) 復習: 関連科目の教科書等を参照し、不明な語句を調べながら授業内容をノートにまとめる(100分)
第6回	保育士による子ども家庭支援の意義と基本④ 家庭の状況に応じた支援(7章) 予習: 教科書を読み、家庭の状況に応じた支援について調べる(100分) 復習: 家庭の状況に応じた支援について説明できるよう考えをまとめる(100分)
第7回	保育士による子ども家庭支援の意義と基本⑤ 地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力(8章) 予習: 教科書を読み、地域の資源の活用・連携・協力について調べる(100分) 復習: 関連科目の教科書等を参照し、不明な語句を調べながら授業内容をノートにまとめる(100分)
第8回	保育士による子ども家庭支援の意義と基本⑥ 子ども家庭の福祉を図るための社会資源(9章) 予習: 教科書を読み、子ども家庭の福祉を図るための社会資源について調べる(100分) 復習: 居住自治体の資源について調べる(100分)
第9回	子育て家庭に対する支援の体制① 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進(10章) 予習: 教科書を読み、子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進について調べる(100分) 復習: 関連科目の教科書等を参照し、不明な語句を調べながら授業内容をノートにまとめる(100分)
第10回	子育て家庭に対する支援の体制② 子ども家庭支援の内容と対象(11章) 予習: 教科書を読み、子ども家庭支援の内容と対象について調べる(100分) 復習: 子ども家庭支援の対象と内容について説明できるようノートにまとめる(100分)
第11回	多様な支援の展開と関係機関との連携① 保育所等を利用する子どもの家庭への支援(12講) 予習: 教科書を読み、保育所等を利用する子どもの家庭の状況について調べる(100分) 復習: 保育所等を利用する子どもの家庭への具体的支援について説明できるよう授業内容をノートにまとめる(100分)

第12回	多様な支援の展開と関係機関との連携② 地域の子育て家庭への支援 (13章) 予習：教科書を読み、地域の子育て家庭の状況について調べる (100分) 復習：地域の子育て家庭への具体的な支援について説明できるよう授業内容をノートにまとめる (100分)
第13回	多様な支援の展開と関係機関との連携③ 要保護児童及びその家庭に対する支援 (14章) 予習：教科書を読み、要保護児童及びその家庭に対する支援について調べる (100分) 復習：関連科目の教科書等を参照し、不明な語句を調べながら授業内容をノートにまとめる (100分)
第14回	多様な支援の展開と関係機関との連携⑤ 子ども家庭支援に関する現状と課題 (15章) 予習：子ども家庭支援の現状について調べる (100分) 復習：授業全体を総括し、レポートの要点をまとめる (100分)

成績評価方法・基準	<p>・対面時の評価方法 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の基本や支援体制についての理解を問う課題レポート60%、子育て家庭のニーズに応じた多様な子ども家庭支援の現状と課題についての考えをまとめる授業課題 (30%)、発言等の平常点(10%)を合計して評価する。授業課題は、適宜、返却し解説する。</p> <p>・オンライン授業での評価方法 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の基本や支援体制についての理解を問う課題レポート60%、子育て家庭のニーズに応じた多様な子ども家庭支援の現状と課題についての考えをまとめる授業課題 (40%)を合計して評価する。授業課題は、適宜、返却し解説する。</p>
-----------	---

書名	著者	出版社	ISBN	備考
『子ども家庭支援論』	守巧編著	萌文書林	9784893473788	2021年発行
参考書				
その他	連絡先 gaja@edogawa-u.ac.jp			
参考URL				

実務経験	あり (実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用)
実務経験詳細	母子生活支援施設等、社会的養育の場で20年余りにわたりソーシャルワーク実践に従事
学生を主体とする教育方法の実践	ディスカッション、ディベート
ディプロマ・ポリシーとの関連性	こどもコミュニケーション学科(1)/こどもコミュニケーション学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	我謝 美左子(T-0305)			履修開始年次	2年	単位数※1	2単位
年度	2022年度	科目名	子ども家庭福祉/児童家庭福祉				
学期※2	2022年度前期			学校区分	大学		
科目群	こ2群			区分(授業形態)	週間授業		
副題	子どもと家庭に対するサービス実施体系						
授業の概要	現代社会において、子どもの貧困や子ども虐待は、どの家庭にも陥りやすいというリスクを孕んでいる。そのため、子どもの養育の利益を保障する視点から、当事者である子どもにサービスが確実に届く妊娠期からの包括的なサービス体系が求められている。そこで、この科目では、要保護児童等を含むすべての子どもの生活を困難にする状況に対する支援の必要性を理解し、子ども家庭福祉制度に基づくサービスと実施体系について説明できることを目的とする。適宜、子ども家庭福祉問題を取り上げ、ディスカッションを取り入れる。この科目では、対面授業を基本とするが、状況に応じてオンライン授業を実施する。その場合の資料配布や映像配信については、Google Classroom及びGoogle Meetを使用する。						
到達目標	この科目は、「子どもの成長過程を見据え健全な成長を導くために、必要な知識を身につけている」「溢れる情報を『正確にとらえ、的確に伝える』コミュニケーション能力を備え、子ども、家庭、学校、地域社会、職域その他の社会的関係性を踏まえ、相互に協力しつつ地域の子どもの子育て支援に貢献し続けることの大切さを理解している」という、こどもコミュニケーション学科のディプロマポリシーに関連し、次の5点を到達目標としている。 1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について説明できる。 2. 子どもの人権擁護について討議できる。 3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系について説明できる。 4. 子ども家庭福祉の現状と課題について説明できる。 5. 子ども家庭福祉の動向と展望について説明できる。						

授業内容及び準備学習(予習・復習)の内容

第1回	ガイダンス 授業の目標、進め方、評価 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷① 現代社会と子ども家庭福祉(序章・1章・2章) 予習: シラバスを見て授業の概要をつかむ(100分) 復習: 授業内容をまとめ、子どもと家庭が直面する問題を書き出す(100分)
第2回	現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷② 子ども家庭福祉の歴史の変遷(4章) 予習: 教科書を読み、戦前の子ども家庭福祉について要点をまとめる(100分) 復習: 歴史上の人物と功績を説明できるようにノートにまとめる(100分)
第3回	子どもの人権擁護 子どもの人権擁護の歴史の変遷、児童の権利に関する条約、子どもの人権擁護と現代社会における課題、子ども家庭福祉の理念と概念(3章) 予習: 教科書を読み、子どもの権利条約について調べる(100分) 復習: 子どもの人権擁護の実現について説明できるよう授業内容をノートにまとめる(100分)
第4回	子ども家庭福祉の制度と実施体系① 子ども家庭福祉の制度と法体系(5章) 予習: 教科書を読み、法体系について調べる(100分) 復習: 法律に関連付けて子ども家庭福祉制度について説明できるよう授業内容をノートにまとめる(100分)
第5回	子ども家庭福祉の制度と実施体系② 子ども家庭福祉の実施体系、児童福祉施設、子ども家庭福祉の専門職(6章) 予習: 教科書を読み、児童福祉施設について調べる(100分) 復習: 児童福祉施設のうち実習種別施設について説明できるよう授業内容をノートにまとめる(100分)
第6回	子ども家庭福祉の現状と課題① 少子化と地域子育て支援(7章) 予習: 教科書を読み、少子化の流れを把握する(100分) 復習: 子ども・子育て支援新制度による保育施策について説明できるよう授業内容をノートにまとめる(100分)
第7回	子ども家庭福祉の現状と課題② 母子保健と子どもの健全育成、多様な保育ニーズへの対応(8章) 予習: 教科書を読み、母子保健と子どもの健全育成について調べる(100分) 復習: 居住地域の地域子ども・子育て支援事業について調べる(100分)
第8回	子ども家庭福祉の現状と課題③ 子ども虐待・DV(ドメスティックバイオレンス)とその防止(9章) 予習: 教科書を読み、子ども虐待とDVの現状について調べる(100分) 復習: 保育士の対応について説明できるよう授業内容をノートにまとめる(100分)
第9回	子ども家庭福祉の現状と課題④ 社会的養護(10章) 予習: 教科書を読み、社会的養護の意味と保育士が担う役割について調べる(100分) 復習: 実習種別施設の社会的養護の役割を説明できるよう授業内容をノートにまとめる(100分)
第10回	子ども家庭福祉の現状と課題⑤ 障害のある子どもへの対応(11章) 予習: 教科書を読み、障害のある子どもへの支援について調べる(100分) 復習: 障害のある子どもへの支援について説明できるよう授業内容をノートにまとめる(100分)
第11回	子ども家庭福祉の現状と課題⑥ 少年非行等への対応(12章)

	予習：教科書を読み、少年非行等の現状について調べる（100分） 復習：少年非行等の要因となる子どもの困難について考えをまとめる（100分）
第12回	子ども家庭福祉の現状と課題⑦ ひとり親家庭への対応（13章） 予習：教科書を読み、ひとり親家庭の現状について調べる（100分） 復習：授業内容をまとめ、ひとり親家庭への対応について考えをまとめる（100分）
第13回	子ども家庭福祉の現状と課題⑧ 貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応（13章） 予習：教科書を読み、支援を要する家庭の現状について調べる（100分） 復習：支援を要する家庭の子どもが困難について考えをまとめる（100分）
第14回	子ども家庭福祉の動向と展望 次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進、地域における連動・協働とネットワークの推進、諸外国の動向 予習：授業全体をふり返り、疑問点をノートに書きだす（100分） 復習：授業全体を総括し、レポートの要点をまとめる（100分）

成績評価方法・基準	<p>・対面時の評価方法 制度や実施体系に関わる仕組みや現状・課題への理解を問うレポート60%、子ども家庭福祉の意義や子どもの人権に関する考え方を問う授業課題30%、発言等平常点10%を合計し評価する。授業課題は適宜返却し解説を行う。</p> <p>・オンライン授業での評価方法 制度や実施体系に関わる仕組みや現状・課題への理解を問うレポート60%、子ども家庭福祉の意義や子どもの人権に関する考え方を問う授業課題40%を合計し評価をする。授業課題は適宜返却し解説を行う。</p>
-----------	---

書名	著者	出版社	ISBN	備考
『輝くこどもたち 子ども家庭福祉論』第2版	比嘉真人監修・石山直樹・岡本眞幸・田家英二編集	みらい	9784860155735	2022年発行
参考書				
その他	連絡先 gaja@edogawa-u.ac.jp			
参考URL				

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	母子生活支援施設等、社会的養育の場で20年余りにわたりソーシャルワーク実践に従事
学生を主体とする教育方法の実践	ディスカッション、ディベート
ディプロマ・ポリシーとの関連性	こどもコミュニケーション学科(1)/こどもコミュニケーション学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、過年科目となります。

教員名	我謝 美左子(T-0305)		履修開始年次	2年	単位※1	2単位
年度	2022年度	科目名	子育て支援			
学期※2	2022年度前期		学校区分	大学		
科目群	こ2群		区分(授業形態)	週間授業		
副題	子育て支援の内容とスキル					
授業の概要	地域で暮らす全ての子育て家庭を対象とする子育て支援には、要保護児童等(要支援児童・特定妊婦)も含まれることを視野に入れ、子どもの権利の実現を目指し、継続的に支援する必要があることを理解し、そのための方法を身につけていることを目的とする。適宜、グループワーク、デスカッション、ロールプレイなどを取り入れる。 この科目では、対面授業を基本とするが、状況に応じてオンライン授業を実施する。その場合の資料の配布や映像配信については、Google Classroom及びGoogle Meetを使用する。					
到達目標	この科目は、「子どもの成長過程を見据え健全な成長を導くために、必要な知識を身につけている」「溢れる情報を『正確にとらえ、的確に伝える』コミュニケーション能力を備え、子ども、家庭、学校、地域社会、職域その他の社会的関係性を踏まえ、相互に協力しつつ地域の子ども・子育て支援に貢献し続けることの大切さを理解している」という、こどもコミュニケーション学科のディプロマポリシーと関連させて次の2点を到達目標としている。 1. 保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供等の支援について、その特性と展開を具体的に説明することができる。 2. 保育士による子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例を通して具体的に討議することができる。					

授業内容及び準備学習(予習・復習)の内容

第1回	ガイダンス 授業の目標、進め方、評価方法 保育士の行う子育て支援の特性① 子どもの保育ともに行う保護者の支援(1-1) 予習: シラバスをみて授業の概要をつかむ(100分) 復習: 授業の内容をまとめ、保護者支援の要点を書き出す(100分)
第2回	保育士の行う子育て支援の特性② 日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成(1-2) (グループディスカッション) 予習: 教科書を読み、保護者との信頼関係の形成について調べる(100分) 復習: 保護者との信頼関係の形成について説明できるよう考えをまとめる(100分)
第3回	保育士の行う子育て支援の特性③ 保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解(1-3) (グループディスカッション) 予習: 教科書を読み、子どもと保護者のニーズについて調べる(100分) 復習: 子どもと保護者のニーズについて説明できるよう授業内容をノートにまとめる(100分)
第4回	保育士の行う子育て支援の特性④ 子ども・保護者が多様な他者と関わる機会や場の提供(1-4) (グループディスカッション) 予習: 教科書を読み、他者と関わる機会や場の提供について調べる(100分) (プレゼンテーション) 復習: 他者と関わる機会や場の提供の要点を説明できるようにまとめる(100分)
第5回	保育士の行う子育て支援の展開① 子ども及び保護者の状況・状態の把握(2-1) (グループディスカッション) 予習: 教科書を読み、状況・状態の把握について調べる(100分) 復習: 状況・状態の把握することの意味や方法の要点をまとめる(100分)
第6回	保育士の行う子育て支援の展開② 支援の計画と環境の構成(2-2) (グループディスカッション) 予習: 教科書を読み、支援の計画について調べる(100分) 復習: 支援の計画と環境の構成の要点をノートにまとめる(100分)
第7回	保育士の行う子育て支援の展開③ 支援の実践・記録・評価・カンファレンス(2-3) (グループディスカッション) 予習: 教科書を読み、実践・記録について調べる(100分) 復習: 実践・記録・評価・カンファレンスの要点を書き出す(100分)
第8回	保育士の行う子育て支援の展開④ 職員間の連携・協働(2-4) (グループディスカッション) 予習: 教科書を読み、連携・協働について調べる(100分) 復習: 職員間の連携・協働の意味と方法の要点をノートにまとめる(100分)
第9回	保育士の行う子育て支援の展開⑤ 社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働(2-5) (プレゼンテーション) 予習: 教科書を読み、社会資源の活用と連携について調べる(100分) 復習: 関係機関との連携・協働の意味と方法の要点をまとめる(100分)
第10回	保育士の行う子育て支援とその実際(内容・方法・技術)① 保育所等における支援(3-1)、地域の子育て家庭に対する支援(3-2) (グループディスカッション) 予習: 教科書を読み、保育所による子育て支援について調べる(100分) 復習: 保育所の具体的な子育てについて考えをノートにまとめる(100分)
第11回	保育士の行う子育て支援とその実際(内容・方法・技術)② 障害のある子ども及びその家庭に対する支援(3-3)、特別な支援を要する子ども及びその家庭に対する支援(3-2) (グループディスカッション)

	予習：教科書を読み、特別な支援を要する子育て家庭の状況について調べる(100分) 復習：支援を要する家庭の状況に対する支援の要点をノートにまとめる(100分)
第12回	保育士の行う子育て支援とその実際（内容・方法・技術）③ 子ども虐待予防と対応（3-5） 予習：教科書を読み、子ども虐待の現状について調べる(100分)（グループディカッション） 復習：子ども虐待の予防と具体的な対応について説明できるように考えをまとめる（100分）
第13回	保育士の行う子育て支援とその実際（内容・方法・技術）④ 要保護児童等の家庭に対する支援（3-6）、多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解（3-7）（プレゼンテーション） 予習：教科書を読み、要保護児童等の家庭に状況について調べる(100分) 復習：要保護児童等の家庭に対する支援について考えをまとめる(100分)
第14回	保育士が担う子育て支援の総括 子育て支援の現状と課題（終章） 予習：保育士が担う子育て支援の課題について考えをまとめる（100分） 復習：授業全体を総括し、レポートの要点をまとめる（100分）

成績評価方法・基準	・対面時の評価方法 保育の専門性を背景とした子育て支援の特性と展開について理解を問うレポート60%、演習課題を通して考えをまとめる授業課題20%、グループワークへの参加態度20%を合計して評価する。授業課題は、適宜返却し解説する。 ・オンライン授業での評価方法 保育の専門性を背景とした子育て支援の特性と展開について理解を問うレポート60%、演習課題を通して考えをまとめる授業課題40%を合計して評価する。授業課題は、適宜返却し解説する。
-----------	--

書名	著者	出版社	ISBN	備考
『保育者のための子育て支援入門』	園川緑・中島洋綱著	萌文書林	978-4-89347-379-0	2021年発行
参考書				
その他	連絡先 gaja@edogawa-u.ac.jp			
参考URL				

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	母子生活支援等、社会的養育の場に20余年にわたり従事
学生を主体とする教育方法の実践	PBL(課題解決型学習) / ディスカッション、ディベート / グループワーク / プレゼンテーション
ディプロマ・ポリシーとの関連性	こどもコミュニケーション学科(1) / こどもコミュニケーション学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	高橋 克(T-0103)		履修開始年次	1年	単位※1	2単位
年度	2022年度	科目名	生涯学習論I			
学期※2	2022年度前期		学校区分	大学		
科目群	1群		区分(授業形態)	週間授業		
副題	生涯学習の現状と課題					
授業の概要	生涯学習及び社会教育の本質について理解するとともに、学習者の特性や各種教育の連携についてなど、広く生涯学習に関する事項について学び検証する。また、主体的に学習する人たちの社会のありかたを学び考察する。 通常は対面授業ですが、新型コロナウイルス感染症拡大時の対策として、エドクラテスとGoogle meetでのテオンラインでの授業実施となります。					
到達目標	生涯学習の意義や方法や施設の現状などを学び、説明できること。					

授業内容及び準備学習(予習・復習)の内容

第1回	「生涯学習」の位置づけー私たちを取り巻く学習環境ー 予習：生涯学習と自身の関わりを調べておく。(100分) 復習：自身の生涯学習の実際を系統的に説明できるようにまとめる。(100分)
第2回	「生涯学習」の意義 予習：生涯学習の必要性について調べておく。(100分) 復習：生涯学習の必要性をまとめ説明できるようにまとめる。(100分)
第3回	生涯学習(教育)論：生涯学習(教育)論の理念の出現(諸外国の事例から) 予習：生涯学習という言葉の使われた歴史を調べておく。(100分) 復習：生涯学習の出現した歴史を説明できるようにまとめる。(100分)
第4回	生涯学習と教育(1)：生涯学習と家庭教育の動向について 予習：家庭での教育の具体的事例を調べておく。(100分) 復習：生涯学習における家庭教育の重要性を説明できるようにまとめる。(100分)
第5回	生涯学習と教育(2)：生涯学習と学校教育の動向について 予習：学校教育と社会との関わりを調べておく。(100分) 復習：生涯学習における学校教育の重要性を説明できるようにまとめる。(100分)
第6回	生涯学習と教育(3)：生涯学習と社会教育の動向について 予習：社会教育施設の現在の動向について調べておく。(100分) 復習：社会教育と生涯学習についてまとめ説明できるようにする。(100分)
第7回	生涯学習と教育(4)：生涯学習と各種教育の連携について 予習：生涯に受けることの可能な学習機会について調べておく。(100分) 復習：生涯学習における様々な連携した学習機会を説明できるようにまとめる。(100分)
第8回	社会教育の概要(1)：日本の社会教育の歴史と社会教育の発展過程 予習：日本における社会教育について調べておく。(100分) 復習：日本の社会教育について説明できるようにまとめる。(100分)
第9回	社会教育の概要(2)：一般的・法制的概念から見た社会教育の対象・範囲 予習：社会教育法の条文を読み込んでおく。(100分) 復習：社会教育法のもとの社会教育機関について説明できるようにまとめる。(100分)
第10回	生涯学習の活動と評価(1)：学びたいという意欲・意志に基づいた学習の内容、方法、形態について 予習：学校以外の学習機会を提供している機関について調べておく。(100分) 復習：生涯学習の多様性について説明できるようにまとめる。(100分)
第11回	生涯学習の活動と評価(2)：学びたいという意欲・意志に基づいた学習の評価について 予習：生涯学習の評価のあり方について調べておく。(100分) 復習：生涯学習の評価のあり方について説明できるようにまとめる。(100分)
第12回	生涯学習と関連施設(1)：公共図書館の役割と日本の特質 予習：公共図書館の活動について調べておく。(100分) 復習：生涯学習社会における公共図書館の活動について説明できるようにまとめる。(100分)
第13回	生涯学習と関連施設(2)：公民館・コミュニティセンターの役割と歴史的意義 予習：公民館やコミュニティセンターの事業について調べておく。(100分) 復習：生涯学習社会における公民館やコミュニティセンターのあり方について説明できるようにまとめる。(100分)
第14回	生涯学習と関連施設(3)：博物館の現況と種類、博物館活動、教育普及活動などの総合的ネットワーク

予習：博物館の事業について調べておく。(100分)

復習：生涯学習社会における博物館の活動の意義について説明できるようにまとめる。(100分)

成績評価方法・基準	100点満点として、評価レポート40%、社会教育施設研究レポート30%、提出物・小テスト30%を目安として総合的に評価する。
参考書	配布プリント 生涯学習・社会教育行政研究会(編集)『生涯学習・社会教育行政必携』第一法規 井内 慶次郎(監修)『生涯学習「答申」ハンドブック』文憲堂
その他	授業に関する質問等は、エドクラテスもしくはメール (takahasi@edogawa-u.ac.jp)で、 できる範囲で生涯学習の場である施設を体験してください。
参考URL	

実務経歴	あり(実務経歴詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経歴を活用)
実務経歴詳細	県立高校に教諭として18年勤務。県立博物館に学芸員として3年勤務。県教育委員会生涯学習部文化財課に文化財主事として3年勤務。学校教育と社会教育、文化財保護行政の場で教育・研究・指導を実施。
学生を主体とする教育方法の実践	PBL(課題解決型学習)/プレゼンテーション/実習、フィールドワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(4)/現代社会学科(1)/メディアコミュニケーション学部(3)/メディアコミュニケーション学部(4)/メディアコミュニケーション学部(5)/マス・コミュニケーション学科(1)/情報文化学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	高橋 克(T-0103)		履修開始年次	1年	単位※1	2単位
年度	2022年度	科目名	生涯学習論II			
学期※2	2022年度後期		学校区分	大学		
科目群	1群		区分(授業形態)	週間授業		
副題	主体的に学習し生きることを学ぶ					
授業の概要	生涯学習及び社会教育の本質について理解するとともに、学習者の特性や各種教育の連携についてなど、主体的に学習する人たちの社会のありかたを学び考察する。 通常は対面授業ですが、新型コロナウイルス感染症拡大時の対策として、エドクラテスとGoogle meetでのテオンラインでの授業実施となります。					
到達目標	主体的に学習する人々のための生涯学習にかかわる様々な要件を学び、生涯にわたる学習の在り方を企画・提言できるようになることを目標とする。					

授業内容及び準備学習(予習・復習)の内容

第1回	我が国の生涯学習政策の動向について 予習：生涯学習と自身の関わりを調べておく。(100分) 復習：我が国の生涯学習性態を系統的に説明できるようにまとめる。(100分)
第2回	就職と生涯学習：就職した人の学習について 予習：就職後におこなう学習について調べておく。(100分) 復習：就職後にも学習が必要であることをまとめ説明できるようにまとめる。(100分)
第3回	生涯学習とボランティア活動について 予習：ボランティア活動の歴史と今日の現状を調べておく。(100分) 復習：ボランティア活動の生涯学習における重要性を説明できるようにまとめる。(100分)
第4回	学校開放の現状と課題：学校開放の歴史と理念 予習：学校開放の事例を調べておく。(100分) 復習：生涯学習における学校開放の重要性を説明できるようにまとめる。(100分)
第5回	放送大学と通信教育：放送大学の意義と内容を理解し、通信教育全般の今後の可能性を探る 予習：放送大学と通信教育の事例を調べておく。(100分) 復習：生涯学習における放送大学と通信教育の重要性を説明できるようにまとめる。(100分)
第6回	学習者の理解：学習者理解の基本的考え方と、学習者のタイプ、ペダゴジーとアンドラゴジーについて 予習：成人の学習理論について調べておく。(100分) 復習：ペダゴジーとアンドラゴジーについてまとめ説明できるようにする。(100分)
第7回	生涯学習の方法：生涯学習の方法のうちタイポロジーについて 予習：学習理論タイポロジーについて調べておく。(100分) 復習：学習理論タイポロジーについて説明できるようにまとめる。(100分)
第8回	女性学(1)：女性の社会的地位の歴史的変遷を概説し、女性の地位向上と社会教育の役割 予習：日本における女性の社会的地位について調べておく。(100分) 復習：日本における女性の社会的地位について説明できるようにまとめる。(100分)
第9回	女性学(2)：女性の社会的地位の歴史的変遷を概説し、女性の地位向上と社会教育の役割 予習：女性の地位向上のための政策を調べておく。(100分) 復習：女性の地位向上のために社会教育が果たした役割を説明できるようにまとめる。(100分)
第10回	高齢者と学習課題：高齢化社会の現状を認識し、高齢者教育のあり方 予習：日本社会の高齢化について調べておく。(100分) 復習：高齢化社会における生涯学習のありかたについて説明できるようにまとめる。(100分)
第11回	生涯学習の援助者：社会教育施設の意義と専門職員の役割と専門性 予習：社会教育施設の専門職員の職務について調べておく。(100分) 復習：社会教育施設の専門職員の職務について説明できるようにまとめる。(100分)
第12回	生涯学習発展の国際的動向について学ぶ。 予習：生涯学習社会とは何かについて調べておく。(100分) 復習：全世界に広がる生涯学習社会について説明できるようにまとめる。(100分)
第13回	グローバル化時代の生涯学習について考える。 予習：学びのグローバル化について調べておく。(100分) 復習：生涯学習社会の広がりについて説明できるようにまとめる。(100分)

第14回	生涯学習社会のあり方を提言する 予習：バリアフリーな生涯学習社会の現状について調べておく。(100分) 復習：バリアフリーな生涯学習社会の将来像を説明できるようにまとめる。(100分)
成績評価方法・基準	100点満点として、社会教育施設研究レポート20%、社会教育施設研究の発表50%、社会教育施設の研究発表の評価まとめ30%を目安として総合的に評価する。
参考書	配布プリント 生涯学習・社会教育行政研究会(編集)『生涯学習・社会教育行政必携』 第一法規 井内 慶次郎(監修)『生涯学習「答申」ハンドブック』 文憲堂
その他	授業に関する質問等は、エドクラテスもしくはメール (takahasi@edogawa-u.ac.jp)で。
参考URL	
実務経験	あり(実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用)
実務経験詳細	県立高校に教諭として18年勤務。県立博物館に学芸員として3年勤務。県教育委員会生涯学習部文化財課に文化財主事として3年勤務。学校教育と社会教育、文化財保護行政の場で教育・研究・指導を実施。
学生を主体とする教育方法の実践	プレゼンテーション/実習、フィールドワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(4)/現代社会学科(1)/メディアコミュニケーション学部(4)/メディアコミュニケーション学部(5)/マス・コミュニケーション学科(1)/情報文化学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	守屋 志保(D-0402)		履修開始年次	1年	単位※1	2単位
年度	2022年度	科目名	健康・スポーツ科学/健康・スポーツ科学I			
学期※2	2022年度前期		学校区分	大学		
科目群	1群		区分(授業形態)	週間授業		
副題	スポーツを通じてコミュニケーション能力を身につける。					
授業の概要	<p>スポーツを文化としてとらえ、その魅力を探るとともに、現代社会の現状と課題をあげ、コミュニケーション、チームワークなどスポーツを切り口に問題解決する方法を検討する。また、スポーツを健康・体力作りの視点でとらえ、運動生理学やスポーツ医学、栄養学的な知見を手がかりに私たちの生活の中でスポーツや身体運動とどのように関わっていったらいいのかを考察する。</p> <p>オンライン授業の場合は、Class room でシラバスに沿って授業を行う。また、実践の部分は、各自で運動実践のプランを立てて行い、自身の気づきを深める。また、実践のフィードバックを行い、プレゼンテーション能力を養う。</p>					
到達目標	<p>こどもコミュニケーション学科のディプロマポリシーである「情報を正確に捉え、的確に伝えるコミュニケーション能力を備える」にそって、スポーツを健康・体力づくりの視点でとらえ、身体に対しての気づき、健康に対して適切な知識を身につける。また、グループで活動していく中で、周囲の状況を的確に捉え、コミュニケーション能力、協調性などのスキルを身につける。</p>					

授業内容及び準備学習(予習・復習)の内容

第1回	<p>文化としてのスポーツのとらえ方 スポーツの価値について考え、理解する。 予習：自身が行ってきたスポーツからどのようなことが得られたかについて、論議できるように準備をする。 復習：他の学生が述べたスポーツの価値について自身の考えと比較検討を行う。</p>
第2回	<p>現代社会とスポーツ 現代社会におけるスポーツの役割について理解する。 予習：現代社会におけるスポーツの役割について調べておく。 復習：現代社会におけるスポーツの役割について説明できる。</p>
第3回	<p>運動生理学とスポーツ 運動生理学の考え方 運動生理学についての理解 予習：運動生理学について調べておく。 復習：授業内での学習をノートに整理する。</p>
第4回	<p>運動生理学とスポーツ 運動生理学を活かした健康・体力づくり 体力についての理解 予習：体力の定義について調べておく。 復習：授業内での学習をノートに整理する。</p>
第5回	<p>球技の理論と実技 基本技術の習得 バスケットボール競技を通じて、基本技術の習得を行う。 予習：バスケットボール競技について調べる。 復習：バスケットボール競技の基本技術について説明できる。</p>
第6回	<p>球技の理論と実技 基本技術の習得と組み合わせ バスケットボール競技を通じて、基本技術の習得を行う。 予習：バスケットボール競技の基本技術の映像などを見る。 復習：バスケットボール競技の基本技術について説明できる。</p>
第7回	<p>球技の理論と実技 ゲーム運営の基本 コミュニケーションをとり、ゲーム運営を行う。 予習：ルールについて調べる。 復習：ゲームの内容について振り返る。</p>
第8回	<p>球技の理論と実技 ゲーム運営 コミュニケーションをとり、ゲーム運営を行う。 予習：ルールについて調べる。 復習：ゲームの内容について振り返る。</p>
第9回	<p>球技の理論と実技 ゲーム運営と評価 コミュニケーションをとり、ゲームの内容を改善するための方法を考え、チームで修正を行う。 予習：以前に行ったゲームについて振り返る。 復習：修正した内容が適切であったか考える。</p>
第10回	<p>球技の理論と実技 評価の活用とゲーム運営 コミュニケーションをとり、ゲームの内容を改善するための方法を考え、チームで修正を行う。 予習：以前に行ったゲームについて振り返る。 復習：修正した内容が適切であったか考える。</p>

第11回	栄養とスポーツ 栄養の考え方 栄養とスポーツとの関係について理解する。 予習：栄養の基礎知識を調べる 復習：スポーツとの関連性について説明できる。
第12回	栄養とスポーツ 栄養を活かした健康・体力づくり 栄養の重要性について理解する。 予習：栄養の基礎知識を調べる。健康・体力づくりには、栄養が重要だということを理解する。 復習：スポーツとの関連性について説明できる。
第13回	医学とスポーツ 人体の基礎 スポーツ医学の基礎を理解する。 予習：スポーツ医学の基礎知識を調べる。スポーツによって起こりうる怪我について調べる。 復習：授業内容をノートに整理する。
第14回	医学とスポーツ 医学知識を活かした健康・体力づくり スポーツ医学の基礎を理解する。 予習：スポーツ医学の基礎知識を調べる。 復習：授業内容をノートに整理する。
成績評価方法・基準	対面授業ができた場合：実技試験（30%）、授業における小レポート（50%） 実技への取り組みとチームワークを高めるためのコミュニケーション・リーダーシップ能力（20%） オンライン授業の場合：各授業における小レポート（50%）、運動実践での取り組み（50%） 小レポートにおいては、基礎知識が理解されているかを主に評価し、実技においては、周囲の状況を的確に捉え、コミュニケーションがとれているか、またチームワークを高めるための行動がとれているのかを評価の対象とする。 また授業のフィードバックに関しては、Google class room を用いて行います。
参考書	
その他	対面授業ができるようであれば、実技を実施し、できないようであれば、各自で行う運動実践に切り替えて授業を行います。 授業に関する質問等は moriya@edogawa-u.ac.jp でお願います。
参考URL	
実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	第一勧業銀行、富士通にて、女子バスケットボールの日本リーグで選手としてプレイした経験を全ての授業で活用する。 <実務経験のある教員等>
学生を主体とする教育方法の実践	グループワーク/実習、フィールドワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	こどもコミュニケーション学科(1)/こどもコミュニケーション学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	守屋 志保(D-0402)		履修開始年次	2年	単位※1	2単位
年度	2022年度	科目名	スポーツ心理学I			
学期※2	2022年度前期		学校区分	大学		
科目群	経2群		区分(授業形態)	週間授業		
副題	アスリートの競技力向上を心理的な面から分析し、現場に応用する					
授業の概要	スポーツを行う際に、よく聞かれるのが、心・技・体という言葉である。技術・体力に関しては、誰もが、取り組み、目に見えて効果が現れる。では、「心」については、どうだろうか？練習では、出来ているが、試合では、実力を発揮できない。これは、誰もが持っている悩みである。そこで、スポーツ心理学Iでは、スポーツを心理学的視点から科学的にとらえ、自分自身の心の動きについての基礎知識を学び、スポーツをする際に役立てられるように検討していく。					
到達目標	社会学部のディプロマポリシーである「専門的知識を身につけ、知識と体験を元に批判的かつ洞察的に思考し判断すること」の沿って、アスリートが競技力向上するためにスポーツ心理学分野における基礎知識を得て、その知識を元にパフォーマンスを洞察的に観察し、課題を抽出して実践に応用することを目的とする。					

授業内容及び準備学習(予習・復習)の内容

第1回	スポーツ心理学とは スポーツ心理学の歴史・スポーツ心理学がどのように発展してきたのかを理解する。 予習：スポーツ心理学の歴史について調べる。(100分) 復習：授業で行った内容をノートに整理して説明できるようにする。(100分)
第2回	コンディショニング(パフォーマンスを高めるために) スポーツコンディショニングの定義について 予習：コンディショニングの定義について調べる。(100分) 復習：授業で行った内容をノートに整理し、自身の1週間の心身のコンディショニングについて記録する。(100分)
第3回	コンディショニング(心理的コンディショニングの重要性) 心理的コンディショニングの定義と重要性 予習：心理的コンディショニングについて調べる。(100分) 復習：自身の心理的コンディショニングを実際に行ってみて、自身の心の変動を確認する。(100分)
第4回	自己分析(アンケートを用いて) 心理的競技能力と心理的競技能力検査(DIPCA.2)の内容の理解 予習：スポーツ選手にとって必要だとされる心理的競技能力について調べる。(100分) 復習：授業で行ったことをノートに整理し、自身の心理的競技能力について分析してみる。(100分)
第5回	スポーツの価値について考える。 スポーツの価値について学び、ディスカッションを行う。 予習：スポーツが自分にとってどのような価値があるのかについて考える。(100分) 復習：授業を終えてみて、他の人たちの意見を聞き、改めて、スポーツの価値について再考する。(100分)
第6回	心的エネルギーの管理(心的エネルギーと感情の関係) 心的エネルギーを管理することが競技力を高める上で重要な役割を果たすことを知り、現状を知り、改善点を見つけ出す。 予習：心的エネルギーと結びついている感情について調べる。(100分) 復習：授業で行ったことをノートに整理する。(100分)
第7回	心的エネルギーの管理(心的エネルギーのコントロール法) 心的エネルギーについての理解 予習：スポーツ中のどのような場面で自身がどのような感情になっているのか、視解し言語化する。(100分) 復習：自身の心的エネルギーについて気づきを深め、パフォーマンスと深く結びついていることを再度理解する。(100分)
第8回	スポーツ不安の理解 予習：スポーツ不安の定義について調べる。(100分) 復習：スポーツ不安とはなぜ起こるのかというメカニズムを知り、自身の経験と照らし合わせる。(100分)
第9回	スポーツ不安の測定と特性不安・状態不安の理解 予習：スポーツ不安について説明できる。(100分) 復習：授業の内容をノートに整理する。(100分)
第10回	ストレスの理解 ストレスとはどのように生じるのか、また、ストレスによってどのような変化が生じるのかについて理解する。 予習：ストレスの定義について調べる。(100分) 復習：自身のストレスの原因は何にあるのか、ストレスが生じるメカニズムについて理解し、説明できるようにノートにまとめる。(100分)
第11回	スポーツにおけるストレスの理解 スポーツ場面におけるストレスコントロールの方法を学ぶ。

	<p>予習：実際にスポーツを映像で見る。(100分) 復習：実際のスポーツ場面で起こっているストレスについて観察する。(100分)</p>
第12回	<p>自己コントロール スポーツ場面での自己コントロールの重要性を理解する。 予習：実際にスポーツを映像で見る。(100分) 復習：授業の内容をノートに整理する。(100分)</p>
第13回	<p>集団凝集性についての理解 集団凝集性(チームワークとは、組織の発達段階)を理解する。 予習：集団凝集性の定義について調べる。(100分) 復習：授業の内容をノートに整理する。現在の自分の状況に当てはめて、集団凝集性について理解する。(100分)</p>
第14回	<p>総括 スポーツパフォーマンスと心理的要因との関連性についての理解 予習：それぞれの心理的要因がパフォーマンスと結びついていることを理解する。(100分) 復習：前期の授業のノートを復習する。(100分)</p>
成績評価方法・基準	<p>対面で行う場合：期末レポート50%、毎回の授業小課題30%、平常点20% の総合評価。 期末レポート、小課題においては、ディプロマポリシーである「専門的知識を身につけ、知識と体験を元に批判的かつ洞察的に思考し判断すること」に沿って、基礎知識が理解されているか、また経験を知識元にパフォーマンスを洞察的に観察できているかについて評価を行う。 オンラインで行う場合：定期試験、毎回の授業小課題35%、平常点15%等の総合評価。(授業中の様子が全て確認できないため、割合が変わります。)</p>
参考書	<p>1) 「よくわかるスポーツ心理学」中込四郎・伊藤豊彦・山本祐二編著 ミネルヴァ書房 2) 「最新 スポーツ心理学 その軌跡と展望」日本スポーツ心理学会編</p>
その他	
参考URL	
実務経験	あり(実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用)
実務経験詳細	実際のスポーツ現場でスポーツ心理学を用いてスポーツコーチングを行っているため、その経験も授業内に反映される。
学生を主体とする教育方法の実践	PBL(課題解決型学習) / グループワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(1) / 社会学部(3)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	井上 一郎(T-0302)			履修開始年次	カリキュラムにより異なります。	単位※1	2単位
年度	2022年度	科目名	メディア産業論I				
学期※2	2022年度前期			学校区分	大学		
科目群	マ2群			区分(授業形態)	週間授業		
副題	マスメディアを中心としたメディア産業についての理解と課題の認識						
授業の概要	<p>メディア産業はかつてない構造変化の中にあります。メディア産業論Iにおいては、特に伝統的なメディアであるテレビ、ラジオ、新聞、雑誌の各メディア産業の発展過程(海外～国内)および隣接するイベント業界、広告業界等に注目し、これまでの発展過程と産業構造および課題について理解し、同時に、今後の可能性について議論していきます。</p> <p>また、学生自身が多面的に考察できるように、座学的な講義だけでなく、各メディアの特定の課題について異なる立場に分かれ議論するディベート(討論)方式のアクティブラーニング(演習)を実施します。演習は、受講者数に応じてグループ演習または個人演習となりますが、いずれの場合においても授業外における準備学習と復習が必須となります。</p> <p>【新型コロナ対策から「オンライン」にて講義が実施される場合の補足】 ※対面でもオンラインでも授業時間に変更はありません。 ※オンラインツールは、Google meets、エドクラテス、グーグルフォームを使用します。</p>						
到達目標	<p>本講義の到達目標は、テレビ、ラジオ、新聞、雑誌各メディア産業および隣接するイベント業界、広告業界等の発展過程(海外～国内)、産業構造を学ぶことで、各メディア産業の役割や課題について理解し他者に説明できることです(下記学部、学科目標に対応)。</p> <p>メディアコミュニケーション学部 1知識と体験を基に、批判的かつ洞察的に思考し判断することができる。 2教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている。 3自己の意見を適切に表現し、他者に配慮しながら積極的にコミュニケーションできる。 4コンピュータや情報環境を様々な活動に活用することができる。 6新しい時代を豊かに生き抜くため、溢れる情報を正確に判断・選別しうる能力と、的確に伝える能力を修得している。 7多様化した現代社会において、メディアコミュニケーション及び社会的関係性の全容を理解し、自ら情報を発信することができる能力を修得している。</p> <p>マスコミュニケーション学科 1現代社会に溢れる情報を「正確にとらえ、的確に伝える」ことができる。 2新しい国際化時代のコミュニケーション活動を担う、マスメディアに関する専門性を身につけている</p>						

授業内容及び準備学習(予習・復習)の内容	
第1回	<p>ガイダンス～メディアとは何か</p> <p>予習：シラバスについて事前に調べ、疑問点について質問できるようにしておく(100分程度) 復習：オリエンテーションおよび講義内容について復習し、自分の講義ノートを完成させる(120分程度)</p>
第2回	<p>新聞業界：歴史とビジネス：編集と販売と広告そして電子版</p> <p>予習：各回に関連するメディアや業界について事前に調べ、疑問点について質問できるようにしておく(100分程度)。 復習：講義でアップされたテキストを復習したり、講義でテーマとなったメディアについて調べたりして、不明な点をまとめ、自分の講義ノートを完成させる。(120分程度)。</p>
第3回	<p>新聞社のデジタルへの取り組み(新聞電子版は有望か)</p> <p>【レポート課題】 「新聞電子版は有望か」をテーマにしたレポート課題を課します。</p> <p>予習：新聞各社電子版の特徴(無料版と有料版の違い、紙との違いなど)について調べる(120分程度)。 復習：次週の演習の向けて人に説明できるようにレポートを作成する(180分程度)</p>
第4回	<p>グループ演習①新聞のデジタル版は有望か?</p> <p>予習：各新聞社のデジタル版について事前に調べる(120分程度) 復習：自分たちの提案内容をブラッシュアップする(120分程度)</p>
第5回	<p>グループ演習②プレゼン</p> <p>予習：他者にわかりやすく説明できるように各自準備する 復習：各班のプレゼン内容から新聞デジタル版の可能性と課題について再確認する(120分程度)</p>
第6回	<p>出版業界：歴史と種類</p>

	<p>予習：各回に関連するメディア・コミュニケーション産業について事前に調べ、疑問点について質問できるようにしておく（100分程度） 復習：講義でアップされたテキストを復習しながら講義でテーマとなったメディア・コミュニケーション産業について調べ、不明な点をまとめ、自分の講義ノートを完成させる（120分程度）</p>
第7回	<p>出版社のビジネス：委託販売と再販制度そして電子出版</p> <p>予習：各回に関連するメディア・コミュニケーション産業について事前に調べ、疑問点について質問できるようにしておく（100分程度） 復習：講義でアップされたテキストを復習しながら講義でテーマとなったメディア・コミュニケーション産業について調べ、不明な点をまとめ、自分の講義ノートを完成させる（120分程度）</p>
第8回	<p>ラジオ業界：歴史と種類とビジネスモデル</p> <p>予習：各回に関連するメディア・コミュニケーション産業について事前に調べ、疑問点について質問できるようにしておく（100分程度） 復習：講義でアップされたテキストを復習しながら講義でテーマとなったメディア・コミュニケーション産業について調べ、不明な点をまとめ、自分の講義ノートを完成させる（120分程度）</p>
第9回	<p>テレビ業界：歴史と種類とビジネスモデル</p> <p>予習：各回に関連するメディア・コミュニケーション産業について事前に調べ、疑問点について質問できるようにしておく（100分程度） 復習：講義でアップされたテキストを復習しながら講義でテーマとなったメディア・コミュニケーション産業について調べ、不明な点をまとめ、自分の講義ノートを完成させる（120分程度）</p>
第10回	<p>テレビ局の具体的な取引方法①（広告収入コンテンツ販売収入など）</p> <p>予習：各回に関連するメディア・コミュニケーション産業について事前に調べ、疑問点について質問できるようにしておく（100分程度） 復習：講義でアップされたテキストを復習しながら講義でテーマとなったメディア・コミュニケーション産業について調べ、不明な点をまとめ、自分の講義ノートを完成させる（120分程度）</p>
第11回	<p>テレビ局の具体的な取引方法②（視聴率の仕組み等）</p> <p>予習：各回に関連するメディア・コミュニケーション産業について事前に調べ、疑問点について質問できるようにしておく（100分程度） 復習：講義でアップされたテキストを復習しながら講義でテーマとなったメディア・コミュニケーション産業について調べ、不明な点をまとめ、自分の講義ノートを完成させる（120分程度）</p>
第12回	<p>広告業界：歴史と種類とビジネスモデル</p> <p>予習：各回に関連するメディア・コミュニケーション産業について事前に調べ、疑問点について質問できるようにしておく（100分程度） 復習：講義でアップされたテキストを復習しながら講義でテーマとなったメディア・コミュニケーション産業について調べ、不明な点をまとめ、自分の講義ノートを完成させる（120分程度）</p>
第13回	<p>イベント業界、印刷業界の産業動向</p> <p>予習：各回に関連するメディア・コミュニケーション産業について事前に調べ、疑問点について質問できるようにしておく（100分程度） 復習：講義でアップされたテキストを復習しながら講義でテーマとなったメディア・コミュニケーション産業について調べ、不明な点をまとめ、自分の講義ノートを完成させる（120分程度）</p>
第14回	<p>講義で学んだメディア産業についての質疑および確認テスト</p> <p>予習：これまでの講義内容について復習し、確認テストに備える（180分程度） 復習：確認テストで不明瞭だった点を復習する。（120分程度）</p>

成績評価方法・基準	<p>到達目標に対する達成状況を下記にて評価する。</p> <p>1)授業への参加度 30% (①+②=最大30点まで加点) ①リアクションペーパー：1回2点（各回の授業内容について理解したこと書いて提出）→到達目標(学部1,2,4)(学科1,2)に対応 ②教員の質問に対する回答、建設的な発言・質問：1回2点（1講義2回分=最大4点まで加点→到達目標(学部1.2,3,6,7)(学科1,2)に対応</p> <p>2)レポート課題1回（第3回に提出）10%：10点満点→到達目標(学部1,2,4,6,7)(学科1,2)に対応</p> <p>3)授業内確認テスト 60%：第14回に実施（60点満点）→到達目標(学部1,2)(学科1,2)に対応</p>
-----------	---

参考書	
その他	<p>井上が作成したテキスト（パワーポイント）を、講義内で画面に提示しながら進める。原則として講義終了後にエドクラテスにアップする。（pdfファイル）</p> <p>本講義では、学生によるグループ演習を適時実施しますので講義への積極的な参加が求められます。（特に複数週にまたがるグループ演習の欠席は他の学生の迷惑になりますので欠席は厳禁です。）</p>

【教員への連絡手段】
教員に連絡が必要な場合は、下記メールアドレス宛に連絡してください
inouei@edogawa-u.ac.jp

参考URL

実務経験 あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）

【略歴】
1989年総合広告会社第3位旭通信社（現ADKマーケティングソリューションズ）入社、出版社宣伝会議（月刊販促会議編集長）、2004年ADK複社（第1クロスコミュニケーション局長、商材開発室長、ADKソーシャルデザインラボ所長など）を経て2017年4月より江戸川大学（メディアコミュニケーション学部）に転じ、現在に至る。現在も一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会 評議員、経済産業省 製造産業局生活製品課 伝統的工芸品産業室 伝統的工芸品功労者等表彰審査委員、WOMマーケティング協議会理事長などを務める。

【主な実務実績】
VISAイタナショナル（クレジットカードの日常での普及促進）
BMW（1シリーズ日本導入キャンペーン）
ユニリーバ（リプトン、dove新製品キャンペーン）
東急ハンズ（リブランディング、リニューアルキャンペーン）
大塚食品クリスタルガイザー（リブランディングキャンペーン）
東北震災復興支援ボランティアインフォメーションプロジェクト
コスモ石油エコカード基金（コンサルティング）
大塚ホールディングス（CSRコンサルティング）
三井広報委員会（三井ゴールデン匠賞の創設）

学生を主体とする教育方法の実践 PBL(課題解決型学習) / ディスカッション、ディベート / グループワーク / プレゼンテーション

ディプロマ・ポリシーとの関連性 メディアコミュニケーション学部(1) / メディアコミュニケーション学部(2) / メディアコミュニケーション学部(3) / メディアコミュニケーション学部(4) / メディアコミュニケーション学部(6) / メディアコミュニケーション学部(7) / マス・コミュニケーション学科(1) / マス・コミュニケーション学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	井上 一郎(T-0302)		履修開始年次	カリキュラムにより異なります。	単位※1	2単位
年度	2022年度	科目名	メディア産業論II			
学期※2	2022年度後期		学校区分	大学		
科目群	マ2群		区分(授業形態)	週間授業		
副題	コンテンツおよびインターネット、ソーシャルメディア産業についての理解と課題の認識					
授業の概要	<p>メディア産業はかつてない構造変化の中にあります。メディア産業論IIにおいては、前半は、コンテンツ産業の中核をなす映画、音楽、アニメ、キャラクターについて、後半は、すべてのメディアに影響を与えるインターネット産業に注目し、これまでの発展過程と産業構造および課題について理解し、同時に、今後の可能性について議論していきます。特に、後半は、発展著しいソーシャルメディア、SNSの功罪について検討しながら、メディアリテラシーの重要性についても解説します。</p> <p>学生自身が多面的に考察できるように、座学的な講義だけでなく、ディベート(討論)型の演習に加えて、新しいSNSサービスを検討するアイデア発想ワークショップを実施します。演習は、受講者数に応じてグループ演習または個人演習となりますが、いずれの場合においても授業外における準備学習が必須となります。他に適時、講義時間外における観察やレポート(ミニ課題)を課します。</p> <p>【新型コロナ対策から「オンライン」にて講義が実施される場合の補足】 ※対面でもオンラインでも授業時間に変更はありません。 ※オンラインツールは、Google meets、エドクラテス、グーグルフォームを使用します。</p>					
到達目標	<p>本講義の目標は、前半は、コンテンツ産業の中核をなす映画、音楽、アニメ、キャラクターについて、後半は、すべてのメディアに影響を与えるインターネット産業を学ぶことで、各産業の役割や課題について理解し、他者に説明できるようになることです(下記学部、学科目標に対応)。</p> <p>メディアコミュニケーション学部 1知識と体験を基に、批判的かつ洞察的に思考し判断することができる。 2教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている。 3自己の意見を適切に表現し、他者に配慮しながら積極的にコミュニケーションできる。 4コンピュータや情報環境を様々な活動に活用することができる。 6新しい時代を豊かに生き抜くため、溢れる情報を正確に判断・選別しうる能力と、的確に伝える能力を修得している。 7多様化した現代社会において、メディアコミュニケーション及び社会的関係性の全容を理解し、自ら情報を発信することができる能力を修得している。</p> <p>マスコミュニケーション学科 1現代社会に溢れる情報を「正確にとらえ、的確に伝える」ことができる。 2新しい国際化時代のコミュニケーション活動を担う、マスメディアに関する専門性を身につけている。</p>					

授業内容及び準備学習(予習・復習)の内容

第1回	<p>メディアとコンテンツとの関係</p> <p>予習: シラバスについて事前に調べ、疑問点について質問できるようにしておく(100分程度) 復習: オリエンテーションおよび講義内容について復習し、自分の講義ノートを作成させる(120分程度)</p>
第2回	<p>音楽産業①: 歴史とビジネスモデル</p> <p>予習: 各回に関連するメディア・コミュニケーション産業について事前に調べ、疑問点について質問できるようにしておく(100分程度) 復習: 講義でアップされたテキストを復習しながら講義でテーマとなったメディア・コミュニケーション産業について調べ、不明な点をまとめ、自分の講義ノートを作成させる。(120分程度)</p>
第3回	<p>音楽産業②: 音楽の現状と課題</p> <p>予習: 各回に関連するメディア・コミュニケーション産業について事前に調べ、疑問点について質問できるようにしておく(100分程度) 復習: 講義でアップされたテキストを復習しながら講義でテーマとなったメディア・コミュニケーション産業について調べ、不明な点をまとめ、自分の講義ノートを作成させる。(120分程度)</p>
第4回	<p>映画産業: 歴史とビジネスモデル①</p> <p>予習: 各回に関連するメディア・コミュニケーション産業について事前に調べ、疑問点について質問できるようにしておく(100分程度) 復習: 講義でアップされたテキストを復習しながら講義でテーマとなったメディア・コミュニケーション産業について調べ、不明な点をまとめ、自分の講義ノートを作成させる。(120分程度)</p>
第5回	<p>アニメ産業: 歴史とビジネスモデル②</p> <p>予習: 各回に関連するメディア・コミュニケーション産業について事前に調べ、疑問点について質問できるようにしておく(100分程度) 復習: 講義でアップされたテキストを復習しながら講義でテーマとなったメディア・コミュニケーション産業について調べ、不明な点をまと</p>

	め、自分の講義ノートを完成させる。(120分程度)
第6回	グループ演習：今後ヒットしそうなアニメジャンルを考えてみよう 予習：アニメ産業について事前に調べる(120分程度) 復習：自分たちの提案内容をブラッシュアップする(120分程度)
第7回	グループ演習：プレゼンテーション&講評(前半) 予習：他者にわかりやすく説明できるように各自準備する(120分程度) 復習：各班のプレゼン内容からアニメ産業の可能性と課題について再確認する(120分程度)
第8回	グループ演習：プレゼンテーション&講評(後半) 予習：他者にわかりやすく説明できるように各自準備する(120分程度) 復習：各班のプレゼン内容からアニメ産業の可能性と課題について再確認する(120分程度)
第9回	コンピューター産業：ハードからソフトへの変革 予習：コンピューター産業について事前に調べ、疑問点について質問できるようにしておく(100分程度) 復習：講義でアップされたテキストを復習しながら講義でテーマとなったメディア・コミュニケーション産業について調べ、不明な点をまとめ、自分の講義ノートを完成させる。(120分程度)
第10回	ネットワークの歴史とインターネットの登場 予習：SNS産業について事前に調べ、疑問点について質問できるようにしておく(100分程度) 復習：講義でアップされたテキストを復習しながら講義でテーマとなったメディア・コミュニケーション産業について調べ、不明な点をまとめ、自分の講義ノートを完成させる。(120分程度)
第11回	SNSを活用したビジネスと課題 予習：SNSについて事前に調べる(120分程度) 復習：SNSを活用したビジネスについてオンライン上で確認する(120分程度)
第12回	ステルスマーケティング：SNS上のステルスマーケティング事例共有 予習：WOMJガイドラインを熟読し、ステルスマーケティングの事例を探す ※レポート課題：「SNS上ステルスマーケティング事例」をレポートにして提出 復習：SNS上のステルスマーケティング事例のレポートを他者に説明できるように準備する(120分程度)
第13回	グループ演習：グループ毎にSNS上のステルスマーケティング事例を共有 予習：各自レポート内容をもとに他者にわかりやすく説明できるように練習する。またレポートを同じグループの人数分用意する(100分) 復習：他者のステマ事例からSNSを活用したコミュニケーションビジネスの可能性と課題について再確認する(120分程度)
第14回	講義で学んだメディア産業についての質疑および確認テスト 予習：これまでの講義内容について復習し、確認テストに備える(180分程度) 復習：確認テストで不明瞭だった点を復習する。(120分程度)
成績評価方法・基準	到達目標に対する達成状況を下記にて評価する。 1)授業への参加度 30% (①+②=最大30点まで加点) ①リアクションペーパー：1回2点(各回の授業内容について理解したこと書いて提出) →到達目標(学部1,2,4)(学科1,2)に対応 ②教員の質問に対する回答、建設的な発言・質問：1回2点(1講義2回分=最大4点まで加点) →到達目標(学部1.2,3,6,7)(学科1,2)に対応 2)レポート課題1回 10%：10点満点→到達目標(学部1,2,4,6,7)(学科1.2)に対応 3)授業内確認テスト 60%：第14回に実施(60点満点) →到達目標(学部1,2)(学科1,2)に対応
参考書	音楽産業 再成長のための組織戦略(八木 良太) 図解入門業界研究 最新音楽産業の動向(大川正義) WOMマーケティング協議会「ガイドライン」WEB版 https://www.womj.jp/85019.html 図解入門業界研究 最新映画産業の動向(中村恵二, 荒井幸博他)

	アニメ産業レポート（一般社団法人日本動画協会） 情報メディア白書（電通メディアイノベーションラボ）
その他	井上が作成したテキスト（パワーポイント）を、講義内で画面に提示しながら進める。原則として講義終了後にエドクラテスにアップする。（pdfファイル） 本講義では、学生によるグループ演習を適時実施しますので講義への積極的な参加が求められます。（特に複数週にまたがるグループ演習の欠席は他の学生の迷惑になりますので欠席は厳禁です。） 【教員への連絡手段】 教員に連絡が必要な場合は、下記メールアドレス宛に連絡してください inouei@edogawa-u.ac.jp
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	【略歴】 1989年総合広告会社第3位旭通信社（現ADKマーケティングソリューションズ）入社、2002年出版社宣伝会議（月刊販促会議編集長）、2004年ADK複社（第1クロスコミュニケーション局長、商材開発室長、ADKソーシャルデザインラボ所長など）を経て2017年4月より江戸川大学（メディアコミュニケーション学部）に転じ、現在に至る。現在も一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会 評議員、経済産業省 製造産業局 生活製品課 伝統的工芸品産業室 伝統的工芸品功労者等表彰審査委員、WOMマーケティング協議会理事長などを務める。 【主な実務実績】 VISAインターナショナル（クレジットカードの日常での普及促進） BMW（1シリーズ日本導入キャンペーン） ユニリーバ（リプトン、dove新製品キャンペーン） 東急ハンズ（リブランディング、リニューアルキャンペーン） 大塚食品クリスタルガイザー（リブランディングキャンペーン） 東北震災復興支援ボランティアインフォメーションプロジェクト コスモ石油エコカード基金（コンサルティング） 大塚ホールディングス（CSRコンサルティング） 三井広報委員会（三井ゴールデン匠賞の創設）
学生を主体とする教育方法の実践	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート／グループワーク／プレゼンテーション
ディプロマ・ポリシーとの関連性	メディアコミュニケーション学部(1)／メディアコミュニケーション学部(2)／メディアコミュニケーション学部(3)／メディアコミュニケーション学部(4)／メディアコミュニケーション学部(6)／メディアコミュニケーション学部(7)／マス・コミュニケーション学科(1)／マス・コミュニケーション学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。